

581

46

581-146



1200501522242

昭和四年八月一日發行

製鐵所參考資料

(第參拾九號)

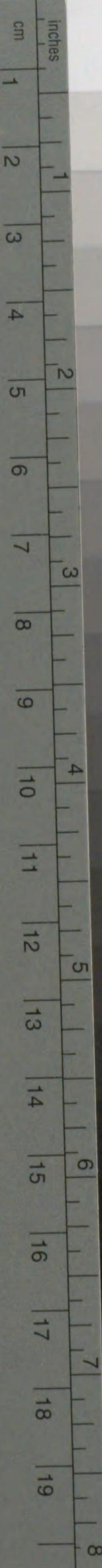
製鐵所總務部

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

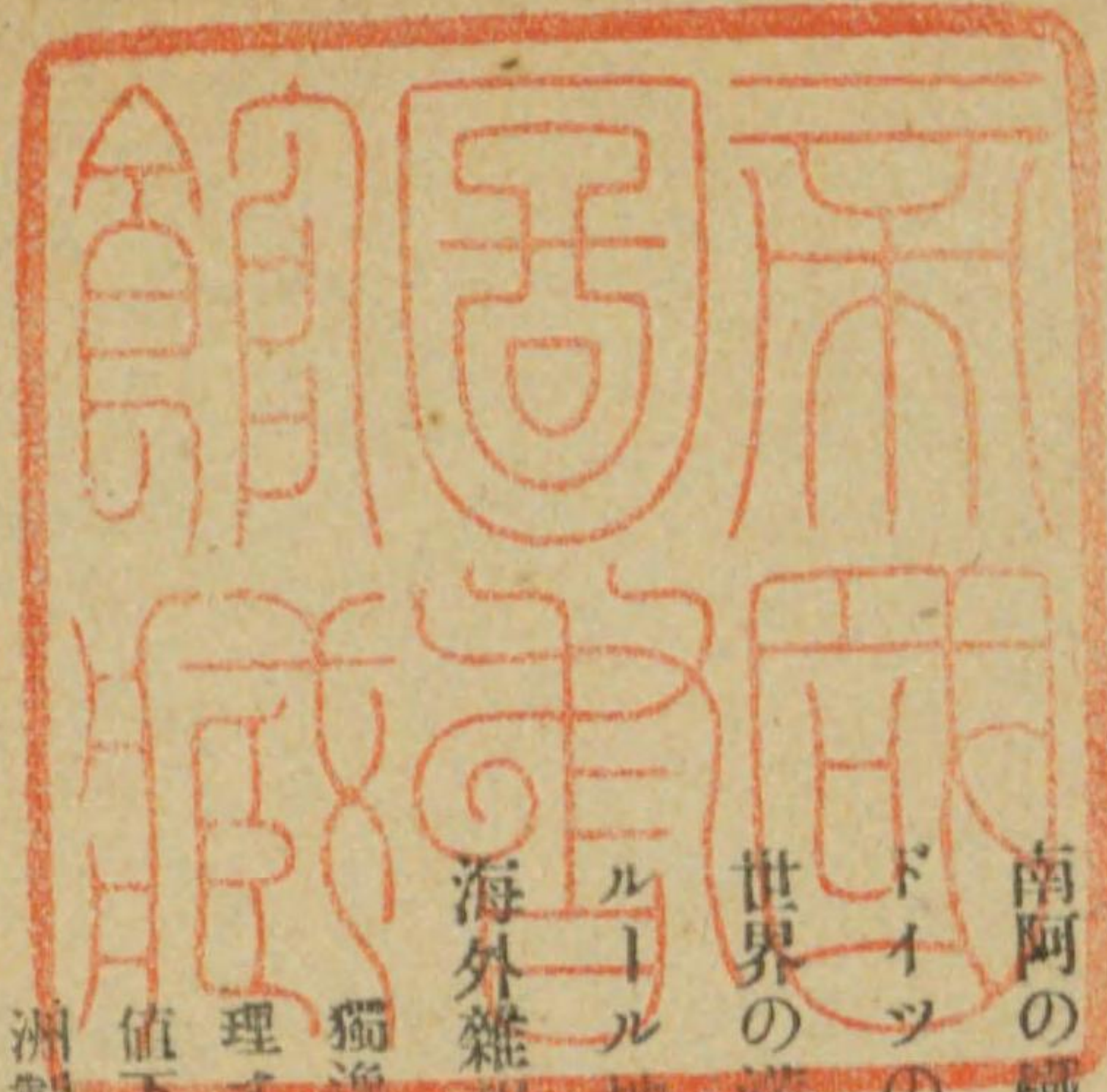


Kodak Color Control Patches



© Kodak, 2007 TM: Kodak

581-146



製鐵所參考資料第二十九號目次

世界の石炭工業問題……………一
 英米其他層鐵消費並供給に就て……………二七
 南阿の鐵鋼業……………五三
 ドイツの鐵經濟狀況……………六七
 世界の滿鐵礦業概況……………七七
 ルール地方の最新式骸炭工場……………八九
 海外雜報……………

獨逸炭礦業の罷業豫想と鐵鋼市況……………二〇
 國際ストリツアカルテルに出現せん……………二〇
 輸出を管
 理する新チユーアカルテル……………二一
 獨逸の賠償引渡額増加……………二三
 獨逸の自動車生産増加と價格
 値下……………二三
 多量の瑞典鐵石合衆國へ……………二三
 ERMAは今後IRMAと稱せらる……………二四
 歐
 洲製鋼及ルール・カルテル會合……………二四
 佛蘭西の勞力不足……………二五
 日本鐵鋼業に關する刊行物……………

…二七
 英國は軌條カルテルに於て其條件を與へられたり……………二八
 獨逸の無鋼鐵建物……………二六
 滿
 洲鐵鋼業……………二九
 獨逸の線材製造業者能力一ぱいに作業す……………三〇
 軌條組
 合價格値上の見込……………三三
 獨逸の國內鐵鋼價格値上……………三三
 白耳義及日本は獨逸の制動機を購入
 す……………三三
 露西亞は獨逸より厚板薄板及管を購入す……………

…三三
 賠償積出新レコードと日本の受高……………三三
 露西亞は獨逸より厚板薄板及管を購入す……………

…三三
 市俄古建築職工一日一弗增收……………三四
 伊太利多量の層鐵を輸入す……………三五
 賞金制度のメ



例言

- 一、本冊子ハ文書課ニ於テ抄譯シタル外字新聞若クハ雜誌中掲載ノ事項及ヒ其他ノ調査資料ニ就キ參考トナルヘキモノヲ撰ミ關係所員ニ頒タシカタメ謄寫ニ代ヘ印刷スルモノトス
- 二、本冊子ハ當務ノ參考ニ供スルヲ以テ目的トシ文字ノ彫琢編纂ノ體裁ニ於テ缺クル所少ナカラサルヘシ讀者之ヲ諒セヨ

製鐵所總務部

スレハム製鋼會社災害防止……二六

統計

合衆國に於ける急速なる重軌條の生産増加……二七 輕軌條の用途は絶えざるべし……二七 昭和三年の世界石炭産額減少……二九 合衆國銑鐵國別輸入額……二九 米國の自動車産額と鋼消費高……二九 一九二八年澳太利石炭産額……三三 一九二八年佛蘭西の鐵鋼實産額……三三 四月中英國の鐵鋼産額……三三 米國の鋼塊産額増大……三四 蘭領東印度の滿鐵輸出……三五 昭和三年佛蘭西の燃料産額……三七 昭和三年佛蘭西の鐵鋼材輸出……三七 昭和三年合衆國の石炭輸出額……三九 昭和三年加奈陀の鐵鋼産額……四三 昭和三年獨逸の鐵鋼、石炭、鐵石輸出入……四四 一月 中佛蘭西の鐵鋼石産額……四四 昭和三年アルゼリアの鐵鋼石輸出高……四五 昭和四年自一月至四月 合衆國鐵鋼材輸出入……四五 昭和四年自一月至四月佛蘭西鐵鋼材輸出入……四五 昭和四年自一月至四月獨逸の鐵鋼材輸出入……四六 昭和四年自一月至四月獨逸の壓延鋼材生産高……四六 昭和四年自一月至四月白耳義及ルクセンブルクの鐵鋼材輸出入……四六 一九二八年中加奈陀の鐵鋼石 統計……四六 昭和四年佛蘭西鐵鋼石産額と輸出……四六 昭和四年第一四半期間に於ける瑞典の鐵 鋼統計……四六 一九二八年中濠洲の鐵鋼産額……四六 昭和四年五月迄の英國鐵鋼輸出入統計…… 四六 昭和四年五月迄の合衆國資源別鐵石輸入高……四七 昭和四年上半期合衆國銑鐵産額……四七 昭和四年上半期合衆國の鋼塊産額……四七 米國層鋼、銑鐵及鋼成品價格比較統計……四七

附表

- 製鐵所並民間製鐵所鐵鋼材月別生産高表
- 世界國別鐵鋼産額
- 各國鐵鋼及石炭月別生産統計
- 昭和三年合衆國鐵鋼石資源並配給圖

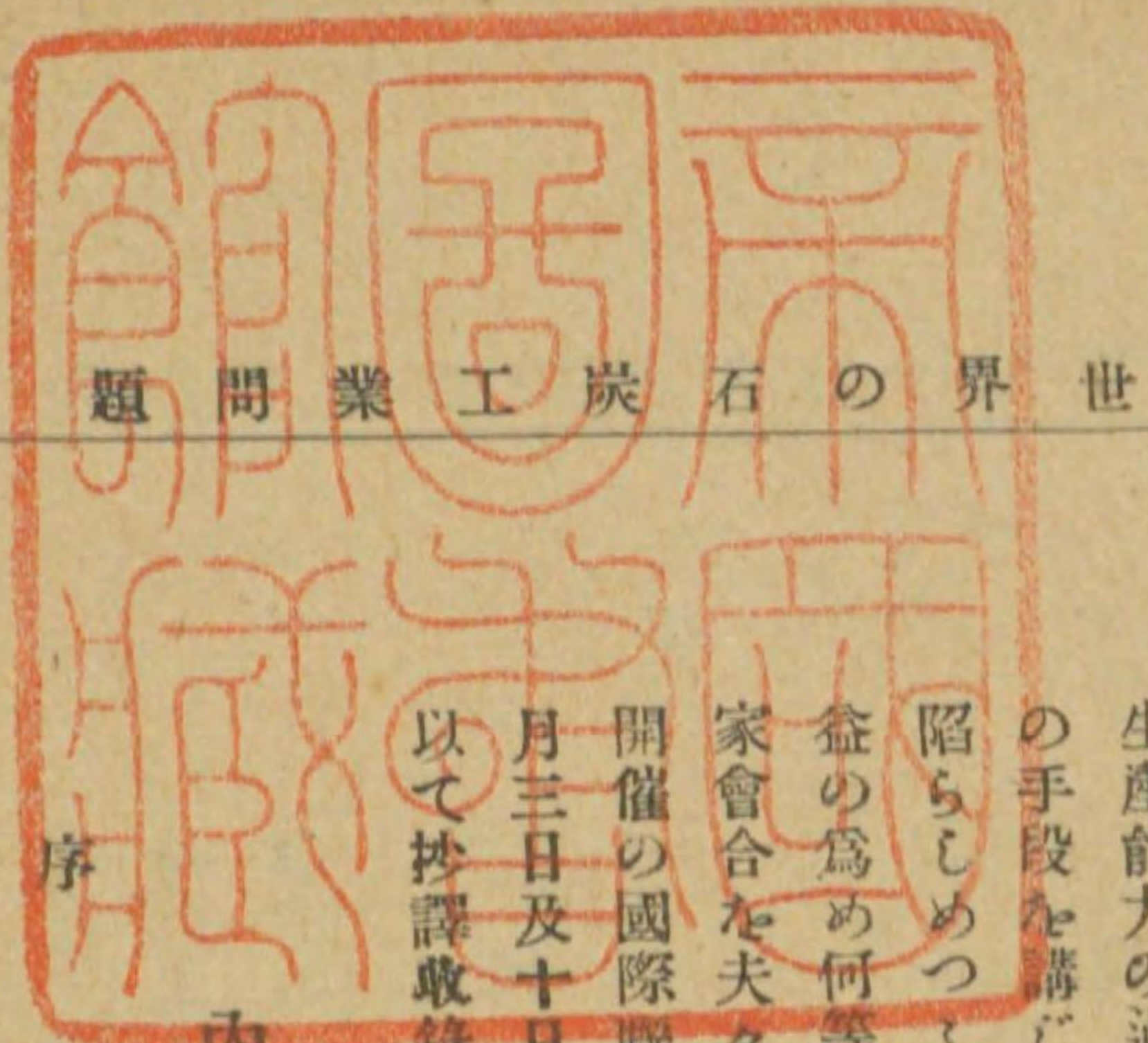
世界の石炭工業問題

國際聯盟經濟委員會の國際的事情に關する暫定報告

生産能力の過剩、需要の減少、代用品の發達等に依り目下石炭工業は世界的に危機に瀕しつつあり、各國各様の手段を講じて之れが救済に努めつつあるも一時的の救済成功は他國の疲弊を招き益々斯業をして難澁に陥らしめつつあるの狀態に鑑み、國際聯盟に於ては世界的に石炭工業の回復を計り消費者及び生産者双方の利益の爲め何等かの國際的協力を行ふの方法を研究することとし本年一月及三月石炭問題の専門家並に労働専門家會合を夫々招集し意見の交換を行ひたり其の結果最近暫定的の報告書を作成し去る五月六日よりジュネーヴ開催の國際聯盟經濟諮問委員會（國際經濟會議の決議實施を計る機關）の審査に供せり報告書の概要は本年五月三日及十日のアイアン、エンド、コール、トレード、レピュ誌に、石炭業の問題と題して掲載せられたるを以て抄譯載録せり

内容項目

- 序
- 平年に於ける世界炭業界の主要狀態
- 石炭業の常例とする特質
- 石炭の年消費高は殆んど變化なし
- 價格の上向傾向
- 戦後及最近の情勢



世界石炭工業問題

石炭の代用

世界の石炭消費高は一九一三年の額を越ゆること僅に四パーセント

石炭生産剩餘能力

炭山の部分的作業

英國に於ける一九二六年の石炭杜絶の結果

需要と直に利用し得べき生産能力

輸出諸國間の角逐

救済策

自然的

國家的

輸入税

補助金及特惠鐵道運賃

各國に於ける自救手段

輸入禁止

科學的手段と貨銀調節

國際的

國際協定に關する提議

生産業者間の國際的協定

國際石炭委員會

作業時間、賃銀、及福利施設

自由競争に對する人爲的障害の撤廢又は制限

消費者の利害關係

各國石炭月別産額表（卷末附表参照）

序

本週國際聯盟經濟委員會に於ては世界の石炭業事情に關する暫定報告書を刊行したるが其の緒言に「吾人の仕事は未だ完了せず更に會商すべき事項を残すも雖も今回の報告は強ち無益のものにあらざるべきを信ず」に指摘せり、本報告に於て委員は特に重要視すべき國際的事情を卒直に描寫することに力を注げり、報告書は單に今日迄委員が見聞せる事實の概要に過ぎざるものにして、今の處彼等は結論を述べ或は忠言を試みるが如き域に達せざる事情に在り其の概要次の如し

平年に於る世界炭業界の主要狀態

石炭の世界産額は數十年間の平均に於て年十二億噸弱を産す、從來主要産炭國の産額は著しき變化を示せるにも拘らず世界の合計に於ては殆んど變動を見ず合衆國は近年に至り世界産額の半數弱を歐洲は半額強を産す其の他の産額は取るに足らず、尙歐洲の産額中英國の分は戰前に於ては約其の半數を占め今日に於ては四割乃至五割を占め獨逸の分は約四分の一に相當す、石炭の主要輸出國としては米、英、獨及波蘭の四ヶ國を數ふるのみ。平年に於ては合衆國は、多量の剩餘炭を北境加奈陀に賣却す、然も其の炭山海岸より遠きこ

運送費の點に鑑み通例米國は歐洲市場に進出して競争を試みるこゝなし故に其の輸出額は比較的僅少にして平年に於ては其の産額の約四パーセント二分の一に相當するに過ぎざるが内約五分の四は加奈陀に向けらる。斯くの如く合衆國の石炭業は、特例の年を除く外は余り海外との交渉を有せざるを以て、國際問題は主として歐洲に限られたるものなり

石炭業の常例とする特質

此の國際問題を敘述するに先立ち斯業の常例とする特質に就いて一言し置かざるべからず。炭山に機械力を採用したるが爲め近年斯業は長足の進歩を示せるにも拘らず其の賃銀は他の諸工業の分に比し全生産費中最高を占む。同時に新炭山の開發又は新堅坑の掘鑿は多額の費用を要する外其の手續長期に亘り、需要の急増に應じて直ちに着手するこゝを得ず斯の如きが故に平時に於ける需要の増加は、利益を急に大ならしめ、逆に需要の減少は利益を急減せしむ。利益及賃銀は變動勝にして其の度合も大なり而して直接經費節約に對する余裕は賃銀より生ずるものを除いては僅少なるが故に斯業の不景氣は、勢ひ賃銀即ち備役状態に急激なる影響を及ぼすものなりとす

石炭の年消費額は殆んど變化なし

一方近年に於ける石炭の消費統計を見るに、需要状態は不動性を帯び兎に角茲數年間の短期間に於ては價格の變化に依りても殆んど影響を蒙れるこゝなし此の炭業界に於ける特性は戰前に於ては需要總額に於ける急速なる不斷の増進に依りて隠蔽せられたるものなりき。當時の消費高は産額の増大を略ぼ相連れて増加したり當時石炭は動力の發生者として大抵の國に存在し且競争の激烈なるもの殆んどなかりき自一八八六年至一九一三年期間に於ける世界の消費額は年四パーセント以上の率を以て増進したり尙右二十八年間に於ける産額は、合衆國に於ては五倍し、獨逸に於ては三倍以上に達し英國に於ては八割を増加せり右期間の末頃に於ては自國の石炭資源豊富ならざる國々の需要は、獨、英、米の三ヶ國に依り滿されたるものなりき。右三ヶ國輸出合計の中、英國の分は其の約三分の二を占めたるが、一九一三年に於ける英國の輸出額は大約一億噸に達し自國産額の三分の一以上、及歐洲總産額の約六分の一に相當したり、爾來減少し一九二八年の輸出額は六千八百萬噸に落下したり

價格の上向傾向

一九一三年に於ては一般的に景氣を招けるが同年迄二十五年間の産炭額は年々不斷の増進を示し同時に炭價に於ても合衆國を除き一定の上向傾向を辿れり、事情斯の如きが故に炭業の利益は絶えず簇出しつつありし多數の會社を驅つて競争場裏に角逐せしむるの状態にありき。價格は昇騰を續けたるも、比較的低廉にし

て且炭量豊富なりしを以て消費者は其の需要を満すことを得又石炭業者は、其の費用を償ひて尙余りある状態にありき然も抑も石炭業は消耗性の工業なり、一九世紀去り二十世紀に入りて需要の増加は一層深處の炭層開發を必要ならしめ従つて歐洲に於ける採炭費並に賣價は間斷なく増進を示すに至れり

戦後及最近の情勢

一九一三年に於ける歐洲の採炭額は六億五百万噸を算し其内國際貿易に向けられたるもの六分の一以上に達したり歐洲大戰は此の貿易を大いに阻止したるが爲め從來外國に供給を仰げる諸國は、自國の資源を開發するか或は他の燃料及動力を求めざるを得ざる状態に立ち至れり。大戰中炭山の多くは破壊せられたるが爲一九一九年及二〇年に於ける炭價は稀有の高價に躍進し、當時販賣に向け得べき剩餘炭の所有者は莫大なる利益を獲得したるものなりき、茲に於てか消費者側に於ては石炭使用の有ゆる經濟的方法、又石炭に代るべき有ゆるエネルギーの資源を探究せんとする刺戟を受くるに至れり故に過去十年間に於ては或は科學的熱の保存に於て、或は燃焼炭より最高エネルギーを抽出することに於て、或は又水力の開發及劣等炭、褐炭、泥炭等より電氣を發生することに於て急速の進歩を遂げたり、斯くの如く節約又はエネルギーの代用資源の發見に對する刺戟と強制とを受くると同時に油製品より動力を得る内燃機關の廣範圍に亘る利用に依り運輸の方法に革命を招來しつつありき

石炭の代用

石炭需要の減少を、大戰に依り醸生されたる特殊の力も、平時の科學的進歩にそれぞれ如何なる程度まで歸せしむるかを量ることは今の所不可能なりとす、然れども絶えず働きつゝある誘導作用の累積結果の頗る大なること、之れが永續性のものなるべきことは共に信じて疑はざる所なり斯くの如きが故に目下世界商船の三割八分は燃料其他に油を使用するに至れるが一九一四年に於ては僅に其の三分四厘を越へざる状態にありき尙海軍に於ける石炭と油との消費割合の變動は更に一層著しきものあるを見る。伊太利に於ては水力電氣の發生増進し、其の動力を石炭の消費高に換算せば年約九百萬噸に相當す、一九一三年亞米利加合衆國に於て使用せる總エネルギーの内八割四分以上は黒炭及無煙炭より得たるものなりしが、一九二七年に於ける其の割合は六割四分以下に減じたり。獨逸に於てはボイラー、爐等の改善に依り工業の使用炭を一割節約することを得たるが尙最新式の方法を以て以前廢物視せられたる劣等炭を利用し得るに至れり

世界の石炭消費高は一九一三年の額を超ゆること僅に四パーセント

斯くの如く工業發達の結果として、一九二八年に於ける世界の石炭褐炭消費高は、一九一三年のものに比し僅かに四パーセントを増大したるに過ぎず、同期間中、原料並に食糧品の産額と世界貿易との増進率は優

に二〇パーセント以上に達したり而して製造方法の經濟的節約に鑑みれば、工業品の生産高の増進率は右の百分比より著しく大なることは殆んど疑なき所なるが特に合衆國に於ける事情を顯著なりとす一九一三年及一九二八年に於ける合衆國の採炭額は殆んど同額なりしも一九二八年の其の消費額は一九一三年に比し僅に三・三パーセントを増せるに過ぎず然るに一九二五年に於ける工業産額は一九一三年に比し、三分の二乃至四分の三大にして爾後更に増加しつつあり

斯くの如く世界の經濟的活動は十五年前に比し頗る大なるものあり且雖右期間内に於ける石炭の消費高は、戦前に於て期待せる一年間の増額と殆んど同一の額を増せるに過ぎず一方需要は一九二一年及二二年の不景氣年中に比すれば大なり且雖も過去六年中に比較する時には殆んど變化を見ざる所なり。

第一表は世界の石炭並に褐炭の産額を示す

第一表 世界の石炭及褐炭産額(單位百萬噸)

年	石炭産額	増減率一九一三年を一〇〇とす		石炭及褐炭産額	増減率一九一三年を一〇〇とす	
		一九二三年	一九二五年		一九二三年	一九二五年
一九一三年	一、二一六	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一、二五五	一〇〇・〇	一〇〇・〇
一九二三年	一、二〇七	九九・三	九九・七	一、二五二	九九・七	一〇六
一九二四	一、一九二	九八・一	九八・九	一、二四一	九八・九	一〇八
一九二五	一、一九五	九八・三	九八・三	一、二四六	九八・三	一一六

一九二六	一、一九三	九八・一	一、二四四	九九・一	一一七
一九二七	一、二八三	一〇五・五	一、三三八	一〇六・六	一一一
一九二八	一、二四五	一〇二・四	一、三〇五	一〇四・〇	△一二五

△印は假數字

右表は過去十五年間中の狀況の下に於て石炭消費高の増進が極めて遅々にして且一般農業並工業生産高の増進に比し一層遅々たることを明瞭に示せり更に之を炭價に關聯して考ふる時には、既報の通り、需要は少くも短期の年間に於ては、價格の變化に依り影響せらるる所極めて少なきを見る。第二表は、炭價の大變動と産額の對照を二期に分ちて示せるものなり

第二 石炭の産額と價格

(第一表に與へたる期間の平均より見たる變動増減百分率)

年	石炭産額	英國輸出價格		獨逸輸出價格		和蘭	瑞西輸入價格		瑞典
		一九二三年	一九二五年	一九二三年	一九二五年		一九二三年	一九二五年	
一九二三年	一、一五	二五・三	四三・六	二五・一	四〇・〇				
一九二四	二・三	一六・五	一〇・九	一四・八	九・九				
一九二五	一・九	一〇	一〇・二	四・〇	九・五				
一九二六	二・二	七・四	七・二	五・六	二・〇				

1924-1928					一九二七	一九二八
一九二四	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八		
(-)	(-)	(+)	(-)	(+)	(+)	(+)
二・七	二・三	二・三	四・九	二・三	二・六	五・三
(+)	(+)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
三・七	四・三	二・五	六・六	一・八	三・三	二・三
(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)	(-)
二・三	一・六	一・七	七・八	五・五	一・三	一・六
(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
三・九	九・三	〇・六	一・五	九・七	一・四	六・五
(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	(-)	(-)
二・一	一・二	六・七	五・〇	一・〇	一・五	九・八
(-)	(-)	(+)	(-)	(+)	(-)	(-)
一・九	一・七	六・五	二・〇	一・四	三・一	一・七

一九二三年及一九二六年に於ける炭價の昂騰は主として一九二三年に於てはルール地方石炭供給の杜絶に、一九二六年に於ては英國炭供給の中絶に因れり一九二二年に於ける獨逸の石炭及褐炭の産額は一億六千萬噸を算したるが翌二三年に於ては、八千八百五十萬噸に減じ又一九二五年に於ける英國の産炭額は二億四千七百萬噸に達したるも一九二六年には一億二千八百萬噸に減じたり

石炭生産剩餘能力

歐洲石炭供給の最も豊饒なる資源の二を突然失ひたるにも拘らず世界の産額には殆んど影響を與へざりし事實は即ち目下斯業の特性が更に一層重大性を帯べることを指示するものにして、能力の一大剩餘云ふ當面の石炭問題の根本をなすものなり需要額は殆んど据置の状態に在るも生産能力は一般に漸増を示しつゝ

あり、こは戰時中平時の供給資源を遮断せられたる諸國が余儀なく自國の炭田を開發せることに起因せるが又一方に於ては斯業發展の結果に因るに同時に近年の不景氣が、生産方法に一層科學的、經濟的手段を與へたる特殊の刺戟に起因するものも斷ぜざるべからず

其の最も顯著なる例を和蘭とす一九一三年に於ける産炭額は百九十萬噸に過ぎざりしが一九二八年には一躍一千七十萬噸に増加したり、西班牙は二百萬噸即ち五割、印度は三割、日本は四割六分、其他それぞれ増進を示せるが此等は總べて戰時中及び戰争直後不斷の資源地よりの供給不足に依りて刺戟せられたる結果に外ならずカンパインに開發されたる炭坑は白耳義の産炭額に年約二百五十萬噸を加へ、獨逸は褐炭の産額を二倍し而して獨領上部シレジアに於ては目下八百萬噸以上の石炭を産するに至れるが十五年以前の同地産額は少額なるものなりき

炭山の部分的作業

一方石炭需要の増加は遅々として進まざるを以て科學的及經濟的生產方法の發達は或る炭山をして一部の作業を余儀なくせしめ或は又全然作業を中止せしむるに同時に或る地方に於ては失職者を出すに至れり尙平和條約の賠償條項に依る石炭引渡の爲め貿易の道筋にも影響を及ぼせるが斯の如き事情の直接反動は英國の最も激しく感受する所みなれり、一九一三年に於ける英國の産炭額は二九二、〇〇〇、〇〇〇噸なりし

も一九二八年に於ては二四四、〇〇〇、〇〇〇噸に減じたる外目下十七萬人の失職坑夫を抱擁せり、之れに反し佛蘭西現領土内の産額は一九一三年に比し七百五十萬噸、獨逸現領土内の産額は約一千萬噸を各々増加せり、歐洲に於ては斯業の効率著しく進歩シバ・デ・カレー及ノードに於ける佛蘭西の炭山は全然組織を改められたり、後者の地方に於ける現在採掘高の七割は機械力に依りて採掘せられ、又ルール地方に於ける機械力の採掘高は一九一三年の二分に對し一九二七年には八割三分に増加したり。全歐を通じ所謂斯業の合理化は一大進展を示せり

英國に於ける一九二六年の石炭杜絶の結果

斯の如き變化は剩餘能力を生ぜしむるに至れるが之に關し委員會は英、獨、波蘭の剩餘能力の見積を次の如く引證し居れり

獨逸	約四分の一
英國	四分の一乃至三分の一
波蘭	約二分の一

故に一九二六年の英國炭業爭議中英國の産額が一億九百萬噸を、其の輸出額が六千四百萬噸を減じたる際歐洲の諸國は産炭額を四千百萬噸丈増加することを得たり而して残余の不足は亞米利加合衆國に依りて殆

んど全部補はれたり。既知の通り合衆國は平時に於ては歐洲市場に進出せざるも斯業の能力は何時たりとも突發的の需要に應ずることを得、或る點以上に炭價が昇騰して歐洲に於ける大産炭國の一が供給不可能に陥る時には要求炭全部を市場に抛出することを得る状態に在り。一九二六年に於ては英國の産額が一億一千九百萬噸を減じたるが始め世界の總産額に多少の影響を與へたるも其の減少は僅かに二百三十萬噸に過ぎざりき。合衆國の現在能力が極めて伸縮自在なること歐洲諸國が能力以下にて作業しても尙國內及對外市場の需要炭全部を産出し得ること共は證跡の歴然たるものあり斯の如く世界の二大産炭大陸は其の供給力を増大せるも而も需要額は静止の状態に在り

需要と直に利用し得べき生産能力

炭業問題の原因を成し同時に處理せざるべからざるものは即ち「需要と直に利用し得べき生産能力」この不釣合にして需要と生産額との不釣合を言ふに在らず實産額は決して需要額を著しく超過すべくもあらざるなり、又僅少の過剩炭は前述の事情の下に於ては利潤點以下に價格を低下せしむるに十分にして且此の傾向をして益々濃厚ならしむるストックの堆積を齎らし遂には危機事業中止を惹起せしむることありとするも、若し生産過剩の外に著しき剩餘生産能力潜在することなくば形勢は自から、戦後の遅々たる率を以ても需要の増加に依り匡救せらるるに至るべし現在利用せらるる以上に剩餘能力のあることは疑の餘地無き事實

にして且之が解決を困難ならしむる程大なるものあり其の剩餘能力の量に就て屢々意見の發表せらるるものあり。雖區々多様にして委員會自身に於ても敢て之が見積を成さず然も委員會の引證せる前記の局部的見積を以て觀るに若し假に現在能力の最高見積額を英、獨、波蘭が生産するにせば他の諸國が現在の生産高に増進を示さずも歐洲の總産額は五分の一を加ふるにこなるべし

輸出諸國間の角逐

能力に消費高の不釣合は自から輸出國間に角逐を生ぜしめ新市場の獲得に或は舊市場の維持に互に余念なく或は又保護防塞に圍まれて外敵の攻撃に備ふるものあると同時に一方に於ては反經濟的の商法を用ひて此の堡此乘取策に務むるものあり斯の如き國家的手段に其の一般狀況に及ぼせる影響に就ては本報告の第二章に記述せらる

此の剩餘能力は世界の生産額に餘剰を生ぜしめ其の餘剰は累積してストックとなり價格を下落せしむるに至れり而して斯業に爭議勃發し一時一地方の生産杜絶して或る供給資源の失はれたる時には、他方の炭山は遇然的の繁榮を享樂しストックは吸収せられ且價格は昇騰せるも供給資源舊態に復し産額増進の新時代を現出し再びストック累積して競争を激發せしむるに至りたり

救濟策—自然的、國家的及國際的

一、需要の自然増加

戦前需要の着々増加し居たることは世界産額の増進率に貿易の一般的増進に依り明かなるが其の需要の増進率は平均年約四パーセントを示し此れが爲め斯業は繁榮を享樂し逐年進展を重ね又突發的の不景氣に依り打撃を蒙れることあるも直に舊態に復することを得たり斯の如きが故に不景氣も結局は需要の増加に依り自然幾分緩和せらるるもの。斯業多數の専門家に希望を懐かしめたるものなりしが現在に於ては彼等は此の方面よりの救濟を戦前に於けるに同様に期待することの不可能なることを認むるに至れり。需要に生産能力の開きは以前より一層擴大し又事態は其の他の要素に依り悪化を呈し居れるが尙且前記の通り現在の需要増進率は頗る遅々にして、過去十五年間に於ける増進額は戦前年間の僅に一ケ年（平均）の増進額に相當するに過ぎず。近年の統計に經驗を以て觀れば、たゞ生産能力が此の上増進せずとも又別に悪化を來すべき要素なしとするも不景氣の原因たる需要に能力の開きを常態に復せしめ得ることは到底望み得べくもあらず尙近年の變態は實際將來を豫測する上に批判の標準を迷はしむるものと言ふべく斯業の將來に關する多くの所論は多様にして區々なるものあり。兎に角事態の不安は自然他の救濟策に注意を促すに至れり

國家的の救濟策

(a) 輸入税

大戰及大戰直後の石炭の高價、次に起れる能力ミ需要ミの不釣合、價格の急落及び一般的不安定は諸國の政府及斯業自身を驅つて、先づ國產の獎勵に次に猛烈なる外敵に對する内地炭山の保護に特殊手段を採らしむるに至れり斯くの如き保護手段は逐年増加しつつあるが其の因つて起る所以は深刻なる一時的不景氣が逐次新堤防を築造せしめたるに在り

輸入税は主として小生産諸國に於て採用せられたり次の如し、羅馬尼(屯當り二七一・八・九金ライ)ブルガリア(屯當り一五レバ)希臘(屯當り三〇一・二〇金ドラクマ)然れども亞細亞の炭業に於ても之を採用し又西班牙に於ては四・五〇乃至二・五〇ベセタスの關稅を賦課し或る諸國の爲めに差別的待遇を設け居れり

(b) 補助金及特惠鐵道運賃

直接並に間接の補助金、時々與へられる其の他の援助及一般禁止制度並に輸入認可制度は全般より見て斯業に取つては一層重大性を帯びるものなり就中特惠鐵道運賃率に就ては佛、獨、波蘭及英國等大抵の歐洲諸國に於て時に苦情の訴らるるものあり、聞く所に依れば此の運賃率は内地供給の爲め與へられ又石炭の販賣を、主として外國市場に依頼する諸國に於ては此の方法に依りて斯業の振興を企圖したるものなり云ふ鐵道運賃問題は重要なミ同時に又複雑を極む、而して詳細に亘る専門的の調査に俟たざれば此れが決定に對して適當なる標準なりミ普通に認めらるる經濟事情の下に於て其の現行率が如何なる特殊の場合に於ても正

當なりミ證せらるるや否を言明するこは蓋し不可能なり

間接の援助は、國產品のみを購入すべしミ限定せる政府に依り與へられ又直接の援助は即ち補助金の下附之れなり英國に就て見るに自一九二五年七月至一九二六年五月間の危機に當り斯業に對する直接の援助を撤回したる時には政府は既に二千三百萬磅の補助金を支出し居たり又西班牙に於ては生産を獎勵せんが爲め諸種の制度を施行し居れるが其の基金は稅關收入、特別稅其他の歳入を以て之れに充當せり。西班牙及葡萄牙に於ては輸入は認可を受けざれば許さず獨逸も又認可制度に依れり佛蘭西に於ても特殊の場合に於て同様制度及制限制度を實施したるこあり

(c) 各國に於ける自救手段

委員會に於ては彼等が蒐集せる多様の保護及援助手段に關する證跡を全部縷述するの煩を避けをるも危機に面して先づ國產を獎勵し然る後之を維持するに務めたる苦心を反復敘述し居れり然れども又各國の炭鑛業自体が成したる努力にも考慮を拂はざるべからずここの自救的手段は自ら三種に區別せらる

(イ) 或る國又は或る地方の坑主連が全體的協約に依り彼等が管理する内

國又は海外の地域に於ける價格を管制せるこ

保護關稅又は禁止、特惠鐵道運賃率或は輸出に對する補助金等に依りて援助せらるる時には國內販賣炭價は外國のものより高價の傾向を帯び従つて國際的競争熾烈なり。人爲的に輸出價格を低廉ならしむる商策は

非産炭國の利益を害せざることは疑ひなき事實なるも大産炭國にして同時に大輸入者たる諸國に損害を與ふる直接原因の一をなすものなり。何こなれば此の商策は彼等が内地の産額より得る利益を外國の供給に依り決定せらるる水準まで低下せしむる傾向あればなり。

(ロ) 總べての採炭業者は、其の企業の程度及成功の度を異にする。雖炭山の

組織及管理に改善を施し以て彼等の競争力を増進するに務めたること。

此の改革に依り小炭山は大炭山に併合せられ又或る場合に於ては閉鎖せられ又共同販賣代理店の設置せらるるあり。石炭の配給は一層科學的に整へられたり。換言せば斯業の一般經濟は大いに現代化せられたり。委員會は其の調査中に於て此の種の改善に關する證據を各國に認め頗る驚嘆したるものなり。

(ハ) 斯業の經營者は或る場合に於ては賃銀を引下又作業時間を延長し以て事

態に適應せんことに努めたること。

(d) 輸入禁止

關稅の賦課、輸入禁止、直接又は間接の補助、内國價格の制限、及勞力狀態の加減等の如き諸種の手段に關する結果に就ては報告中に敘述せらる。輸入禁止、關稅及補助金は内國價格を引上げ又は輸出價格を低廉ならしめ又他を犠牲にして自國の産額を増進せしむることを得るものなるが一方に於ては又他國が同様手段に依りて報復する迄は一時的の利益を收むることを得而して世界の價格は益々下落の傾向を辿るものなり。

す専門家は一般狀態より觀て斯の如き人爲的並地方的救濟手段の存在を殆んど異口同音に遺憾をせり。尙彼等は、保護手段及補助金は世界の能力を需要の開きを縮小するものにあらずることを認めたるが却つて此等の手段は過剰生産能力削減の努力を阻碍し或は滅殺するものなり。實際保護手段に補助金は他を犠牲にし特殊の工業をして、市場の維持或は略取を可能ならしめたり。雖之を全般より觀れば一般的難澁の範圍を擴大するものなり。

同時に多數の専門家は、「斯の如き部分的及地方的救濟手段は斯業一般の見地よりすれば遺憾とするものなり。雖各生産國間に政策上或る協約を缺ける場合に於ては蓋し已むを得ざるものなり。」この意見を吐露せり。

(e) 科學的手段に賃銀調節の結果

斯業の効率を保持する上に必要なる科學的方法の適用は能力を需要の不釣合を減ずるものにあらず。却つて一時は其の度を増加することあるべし。然れども之を最も効率の少なき炭山の閉鎖に結び付けたる場合には一般の問題並に地方的問題の解決に對し直接の貢獻を成すものなり。

低廉なる賃銀に長作業時間は、他國が此の例に倣ふ迄は特殊の工業或は特殊の國に對して競争上の利益を與ふべきも價格の變動に對する需要の應答遅々たるものあるを以て之が世界問題の解決に資する所あり。言ふべからず實際斯の如き局部的及國家的の手段が全般より觀て、或る重要なる點に於て根本的の難問を二層

悪化せしめたることは事實の立證する所なり世界の供給を管理する上には此等の手段は何の役にも立たざりしが尙石炭の需要頗る不活潑なるが故に消費を刺激する上に於ても殆んど無効なりし言ふを得べし此等の手段は有力、無力の炭山に對し同様に與へられたる保護に依り或は彼等自ら造れる貿易に對する防害に依り或は又投資を助長することに依りて難問を一層悪化せしめ居れるが又一方に於ては變轉定りなき斯業の運命を一層動搖せしむるに至りたり加ふるに是等の手段は國家的感情を益々刺激するの危険を一層極端なる個人的保護手段を誘致するの危険を擁護し又國家的保護手段は其の止まる所を知らざるべく何れの時に於ても其の結果は單に杉大なるストックの累積に因りて斯業の機体を破壊する特殊の地方を現出するに至るべし要するに大抵の地方的及國家的救濟手段の一般結果は炭業界に於ける疲弊の負擔を甲より乙へ移動せしむるものを見るを得べし

國際的救濟

(a) 國際協定に關する提議

委員會の概説せる諸難問に面し、問題の解決策として國際的政策提議せられたり。歐洲に影響を及ぼす本問題は國際的の原理を有するものにして之が理解は問題の解決に重要缺ぐべからざるものなることは専門家の殆んど等しく認むる所なれり建策事項概ね次の如し

- (イ) 生産高、市場及價格に關し生産業者間に國際的協定を取り極めざるべからず
- (ロ) 一切の關係者即ち政府、傭主、坑夫、商人及び消費者を代表する特別國際委員會を設置せざるべからず
- (ハ) 全く平等ならずとも、賃銀、作業時間及労働者の福利施設等を一樣ならしむる手段を講ぜざるべからず
- (ニ) 石炭貿易に對する現存の人爲的制限並に生産に對する人爲的刺戟は之を廢せざるべからず
- (b) 生産業者間の國際的協定

結局斯業をして健全なる状態に立戻らしめ得る方策に關し意見を開陳せる斯業に直接關係ある勞資双方の専門家は殆んど全部或る時期に於て恐らく歐洲の一流生産業者間に審議行はるべきことを豫想せるが尙石炭問題の解決を期待せる人々は、此の審議の結果産額、輸出、或は價格、市場等に關する協約に依りて熾烈なる現在の競争を除去する國際協定の締結せらるゝものも成せり、整然たる生産並に販賣は斯くの如き協定に依りてのみ遂行せらるゝことを得べく又整然たる生産並に販賣に依りてのみ斯業は健全なる財政基礎に立つことを得るゝ同時に利益を相殺する反動を見るゝことなく最新の科學的發見を方法を十分に利用し得べし力説せらるゝ所ありたり

又現状の下に於ては斯業は特に弱身の地位にあり何となれば需要の増加に對しては何時たりとも直に供給

の應ぜらるゝものあるを以て價格に影響する所殆んぎ無く之に反し需要の減少に際しては百方手を盡して供給を維持せんとするの趣向を有し従つて價格を下落せしむ、斯くの如き人爲的不自然の状態は國際協定に依りて容易に匡救せられ得べしと主張せらる

尙、本政策の唱道者は、斯業自然の條件が斯の如き企圖の成功に有利なるの事實に注意を促せり

英、獨、佛、波蘭、白耳義及和蘭の産額が全歐洲産額の約九割を占め又合衆國の石炭貿易は平年に於ては北米外に出でざるを以て詮議中の協定に加入すべき國の数は少數なり。北米合衆國は現在に於ては、只或る重要資源地の供給が杜絶する際其の炭山より遠隔の市場に於ける競争者たるに過ぎず、然しも多くの専門家は又次の事實に注意を促せり即ち産額を管理し競争を抑制せんとする國際協定は參加各國に對して國內諸工業中に石炭の割當を配分するの義務を負はしむることは必然なりとす故に斯くの如き協定は、若し成功確實なりとの見込立たば舉國的組合を基礎として締結せられざるべからざるなり

現在組合の仕組む精神は各國各様なるが其の兩極端は獨逸と英國とに依りて代表せらる。獨逸に於ては其の組織最も念入にして全工業の政策は政府監督の下に於て中央石炭評議會の決議に依りて決定せらるゝものなるが其の評議會なるものは一切の利害關係人、所有者、傭主、勞働者、消費者及州を代表するものなり。一九一九年の法律に依り、國立石炭聯合會と結合せる地方的シンジケート設立せられたるが本シンジケートは國立聯合會が石炭評議會と協力して決定せる價格に於て販賣を實行す

之れに反し英國に於ては、主要傭主団体（The Mining Association）存在するのみなり、こは炭價を管理し又註文を配分するの權能なく單に時間、賃銀或は作業條件等に就き地方組合の判然たる同意を得て商議するの力を有するのみなり、然しも一九二六年帝室委員會の設置以來地方集中主義に長足の進歩を致せり、該委員會は「現在に於ける生産小單位の合同は望ましく且實行可能なること及び財政的利益は特に協同販賣組織に依りて大いに得らるゝこと」を認めたり、石炭争議終熄以來多數の合同實行せられ而して目下生産を調節する三機關あり内一機關は年産一千萬噸以上の石炭を處理す然しも國際協定に關係して一切の問題に就き商議するの權能を有するが如き舉國的代表団体存在せず

生産業者の協定を唱道せる人々は、「生産業者は現在の儘に於ては失業問題の匡救に困難なるべき状態にあるも若し一度斯業にして鞏固なる基礎の下に置かるゝとせば各國は勞力需要減少の眞程度を測定することを得るゝ同時に轉職、退職、或は入職制限に就て必要な手段を講じ得ること」を力説したり。以上の建築は専門家全部の唱道する所に在らず、前記の國際協定の效果に就ては多少の疑を懐く一部論者あるが特に石炭の如き必需品の場合に於て然りし成せり

(c) 國際石炭委員會

鑛夫専門家は勞働者及消費者の利益擁護の重要なことを特に力説し一切の利害關係を代表する國際石炭委員會の設置を提議したり而して本委員會に對しては少なくも、如何なる種類の問題に就いて知識を蒐集

すべきかを勧告するの權能を附與すべしと建議せられたり

(d) 作業時間、賃銀及福利施設

鑛夫専門家は時間、賃銀及福利施設に關して國際的に協定せざるべからずと成せり斯の如き協定が條件の統一を齎し得るこゝ或は之を強要するこゝ等に就いては主張せらるゝ所なきも、右に關する協定を缺ぐ場合に於ては前述せる其の他の諸問題に關する協定は不安定を免れざるべしと論ぜらる

自由競争に對する人爲的障害の撤廢又は制限

國際聯盟委員會は遂に、専門家諸氏と共に斯業の自由競争に對する一切の障害を撤廢するの可能性と其の效果とに就て攻究するに至れるが此れに關し彼等は吾人の特に重要視する次に列擧せる萬國經濟會議の決議を再び論壇に持ち出したり

- (イ) 各國は貿易を阻害する關稅の撤廢又は減額方法を直に講せざるべからず
- (ロ) 投資は最少額に減ぜざるべからず
- (ハ) 運輸機關は總べての航路を通じて國民間に差別的待遇を設けざるやう提供せざるべからず
- (ニ) 自國及他國双方の利益に有害なる「輸出入禁止並に制限」の經濟政策を各政府が即刻撤廢すべきこゝは世界貿易の回復並に將來の發展に對して緊要缺くべからざるものなり

斯の如き手段が難問を解決するの力あるやに就て疑を懐く一部論者を見たるが特に鑛夫専門家側に於て然りこなせり自由貿易に對する一切の人爲的制限並に生産に對する人爲的刺戟の撤廢は、若し實行可能なりせば結局は石炭問題を解決するこゝ疑なき所なるも其の直接の結果は、斯の如き方法に依り最も少く影響せらるゝ諸國の不景氣を、最も強く影響せらるゝ諸國へ移動するに至るべし又其の究極の結果は、最も利益の少なき炭田を閉鎖し現在の過剩能力を撲滅するに至るべし然れども一方に於ては、最後の目的を達成する迄には幾多の改變を重ね波瀾曲折の過程を経ざるべからずと成せり。實際、制限の撤廢は如何に望まじきものなりと雖其れ自体が目下直面せる問題を解決すべしと専門家一人も肯ぜざる所なりき然れども人爲的手段を漸時に撤廢せんとする協定を、産額、市場或は價格の管理に對する協定と同時に商議すべしとの意見を主張せる多數の専門家を見たり此れに就て、「若し投資を止むる國際協定達成せらるゝとせば現在保護手段の若干は存在の理由を失ひ期して湮滅するに至るべし」と論ぜられたり現存の制限撤廢問題は別として尙危險殘存す、一國の斯業に對し其の政府が新規に補助金或は其の他の特權を與ふるこゝせば如何なる協定も其の根底を覆へざるを以て協定の強弱は斯の如き政府の手段が全廢されざるこゝも少くも兎に角緩和せらるべしと云ふ確信の如何に依るものも觀察せられたり

消費者の利害關係

石炭の供給並に價格は消費諸國に取つて最も重要な問題なり故に委員會に於ては、こゝに留意して普通専門家の外に主として消費者を見做さる國及全然消費者たる諸國の専門家をも招致したり。消費諸國より來れる専門家諸氏は生産者及消費者の利害關係は總べての點に於て全然相反するものにあらずこの意見を保持せり又一方に於ては、安定を保證は双方に利益を齎らすものなり云ふ意見の一致を見たり數十年間に於ける價格の變動曲線を一見するに極端なる高低の變動頗る多し此の變動曲線の平均をなす安定價格が生産、消費兩者に取つて望ましきこゝ及び斯業現狀の固有性たる突發的の杜絶が從屬諸工業に對して一大打撃を與ふるこゝは共に全員の認めたる所なり

「アイアン、エンド、コール、ツレド、レボウ」五月三日及十日所載

英米其他屑鐵消費並供給に就て

米國鐵鋼業の屑鐵消費高

The Iron & Coal Trades Rev., March 15, 1929,

カーライル、エッチ、ストランド氏は、アイアン、エーヂ紙に寄稿して次の如く指摘せり

合衆國に於ける屑鐵の消費高に就いては時折各方面の觀察者に依りて見積られ來れり。此等の見積に最近の分を加へ更に一層一定せる方法の見積を利用せしめんが爲め、鐵鋼業各方面の屑鐵供給高並に消費高表を編纂したり(第一表―第四表)資料は主として亞米利加鐵鋼學會の生産統計に基けり。勿論多くの假定を作るの止むなき場合ありたるを以て結果は單に大略を知るの便に供するに過ぎず。鐵鋼業各方面の屑鐵消費高決定方法は次に述ぶるが如し

一、製 鋼

銑鐵及屑鐵より鋼塊を製造するに際しては大約一―パーセントの燒失あり。こは銑鐵及屑鐵中の非金屬の酸化に因る外鑛滓中に鐵の逃失するに注出中に鋼の喪失するに因れり。故に第三表第一欄の數字は、鋼塊及鑄物の年産額を〇・八九にて割り銑鐵及屑鐵の挿入合計を得、此れよりベシック、ベセマー及低燐銑の合計年産額を減じたるものにして殘額は即ち製鋼に用ひたる屑鐵の量なりとす。燒失歩合の一―パー

セントなる數字は、此を嚴格に云へば平爐鋼の製造のみに適用せらるゝものなり。雖此の百分比は頗る大なるものなるが故に、一切の製鋼法に於ても同一の焼失歩合を假定して別に重大なる誤を見ざるものも考へられたり。

二、鎔 鑛 爐

鎔鑛爐に於ける銑鐵の製造に於ては、屑鐵の使用近來頗る増加せり第三表に示せる鎔鑛爐屑鐵の使用高は次の百分比を使用して得たるものなり

(イ) 一九一五年以前は銑鐵生産高合計の三パーセント

(ロ) 一九一五年より一九二三年に至る年間は六パーセント

一九二四年より今日に至る年間は一〇・五パーセント

三、鐵 鑄 物

鼠銑及可鍛鐵鑄物工場に於ける屑鐵の使用高は一九一五年以前に於ては、鑄物及可鍛銑産額合計の約三〇パーセント一九一五年より今日に至る年間には約五〇パーセントの範圍に在り、第三表鐵鑄物工場欄の數字は此の方法に依りて割出せるものなり

四、軌條再壓延工場

目下年々約百萬屯の古軌條再壓延せられて小なる軌條、鐵筋用バー其の他の鋼材に變形せらる。此等の數

字を得るの方法として、最近の年平均軌條産額を此の額との比を取れり。而して一九一五年より今日に至る年間に對しては軌條年産額の三五パーセントに達する百分比を一律に適用したり。一九一五年前に於ては二〇パーセントを適用したり。二つの場合共、再壓延の新軌條は、編纂前に於て軌條年産額より控除せり。

五、其の他の製法

第三表「其他の製法欄」下に於ては鐵の製造に使用せらる屑鐵を主なるものとす。古車軸、タイヤー及之れに類似する古鋼材も多少年々諸種の鋼材に壓延又は可鍛せらるゝもあり是等も本欄の數字中に含ませたり。

屑鐵の消費高と比較せる銑鐵及鋼産額

第五表は、二十五年以上の期間に於て屑鐵消費高の増進關係を指示する興味ある分解なり、就いて見るに、一九〇〇年に於ては銑鐵の産額は鋼を凌駕せるも一九二八年に於ては反對の事情を呈せり、又此の期間に於て鋼の産額は五倍せるが製鋼業の屑鐵使用高は十倍せり。同一期間中各種屑鐵の消費高は約七倍を増加したり、之れに反し銑鐵の産額増進は三倍弱に止まれり

第一表 合衆國に於ける工業別屑鐵供給量（一九二八年）

年次	製鋼業	鑄鐵爐	鐵鑄物工場	軌條再壓延工場	其他	合計
一九一三年	一一・〇	〇・九	一九	〇・七	〇・八	一五・三
一九一四	八・九	〇・七	一・六	〇・四	〇・六	一二・二
一九一五	一二・五	一九	二・八	〇・七	〇・七	一八・六
一九一六	一六・〇	二・四	三・二	〇・九	〇・九	二三・四
一九一七	一九・二	二・四	三・二	一・〇	一・〇	二六・八
一九一八	一八・三	二・四	三・一	〇・八	〇・八	二五・四
一九一九	一四・五	一九	三・〇	〇・七	〇・六	二〇・七
一九二〇	一八・五	二・三	三・六	〇・九	〇・七	二六・〇
一九二一	八・九	一・〇	一・五	〇・七	〇・三	一二・四
一九二二	一八・三	一・七	二・五	〇・七	〇・五	二三・七

第三表 過去十六年間に於ける合衆國屑鐵消費高概算 (單位百萬噸)

鐵鑄物業 三、七〇〇、〇〇〇
 軌條再壓延工場 一、〇〇〇、〇〇〇
 其他の工業 三〇〇、〇〇〇

工業別	供給噸數	百分比
鋼壓延工場	一四、二〇〇、〇〇〇噸	四二%
鑄物工場	二、七〇〇、〇〇〇	八
計	一七、〇〇〇、〇〇〇	五〇
鐵道	五、四〇〇、〇〇〇	一六
自動車	三、七〇〇、〇〇〇	一一
建築業	三、一〇〇、〇〇〇	九
石油水道採鑛業	一、七〇〇、〇〇〇	五
農業	一、〇〇〇、〇〇〇	三
機械工場	七〇〇、〇〇〇	二
其他	一、四〇〇、〇〇〇	四
總計	三四、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇

第二表 合衆國工業別屑鐵消費高 (一九二八年)

消費高
 二五、〇〇〇、〇〇〇噸
 四、〇〇〇、〇〇〇

百分比
 七二
 一二

一九二八	二五・〇	四・〇	三七	一・〇	〇・三	三四・〇
一九二七	二二・〇	三八	三・六	一・〇	〇・三	三〇・七
一九二六	二三・一	四・一	三・六	一・〇	〇・四	三二・二
一九二五	二二・〇	三・九	三・五	〇・九	〇・四	三〇・七
一九二四	一八・四	三・三	三・三	〇・八	〇・四	二六・二
一九二三	一九・〇	二・五	四・〇	一・〇	〇・五	二七・〇

第四表 合衆國に於ける鹽基性平爐の屑鐵消費高と他との比較 (單位百萬噸)

年次	一切の製鋼法に使用する屑鐵の量	鹽基性平爐法に使用する屑鐵の量	鹽基性屑鐵產額	鹽基性平爐に使用する屑鐵及屑鐵高合計	合計に對する屑鐵使用高百分比	ピツツパークに於ける重鋼屑價格
一九一八	一八・三	一七・一	一八・七	三五・八	四八	二八・九五
一九一七	一九・二	一八・〇	一七・七	三五・七	五〇	二九・九〇
一九一六	一六・〇	一四・九	一七・七	三二・六	四六	一八・一四
一九一五	一二・五	一一・七	一三・〇	二四・七	四七	一三・二三
一九一四	八・九	八・四	九・七	一八・一	四六	一一・五〇
一九一三	一一・〇	一〇・三	一二・五	二二・八	四五	一二・九二

第五表 合衆國に於ける屑鐵の消費高と比較せる銑鐵及鋼產額

年次	銑鐵產額	鋼塊及鑄物產額	屑鐵消費高合計概算	製鋼業の屑鐵消費高概算
一九一九	一四・五	一三七・七	二八・二	一八・三五
一九二〇	一八・五	一七七・七	三四・五	二五・七四
一九二一	八・九	八・六	一六・四	一三・七六
一九二二	一八・三	一七・五	三一・三	一七・六二
一九二三	一九・〇	一八・一	三七・九	二〇・三八
一九二四	一八・四	一七・七	三三・七	一八・五一
一九二五	二二・〇	二二・二	四〇・九	一八・六〇
一九二六	二三・一	二二・三	四三・五	一七・一〇
一九二七	二二・〇	二二・三	四〇・七	一五・五〇
一九二八	三三・〇	三一・三	三四・〇	二五・〇〇
一九二九	三〇・〇	二九・〇	三二・〇	二二・〇〇
一九三〇	二八・〇	二七・〇	三〇・〇	二〇・〇〇
一九三一	二六・〇	二五・〇	二八・〇	一八・〇〇
一九三二	二四・〇	二三・〇	二六・〇	一六・〇〇
一九三三	二二・〇	二一・〇	二四・〇	一四・〇〇
一九三四	二〇・〇	一九・〇	二二・〇	一二・〇〇
一九三五	一八・〇	一七・〇	二〇・〇	一〇・〇〇
一九三六	一六・〇	一五・〇	一八・〇	〇・〇〇
一九三七	一四・〇	一三・〇	一六・〇	〇・〇〇
一九三八	一二・〇	一一・〇	一四・〇	〇・〇〇
一九三九	一〇・〇	九・〇	一二・〇	〇・〇〇
一九四〇	八・〇	七・〇	一〇・〇	〇・〇〇
一九四一	六・〇	五・〇	八・〇	〇・〇〇
一九四二	四・〇	三・〇	六・〇	〇・〇〇
一九四三	三・〇	二・〇	五・〇	〇・〇〇
一九四四	二・〇	一・〇	四・〇	〇・〇〇
一九四五	一・〇	〇・〇	三・〇	〇・〇〇
一九四六	〇・〇	〇・〇	二・〇	〇・〇〇
一九四七	〇・〇	〇・〇	一・〇	〇・〇〇
一九四八	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇〇
一九四九	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇〇
一九五〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇〇

▲印は假數字

第六表 合衆國に於ける各種鐵鋼屑價格 (一英噸當り)

品名	地方 (Loc.)	價格	
		戰後十年間の平均價格	現在價格
鐵 銑			
鹽基性銑鐵	フィラデルフィヤ	二五・〇八	一九・七五
"	ダ ア レー	二三・四四	一七・五〇
屑			
低磷鋼片屑	ピツバーク	二二・四〇
第一號鑄物機械	シカゴ	二一・五二	一七・六四
"	シンシンナチイ	二一・二〇
"	フィラデルフィヤ	二〇・七〇	一六・二五
古鑄鐵車輪	"	二〇・六五	一六・五〇
第一號鑄物キユボラ	ピツバーク	二〇・〇八	一六・〇〇
古鑄鐵車輪	シカゴ	一九・八〇	一四・〇〇
第一號鍛軌條	フィラデルフィヤ	一九・六四	一五・五〇
可鍛軌條	シカゴ	一八・八九

アイアン・エーザ 一九二九年二月十四日

戰後十年間の平均價格

現在價格



古鋼再壓延軌條	シカゴ	一八・七一
鋼肘機及聯結器	シカゴ	一八・五三
重鋼屑	ピツバーク	一八・一三	一九・二五
第一號鑄物軌條	シンシンナチイ	一八・〇一
第一號鍛軌條	シカゴ	一六・六一	一四・八四
重鋼屑	フィラデルフィヤ	一六・三五	一六・〇〇
Compressed sheets	ピツバーク	一六・三三
重鋼屑	シカゴ	一五・七三	一四・七五
鑄鐵ボーリングス	ピツバーク	一三・八九
機械工場屑	"	一二・七七
鑄物ボーリングス	シカゴ	一一・四四

米國屑鐵市況概要

四月中一高一低の状態の裡に多分の軟弱氣味を含んで居た屑鐵市況は五月に入りて漸く低落歩調を現はした、ピツバーク市場に在りては月初に二五仙下り月央に更に七五仙乃至二五仙下り遂に前月中の最高値に比して一弗二五仙乃至一弗方の低落振りを示した、而して D. M. T 紙 (Dairy Metal Trade) 五月一日の所報

第一表

日附	Pittsburg	New York	Philadllphia	ucinati	Montreal Que	Fornt ont
1	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	25-13.75	9.00	10.00
2	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	25-13.75	9.00	10.00
3	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	25-13.75	9.00	10.00
4	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	25-13.75	9.00	10.00
5	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	25-13.75	9.00	10.00
6	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	25-13.75	9.00	10.00
7	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	25-13.75	9.00	10.00
8	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
9	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
10	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
11	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
12	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
13	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
14	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
15	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
16	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
17	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
18	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
19	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
20	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
21	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	00-13.50	9.00	10.00
22	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
23	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
24	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
25	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
26	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
27	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
28	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
29	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
30	17.25-18.25	12.00-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
31	17.25-18.25	12.00-13.00	16.00-16.50	00-13.50	9.00	10.00
前々月 (三月)末日	18.00-19.00	13.00-13.50	16.00-16.50	50-14.00	8.00	9.50
前月末日 (四月)	18.25-18.75	13.00-13.50		17.0050-13.75	8.00	9.50

に依れば「屑鐵値段は近來一層の急落を呈せんとする状態を持續して居る、最近相當數量の現物賣買ありたるが其大部分は一類品一八弗支拂はれ、一八弗五〇仙に賣られたのは一少部分に過ぎない、しかも一週間前に於ては是等のものは一八弗七五仙にて取引せられたものである」云、又十六日の同紙は再び「ピツバーク屑鐵低落繼續」一類品一七弗二五仙乃至一八弗二五仙にして前月に比して一弗の値下り」なり云報し、但し「屑鐵の現實の缺乏は表面に現はれざるも供給の不充分は市場に於ける是以上の急落を期待し得ざらしめ商人は一七弗五〇仙以下にて屑鐵を集收せんとするも不可能である」云附加して居る、東部市場に付ては五月九日の D. M. T. 紙は「二五仙乃至一弗の値下り」需要の相對的輕減を報し「散在的に少量の需要は見受けらるゝが需要を總數量的に之を見れば相對的には輕少である、ベンジャミン製鋼會社は五、〇〇〇屯、某消費者は一五〇〇屯購入した」云記して居る、費 府にては月央に一時的強氣現れたが續かず下旬に入つては却つて五〇仙方の値下りをさへ見るに至つた他の市場に於ても上述せる所と大同小異にして市況一覽第一表の通りである唯例外的一現象として注意を惹くは加奈陀に近きモントリオール及ツーロント附近の市況である、加奈陀の屑鐵市場は先月中より活況を呈して居たが、五月四日の D. M. T. 紙は「五〇仙乃至一弗値上需要旺盛」カナダの屑鐵市場に於ては需要に付きて異常の變化はないが市價は上昇の傾向がある。而してツロント及モントリオールの商人によつて昂騰の報せらるゝは需要の旺盛云、鉄鐵値段の近時の上進に因るものである」云、従つてモントリオールに於ては前月に比して一弗高ツーロントに於ては五〇仙高を示して

第一表

五月中に於ける米國屑鋼市價一覽 (Heavy melting Steel scrap)

(單位 弗 ——ハ昂騰ハ低落)

日 附	Pittsburg	New York	Philadlphia	Boston	Buffalo	Chicago	Cleveland	Detroit	The Valley	St Louis	Birmingam	Cincinnati	Montreal Que	Fornt ont
1	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.75-16.25	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.25-13.75	9.00	10.00
2	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.25-13.75	9.00	10.00
3	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.25-13.75	9.00	10.00
4	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.25-13.75	9.00	10.00
5	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.25-13.75	9.00	10.00
6	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.25-13.75	9.00	10.00
7	18.00-18.50	13.00-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.25-13.75	9.00	10.00
8	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
9	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-12.75	13.00-13.50	9.00	10.00
10	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
11	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
12	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.25	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
13	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	15.75-16.50	14.25-14.50	17.75-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
14	18.00-18.50	12.50-13.25	16.00-17.00	11.50-11.75	17.00-17.50	15.50-16.00	15.70-16.50	14.25-14.00	17.75-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
15	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	11.50-11.75	17.00-17.50	15.50-16.00	15.50-16.00	14.00-14.25	17.75-18.25	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
16	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	11.50-11.75	17.00-17.50	15.50-16.00	15.50-16.00	14.00-14.25	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
17	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	11.50-11.75	16.50-17.50	15.50-16.00	15.50-16.00	14.00-14.25	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
18	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	11.50-11.75	16.50-17.50	15.50-16.00	15.50-16.00	14.00-14.25	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
19	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	11.50-11.75	16.50-17.50	15.50-16.00	15.50-16.00	14.00-14.25	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
20	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	11.50-11.75	16.50-17.50	15.50-16.00	15.50-16.00	14.00-14.25	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
21	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-17.00	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	14.00-14.25	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
22	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
23	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
24	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
25	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
26	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
27	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
28	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
29	17.25-18.25	12.50-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
30	17.25-18.25	12.00-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
31	17.25-18.25	12.00-13.00	16.00-16.50	11.50-11.75	16.50-17.50	15.25-15.75	15.50-16.00	13.75-14.00	17.50-18.00	14.00-14.25	10.25-13.75	13.00-13.50	9.00	10.00
前々月 (三月)末日	18.00-19.00	13.00-13.50	16.00-16.50	12.00-12.25	17.50-18.00	15.75-16.00	15.50-16.00	14.25-14.50	18.00-18.25	14.00-14.50	10.25-12.50	13.50-14.00	8.00	9.50
前月末日 (四月)	18.25-18.75	13.00-13.50	17.00	11.75-12.00	17.00-17.50	15.50-16.00	16.00-16.50	14.25-14.50	18.00-18.25	14.25-14.75	10.25-12.50	13.50-13.75	8.00	9.50

ロント及モントリオールの商人によつて昂騰の報ぜらるゝは需要の旺盛ニ、鉄鐵植段の近時の上進ニ因るものである。ミ、従つてモントリオールに於ては前月に比して一弗高ツロントに於ては五〇仙高を示して

居る、併し月末には稍々弱氣配に向ふと報ぜらる、次にコンプレッス、シート、スクラップは從來ヘヴィ、メルテング、スチール、スクラップよりも低値であつたが近來其歩調次第に相寄りつくあること別紙第三表の如し

米國主要市場に於ける屑鐵市價比較

(Heavy making Steel Scrap)

	一九二九年五月二十九日	一九二九年四月	一九二九年二月	一九二八年五月
ピツバーク	一七弗七五	一八弗五〇	一八弗六〇	一五弗〇〇
東部ペンシルヴァニア	一六〃二五	一七〃〇〇	一六〃三〇	一三〃七五
市 俄 古	一五〃二五	一七〃〇〇	一六〃二五	一二〃九五

即ピツバーク、東部ペンシルヴァニア、市俄古に於ては前月に比すれば一齊に低値となつてゐる、今各々前月市價指數を一〇〇とすれば、ピツバークは九六となり、東部ペンシルヴァニアは九五となり、市俄古に在りては九〇となる、されど之を前年同月即一九二八年五月の平均市價に比すれば相當の高位を示し今前年同月の各々市價指數を一〇〇とすれば、ピツバークに在りては一一八となり東部ペンシルヴァニアに於ても亦一一八を示し、市俄古に於ては一一七となる

(Steel Scrap)

品名	一九二九年五月二十九日	一九二九年四月	一九二九年二月	一九二八年五月
メルテング
スチール
スクラップ
コンプレッス
シート

屑鐵商華盛頓に會せん

主なる屑鐵商會と屑鐵消費者とが、聯邦産業委員から五月十三日華盛頓市ワードマン、パーク、ホテルに會すべく招待せられた。この會議は五月二十三日ピッツバーグに於て全國屑鐵商により開催せらるべき産業實地會議の前提である。

國家主腦部として屑鐵鋼協會理事長たるベンジャミン、シュワーツ氏は斷言して曰く「屑鐵工業が不公平なる慣習の改正に寄與しつゝあることは、屑鐵商人に對するに同様に消費者の利益であること、一般に認めらるゝは聯邦産業委員の名譽とする處である。一九二八年に於ける鋼塊の記録的生産及び現時に於ける生産の高率とは、唯屑鐵の使用を増加することによつてのみ可能にされることを世人は明白に認識した、平時たるご戦時たるを問はず天然資源殊に鐵礦の貯藏に關連して屑鐵及屑鋼の集聚、取扱及豫備に付て適當の管理を爲すことは國家的福利を確保するに極めて重要なことこの觀念を世人は抱くに至つた

合衆國を通じて積出された全積量の九〇%以上も商人の手によりて取扱はれ、又その責任を認識せる屑鐵鋼協會は、華盛頓に於ける消費者の助言並に考慮を得んご切望して居る。兩團體相互の利益に對し産業それ自体の内に、意見交換に對する導体が終には開發せられるだらうご期待されて居る。」

屑鐵業者と會合の爲製鋼會社招待せらる

聯邦貿易委員會 The Federal Trade Commission は五月十三日華府に於て、屑鐵協會の代表者ご會見せしむる爲主要製鋼工場を招待した、此の會議は來る五月二十三日ピッツバーグに於ける聯邦貿易委員會の所謂屑鐵工業内國會議の豫備である、拙劣にして不經濟な使用方の排除の爲屑鐵工業に依つて採用せらるべき解決策の作成の爲製鋼工場側の意見ご共働ごが求めらるゝであらう

鋼塊生産に於て使用せらるゝ鉄鐵は五〇%及屑鐵は五〇%である事實より之を觀れば製鋼工場に於ける生産の高率は屑鐵を重要原料たらしめたのである。一九二八年には二五〇、〇〇〇、〇〇〇屯以上の屑鐵が使用せられたものご推算せらる

(ニューヨーク、トリビュン紙所載)

屑鐵業の實施に關する討議

ユ、エス、テリー紙二月二十三日所載

聯邦貿易委員會の三月二十二日附聲明に依れば屑鐵協會の委員並貿易委員會の援助の下に維持せらるべき工業の委員の會議に於ては既に屑鐵業に於て生長せる諸企業の實施を調整せんごする努力が爲さるゝであらう、尙會議の時期及場所は近日中發表せらるべく委員長 C. H. マーチ氏によつて司會せらるゝであらう既に説明した様に米國の製鋼工場屑鐵平均使用歩合は屑鐵四五%に對し鉄鐵其の他の原料五五%になつて居る

委員會の聲明書全文左の通り

議案として提出せらるゝもの次の諸項である、即一定の規格に據る屑鐵の供給契約、検査に於て劣等品が容易に發見し得ない様な貨車積の措置、成品及經濟的基準に關する虚偽の表示を使用して競争者を誹謗すること。

商業上の賄賂、競争者を害ふ目的で爲す生産費以下の不當廉賣、超過數量に對し掛賣せざること等

屑鐵商は工場、田舎方面及鐵道から屑鐵を収集し米國の製鋼工場の消費に引當てることにして居る、屑鐵が製鋼業にこりて死命を制する様な重要原料であることは昨年記録的生产高なる五〇、〇〇〇、〇〇〇屯の鋼材に對し、屑鐵業者が製鋼工場に供給したる屑鐵の數量は二五、〇〇〇、〇〇〇屯を下らないといふ事實に徴しても明白である、比較的大工場は年間五〇〇、〇〇〇屯乃至一、〇〇〇、〇〇〇屯の所要高を有つて居る

鋼塊生産に於ける製鋼工場の屑鐵使用平均歩合を見るに屑鐵四五%及銑鐵其他の原料五五%である

屑鐵集收に従事して居る商人は三種に區別せられる、即行商 The peddlers、工場商 The yard dealers 及仲買商 The brokers である、行商は田舎地方から材料を漁り集める、工場商は工業的企業及行商より屑鐵を買ひ、適當の長さに切斷し屑鐵の品質によつて品分けし其他大製鋼業者の要求に適合せしめる様豫め準備するものである、仲買商は製鋼工場に大量の賣買契約を爲し、國內各地の工場商より買入を爲して其の契約を

履行するものであつて、屑鐵卸商人に觀られる、會議は工場商及仲買商に關するものである

屑鐵協會はシカゴ、クリヴランド、デトロイト、シンシナチ、ピツバーク、バアファロー、リーデング、費府、紐育、ハートフォード及ボストンの各製鋼中心地十一部によりて組織せられ、企業實施會議計畫の下に事業の自己統制を準備することを主要の事務として居る、此の協會は商人によつて製鋼工場に送らるゝ數量の八五%以上のものを取扱つて居るに評せられて居る

五月二十三日ピツバークに於ける屑鐵業協議會の概況

四、五、二四 テリーメタル紙

國內各地の屑鐵商は昨二十三日ピツバークに於て聯邦貿易委員會 The Federal Trade Commission の協議會を開き營業者並に公共に對し有害無益な屑鐵の營業方法を廢除するが爲に諸種の對策を攻究し十二箇條の決議を採用した、該協議會に於ける決議に依れば粉飾的貨車積込、競争者に對する誹毀、引渡遅延、契約の不履行、思惑的賣買行爲、營業上の賄賂行爲等は不當な行爲として非難せられた

一、協議會參加者

本協議會に参加せる營業者は約二〇〇餘名を算し國內に於ける屑鐵積出總額の約九〇パーセント以上は是等の人々の手に依つて取扱はる、聯邦貿易委員 G. S. ファギソン氏は本來司會する筈であつたが出席できな

かつたのでチャールズ、エッチ、マーチ氏は補缺として司會した、此の協議會は彼の企業遂行上の不圓滑を徒費を排除する原則を作成する目的の下に諸産業に付て聯邦貿易委員會に依つて企てられた幾多の協議會の中の一に屬す、ヘルマン、モスコウツエチ氏は協議會の書記に任命せられた

二、屑鐵協會々長の聲明

屑鐵協會々長ベンジャール、シユワルツ氏は諸種の決議に入る前に簡單に協議の目的を具陳した、本協議會の行動並に貿易委員會の努力によつて企業經營上拙劣を觀らるゝ實施行爲を排除せんことを屑鐵業者の齊しく切望する所であるを宣言した、尙彼は買賣兩者の間に存する相互扶助の缺乏を説き兩者間の信頼を協力に立脚すべきを強調した更に彼は消費者が屑鐵生産者より直接購入せんことを傾向に對して警告し此の傾向にして將來助長せられんか商人の位置は危殆に陥るべしと述べ製鋼業の機構上致命的に重要な屑鐵商の活動に何等かの制限を加へんことを製鋼業上極めて有害なるべき旨を指摘附言した

三、協議會の決議

委員會に依つて提出せられた十二箇條の決議はファギユソン氏之を讀上げたが遂に採擇せられた、第十三條は新に提案せられ投票の結果通過したものである、尙ファギユソン氏は參加者が公的署名を了するまでは本決議は拘束力を發生せざることの説明した

協議會に於ける決議左の如し

第一條 粉飾的貨車積込

一定の仕様に隨ひ屑鐵の供給を爲すべき契約の本旨に反し表見上の検査にあたり容易に劣悪品を發見し難き様排置して貨車に積込にて引渡を爲し因つて屑鐵の品級に付購入者を偽購するは不正行爲であり且つ反公共的行爲である

第二條 同業者に對する誹毀

營業の安全を阻害せんことを如き行爲又は事實上阻害し或は阻害を生ぜしむる原因を作り若は之に關して虚偽不正の文書を頒布し、相手方の契約履行能力若は商業上の信用に付て云々して同業者を誹毀するは不當競争に該當すべし

第三條 價格市場

單に尊敬すべき顧客を釣らんが爲何等眞に支拂ふ意思なきに拘らず、國內に於ける一般市場價格以上の値段を出すか若は不明確な文言を用ひ又は思惑的市場價格に産業を追隨せしめ其の結果國內市場を頽廢混亂に陥れ正常競争條件を破るが如きは不正行爲に該當す

第四條 注文に對する不履行

不可抗力又は當事者の責に歸すべからざる事由に因るに非ずして故意に注文を破棄し又は契約を履行せざるは不正行爲に該當す

第五條 契約妨害

詐偽其の他の方法を以て故意に契約期限内に現在の契約を破棄せしめ又は毀損せんことを企て若は契約上の義務其の他の義務の履行を阻害し又は阻害せんことを試み因て他人の營業、繁榮、商的信用の全部又は一部を滅殺し或は破壊し若は破壊せんことをするは不當競争に該當すべし

第六條 商業上の賄賂

商業上の賄賂は其形式の如何を問はず其内容の如何を問はず不正行爲不當競争反公共的行爲に該當すべし

第七條 斤量不足の證券

證券上に積込實數量を超過する數量を故意に記載するは不正行爲に該當す

第八條 表見的船荷證券

代金の前拂又は其他の對價を得る目的を以て虚偽の船荷證券其他の證明證券を作成し行使するは不正行爲に該當すべし

第九條 仲裁

斯業に於ては割引及引渡遅延に關し訴訟を提起するに屢々あり故に商人及仲買人間の爭論を仲裁調停するは妥當である且承認せられた法典の條項の下に形成せられた爭論の調停は、善良行爲として獎勵せらるべきものとす

第十條 生産費の計算

生産費の精確な知識は賢明な巧妙な競争には不可欠のものに認む而して上述の各不正行爲矯正の一方法として生産費の公平な定型的な方法を一般に採用することは緊要なるものとす

第十一條 超過數量

消費者に依て超過數量の掛賣が認められて居るにも不拘商人又は仲買人が超過數量を掛賣せざるは不正行爲である

第十二條 規約の遵守

規約の遵守は斯業に於ては本質的のものである實行委員が最後に選任せられ、規約違反が世評に上らぬ前に之が調停せられんことを希む、故に規約の總ての違反は第一に屑鐵協會に依つて審査判定せられんことを決議す

第十三條 協議會の繼續

屑鐵協會は不當不正の行爲を絶滅するが爲常設的協議會として存續し屑鐵協會の實行委員は規約の違反を審査し、聯邦貿易委員會に従ひ、斯の如き違反の調停を爲す爲に委員を選任し若し必要ありと認むるときは何時にても是等の規約を補正する爲に新に協議會の招集を聯邦貿易委員會に請求するを得べし、尙委員は何時にても本協議會の採用せる決議が形式的にも實質的にも遵守せらるゝや否やを確かむる必要

ありご認むるべきは之が調査及審理の爲特別委員を派遣する權限を有す

英國鐵屑調査委員會

戰後製鋼上鐵屑の需要漸増し之れが爲め武器其他戰時品の鐵屑として利用せらるるもの相當額に達したるも最近に至り此等鐵屑供給漸次困難を告ぐるに至りたるを以て歐洲大陸諸國に於ては已に其輸出を制限し佛國の如きは輸出許可證を以て少量の輸出を許可し居る有様なり、現在英國に於ては鐵屑に關し何等制限なきを以て最近二年英國よりの鐵屑輸出は急激なる増加を示しつつあり

英國鐵屑輸出入額數量

年次	輸入量(噸)	輸出品(噸)
一九一三年	一二九,〇〇〇	一一七,〇〇〇
一九二六年	一七六,〇〇〇	七一,九〇〇
一九二七年	七〇,七〇〇	二六〇,八〇〇
一九二八年	× 五六,九〇〇	三四四,三〇〇

×印の内一七,〇〇〇噸は愛蘭自由國よりの輸入なり

斯の如く鐵屑輸出増加し居るに共に英國製鋼業者も亦鐵屑の使用を漸増し一九一三年に於ては製鋼材料の

三割を占めたる鐵屑が一九二七年に於ては五割五分になり同年製鋼噸數九百九万七千噸に對する銑鐵の使用量は四百七十二万七千噸、鐵屑の使用量は四百八十八万六千噸を示し其後に於ても後者の使用量は依然漸増しつつあるを以て鐵屑の輸出を此儘に經過するに於ては聽て英國製鋼業に對し不利を來すの恐れなきにあらざりは斯業者間に唱へられ來りたる所なるが商務省に於て右事情を考慮し六月初め鐵屑調査委員會を任命するに至れり

因に鐵鋼業聯合會の調査に依れば一九二七年に於て製出せられたる鋼鐵の一噸に對し使用せられたる材料の割合左の如し

	Pig iron cwt	Scrap cwt	Other material cwt
Open hearth acid	8.82	12.24	1.34
Open hearth basic	10.37	10.61	2.82
Bessemer acid	20.35	2.31	1.03

鐵屑調査委員會委員氏名左の如し

- B. Roy Wilson (委員長) 前代議士にして會社重役
- Sir Henry Fowler 鐵道會社技師、戰時中軍需會官吏。 Sir Alfred Herbert 會社重役にして Machine Tool Traders Association の會長

C. K. Hobson

(幹事) 商務省書記官

現在鐵屑市價は内外需要増加ミ供給難を傳へ漸騰歩調を辿り殊に銑鐵及燃料の比較的高價にして英國銑鐵に對し一噸十志の輸入税を課しつつある大陸諸國は銑鐵を購入するよりは寧ろ鐵屑を輸入する方却て有利なるを以て鐵屑市價は本年四月現在に於ては銑鐵ミ同値を示すに至れり

銑鐵及鐵屑平均市價 (噸)

年次	鐵屑 (磅志片)	銑鐵 (磅志片)
一九二六年	三、一四、〇	四、二〇、〇
一九二七年	三、六、〇	四、七、〇
一九二八年	三、三、〇	三、一四、〇
一九二九年 (四ヶ月平均)	三、八、〇	三、一六、〇
一九二九年四月	三、一五、〇	三、一五、〇

鐵屑の市價騰貴に依り銑鐵の需要を増加する事ミなり從て銑鐵業の繁忙を來し從業者の増加を見得へしミなすものあるも鐵屑の需要者たる製鋼業者は其使用量漸増の折柄其後供給漸減し其市價騰貴するか如きは斯業の爲め思はしからすミし特に「サウス、ウエールズ」の鋳力工業には至大の影響を來すものミして其輸出制限を希望するに至れるものなるか最近任命委員會が如何なる方法を以て調査を進め如何なる手段採用方を

政府に勧告するやは興味ある問題ミして一般の注目する處なり

(商工省貿易課)

印度の屑鐵商内に就て

唐地港より本邦向け輸出せらるる商品は先づ棉花を最ミし骨肥料、羊毛、屑鐵、生皮等なるも其の輸出數量少く對本邦輸出貿易上價值なし云ひ得へし

一九二七—八年度統計によるも當港よりの羊毛の輸出は三〇、〇〇五、〇五五、英斤にして此の價格二六〇九六、九〇〇留比なり而して總体の八割五分は英國へ輸出せられ残余は米、白、佛、獨へ輸出さる、羊毛の品質本邦毛織物製織に適合せざるを以て輸出なきやに聞く、英國に於ては毛布の原料ミなり又羊毛に混交用ミして需要せらるるが如し

骨肥料 Bone-crushed

Bone-crushed の輸出は一九二七—八年度に於て

二四、六四六、噸

二、六七二、三三九、留比

而して Bone Meal (ボーンミール) の輸出は

一六、四九〇、噸

一、一四三、五五八、留比

而して又魚肥の輸出は

一、七七七、噸

一三七、六二六、留比 なり

Bone Meal のみ本邦へ輸出せられ過去三ヶ年の輸出數量並に價格を示せば

一九二五—六年

一、九〇〇噸

一七一、〇六五留比

一九二六—七年

二、四〇〇 "

一五一、〇三二 "

一九二七—八年

一、三五〇 "

七六、五三六 "

然らば屑鐵の輸出如何を見るに今日迄カラチ港より屑鐵は甲谷陀に移出せられ而して本邦に積出され統計上には本邦への輸出は皆無となり居れり

一九二八—九年以後の統計には當港より數千噸の輸出記録せらるる事なるも未だ統計發表せられず本年十一月、二月頃發表せらるる事なるへし

英領印度全体の輸出量左の如し

一九二五—六年

一九、六八〇噸

七九五、三三一留比

一九二六—七年

四三、一七八 "

一、九〇二、九一八 "

一九二七—八年

五九、一一六 "

二、〇七一、一〇一 "

即ち一九二七—八年度に於て五萬九千噸、二百萬留比の輸出にして印度主要港よりの輸出割合を見るに甲谷陀よりの輸出大部分を占む

一九二七—八年

甲 谷 陀

五三、六二四噸

一、九六四、四五三留比

孟 買

一五六 "

六、六七五 "

唐 地

—

—

マ ド ラ ス

二、八八六 "

四六、二七三 "

蘭 貢

二、四五〇 "

五三、八〇〇 "

合 計

五九、一一六 "

二、〇七一、一〇一 "

一九二七—八年度輸出數量の内本邦への輸出は四七、二〇五噸、一、四八九、四三〇留比に達し英領印度屑鐵輸出總額の七割強を占む

唐地港より輸出せらるる屑鐵は主として唐地附近の鐵道工場より賣拂はるるものにして現に拂下げ入札中のもの

North Western Railway

カラチ鐵道工場

一、五〇〇噸

サリカル "

一、五〇〇 "

ラホール "

六、〇〇〇 "

唐地驛渡し値段

計

九、〇〇〇〃

一、二等品混合

二三留比

一噸に付

一ヶ月前

一九〃

〃

F、O、B、唐地値段は一噸の費用五留比なるが故に現在一噸二十三比とする時は二十八留比見當なり
本邦に於ては屑鐵の等級一、二、三に區別す

即 一級品、長、四尺以内、巾、二尺以内、厚二分以上

二級品、長、巾、制限なし、厚み二分以上

三級品、厚み二分以下、鉄力及トタン板の如きものにして長さ、巾共制限なし

本邦より買付くるものは一、二級品のみなり

屑鐵輸出に於て最も困難を感じるは船腹の獲得にして一般に船は荷役に非常に不便なる屑鐵の積み取りを好まず又相當數量纏るに非れば船腹を與へず又品物が常に供給せらるるものに非を以て益々船腹を得るに困難なり之れ屑鐵商内に於ける一大支障にして日本向唐地港よりの屑鐵の甲谷陀へ移出せらるる次第なり
本邦當業者にして唐地にて屑鐵を時々買付け自己の保管地に推積し相當數量に達せる場合積取りの爲め船を回航する様にせば有利なる商内をなし得る事疑はざる所なり
(商工省貿易課)

南阿の鐵鋼業

(抄譯)

(其の沿革と發達)

The Iron & Coal Trades Rev., March 1, March & 1929.

目次

- 一、序
- 一、アレトリア採鐵株式會社の組織
- 一、新式工場の必要
- 一、資本算段上の困難
- 一、鐵鋼生産上の奨励金
- 一、獨逸技術員の來阿
- 一、其の後の展開
- 一、鐵鋼法案
- 一、南阿鐵鋼インダストリアル・コホレーション
- 一、石炭の供給
- 一、石炭及鐵礦石資源
- 一、利用し得べき煤溶劑
- 一、新工業に對する要素

二月二十六日火曜日 帝室技術協會に於ける領土及殖民地部會の席上電氣供給委員會 (the Electricity Supply Commission) 長兼南阿鐵鋼業株式會社 (the South African Iron & Steel Industrial Corporation, Ltd.) 社長 H. J. Der Byl 氏は、目下南阿に鐵鋼業を樹立せんが爲め購ぜられつゝある手段に就き興味ある演舌を試みたり

氏は冒頭其の歴史を論じて曰く「一九〇九年政府の鑛山技師ロバートエヌ・コッツ郷 (當時はロバート・エヌ・コッツ氏) は一報告書を呈して極力相當規模の鑛鑛爐及製鋼所の建設を唱道せられしこゝありしが其の目的は、鋼生産の爲めに土地の鑛石を利用せしめんことを在りき、因にフレトリアには多量の鑛石存在するこゝ明かなりき

一九一〇年トランスヴァール政府は、英國の専門家、エフ・ダフリユー・ハーボルド氏を聘して更に問題の調査に當らしめたるが不幸にして氏の報告は否定的のものに屬せり氏は鑛鑛爐を建設する代りに鐵道方面より利用し得べき大量屑の熔解を電氣爐に於て成すべきことを勸告せるが仰もハーボルド氏の反對理由の主たるものは、フレトリア地方の鑛石は餘りに硅酸分高きが爲め良結果を與へざるこゝ内地市場が、大規模に經濟的作業を行ふ鐵鋼工場の生産品を吸収する能力に乏しき點にありき

當時に於ては、クロコダイル河沿岸に存在する大量の高度ヘマタイト鑛床は未だ發見せられざりしが此れは別に英國の製鋼業者は、ハーボルド氏の意見に同意するこゝを得ざりき、何となれば一九一〇—一九一一年

に於て或る一流の英國製鋼業者がフレトリアの市有地に鑛鑛爐並製鋼工場を建設せんが爲め市當局に既に折衝を初め居れりければなり、恰も其の頃トランスヴァール政府に於ては、ハーボルド氏報告の結果として鐵鋼業の着手を奨励する目的を以て鐵道の大量屑鐵を賣物に出すこゝに決したり、入札行はれたるが故サミュエルマークス氏の手に落札したり、其の結果前記フレトリア市當局の折衝は、大量の屑鐵を入手し得るにあらざれば其の計畫の實行は不可能と考へられたるが爲め遂に抛棄せらるゝに至れり

一方サミュエルマークス氏其他の人は政府の屑鐵を購入し得たるが爲め Vereeniging に小規模の製鋼所を設立したるが此れ後の南阿ユニオンスチールコーポレーションの前身たり、然れども又 Johannesburg 近傍にダンスワート鐵鋼所が當時既に存在せるこゝを記せざるべからず

フレトリア採鑛株式會社の組織

故に一九一七年に至る迄は、屑鐵のみを原料とする小規模の製鋼所二ヶ所に存在せるのみなりしが同年シ・エフ・デルフォス氏はフレトリア鑛石の適否を試験する目的に並に同地に鐵鋼所を設立せんが爲めフレトリア採鑛株式會社なる小會社を組織したり、彼は一日十噸能力の試験用鑛鑛爐を建設せるが、四千噸の良鉄鐵を産し得たり、彼れは煤溶劑として鐵鑛床に隣接して多量に存在するドロマイトを使用したり

フレトリアの鑛石は平均四十八パーセントの鐵を含み、硅酸分高かりしも實驗は同鑛石に隣接のドロマイ

トを以て適當なる銑鐵を作り得ることを證明せり

新式工場の必要

テルフォス氏及其の社友は、「若し十分の能力を有する新式工場を建設せば製鋼業の成功疑なきこと」を信じ一大會社の組織を決定したり、而して資本金一百万磅の The South African Iron & Steel Corporation の設立を見るに至れるが同時にプレトリア探礦會社を引き継ぎたり、然れども當時に於ける同會社の拂込金は三萬五千磅に過ぎざりき、此の金額は斯業の可能性並に資源の調査に使用せらるゝと同時に必要なる鑛床の獲得に向けられたり、而して現在に於ては、一億五千萬屯の鑛石を所有するに至れるが其の三分の二の鑛石は鐵分四八パーセントを含み、三分の一は六八パーセントを含めり、又大炭田と溶劑に適する殆んど無限と稱せらるゝドロマイトを所有す

一方ダンスワートの製鋼所に於ても之れと同様の發達を示せり、其の設立に其の成功に最も力を致せる人としてはヂ・ケ・イトン氏を擧げざるべからず、彼れは、「斯業を眞に發達せしむる爲めには、銑鐵の基礎を有するこの必要」を認め、ナタールのニユカツスルに一小鑛鑪の建設準備に着手したり、一九二〇年テルフォス氏は資本並に技術上の助言を得んが爲め渡歐せり、彼れは、當時スキニンググローブ製鐵所の工場總支配人たりしアーネストベリー氏を顧問として聘したり、ベリー氏は徹底的に原料關係を調査し而

して一九二一年に南阿に向へり、彼れは技術及商業の兩見地より全く有利の報告を與へたるが其の結論に次の如く云へり「プレトリアの鑛石は硅酸分高しと雖本鑛石を以て優秀の鋼を生産するに此の困難を感じることはなかるべし」

資本算段上の困難

ベリー氏報告の結論は、製鋼業の監督役ビード郷に依り經濟的諸要素に就きて攻究せられ又其の技術方面に關する結論は當時の鐵鋼學會々長故ステッド博士の檢閲に供せられたるが同博士は一九一〇年反對の報告を成せるハーボルト氏も相談協議したり、此等の専門家は技術經濟方面よりベリー氏の所論を確證したり、斯の如く技術經濟兩方面より事業の實行可能を保證せられたるが爲め、只残れる問題は十分の資本を得るに在りしが此に關しては尠からざる障礙に逢着したり

最初一九二〇年に於て資本金の算段を試みたる際には、商務融通相談所 (The Trade Facilities Advisory Board) の援助を乞へり、此れに對し同相談所は南阿政府の保證を要求し來れるも遂に其の保證を得ることを得ざりき

デルフォス氏は資本を得る爲め更に國內他方面に奔走せるも失敗に終れり、然れども結局英國著名の鐵鋼會社に對し彼等をして南阿の鐵鋼業樹立に干與せしむる目的を以て交渉を待ちかけたり、而して南阿に於て

の鐵鋼業は會社の合同を有利に認められ商議の結果は三會社即ちユニオン、スチール、コーボレーション、南阿鐵鋼コーボレーション及ニユカツスル製鐵所の假合同となり、而してプログラムを遂行する爲めに十分の資本を算段すべきことを本合同の最も重要な約定となせり

鐵鋼生産上の獎勵金

一九二〇年末 Van Der Byl 博士は、工業事項に關する政府の技術顧問として南阿に歸り彼は南阿に於ける經濟事情を調査したる後次の結論を與へたり、「目下南阿の工業的發達には抑も適當なる基礎を缺けり、而して余の見る處に於ては、此の基礎は鐵鋼業を以てする外なかるべし」を、而して當時の首相スマツ大將に協議の後南阿の鑛石を以てする鐵鋼の生産に對し補助金を與へ以て斯業を獎勵することに決したり、此の獎勵金の最高額は鉄鐵一屯當り一五志、鋼一屯當りも同額にして工場能力は少くも年五萬屯を下るべからずこの條件を附せられたり、本獎勵金法案は一九二二年の議會を通過したり其の結果再び資本の算段に就て商務融通相談所に交渉せるも失敗に歸し倫敦に於ける其他の交渉も條件不満足の爲め纏まらず遂に英國に於ける資本算段は抛棄せらるゝに至れり、此れが爲め南阿鐵鋼コーボレーションは合同より脱退するに至りたり

獨逸技術員の來阿

一九二三年スマツ大將は大陸のユニオン、トレード委員に命じて、南阿に於ける製鋼業の參加に誘致し得べき會社の有無を調査せしめたり、其の結果政府は獨逸のグーテホフマンガスヒュツテより技術委員を南阿に派し、若し調査の結果にして有利なりせば英、和、獨の財團に共力して事業に着手せんこの報告を受けたり、一九二四年早々技術委員は、南阿に向ひ問題の精査を行ひたり、彼等は全く有望なる報告を齎せしが報告中に、鋼材一三二、〇〇〇英屯の生産能力を有する一工場を總べての點より最も有利なる場所と思惟せらるゝブレトリアに建設せんことを勧告せり、然れども不幸にしてルールの占領は此の計畫の實行を不能ならしめたり

其の後の展開

當時民間よりの資本の算段は、不可能を考へられたるが故に一九二五年末デルフォス氏は聯邦政府に對し、半官半民會社の組織を目的として製鋼業を財政的に援助せんことを建言したり、兎角する内にニユカツスル製鐵會社は、ユニオン、スチール、コーボレーションに依り併合せられたるが、前者に於て製造したる鉄鐵は之を約二百哩距る Vereeniging のユニオン、スチール、コーボレーションの工場に輸送し以て鋼の製造に當つることを協定せり、一方イトン氏の着手せるニユカツスルの鑛鑪は完成し一九二五年に於ては操業を開始し居れり

昨年ステワードエンドロイド會社は Vereinging に新式チューブ工場を建設したり、今や Vereinging に於ては製鋼所一ヶ所（平爐及電氣爐に於て、層及ニユカツスルの銑鐵を以て製鋼し、製產品は六十封度軌條小形物及前記チューブ工場用のチューブブランク、鋼鑄物及フォーヂング等）平及棘線製造の線材工場一ヶ所及前記のチューブ工場一ヶ所合計三ヶ所の工場を見るに至れり

政府當局は、Vereinging の製鋼所、Newcastle の製鐵所との合同は經濟的能力不十分にして希望する如き國家的規模の鐵鋼業に之を發展せしむるこの難きを認めたるが爲め一九二三年に組織せられたる電氣供給委員會の手に於て鐵鋼業を設立せんが爲め立法權に訴へたり

鐵鋼法案

鐵鋼法案は一九二七年の議會を通過したるも上院の否決する處となり、故に政府は兩院協議會を開催し以て議案を通過せしめたり、茲に於て The South African Iron & Steel Industrial Corporation, Limited を設立せられ而して協定の結果此の新會社は The South African Iron & Steel Corporation を併合するものなりたり

電氣供給委員會並に此の新會社は共に其の組織上の性質に於て普通の會社とは趣を異にす、電氣供給委員會は政府の部局にあらざるも法人團體にして法令に依りて設立せられたるものなり、委員は總べて政府の任命する處なるが其の報酬の支拂は政府にあらざりて委員會より支出す、委員及び委員會の備員は何づれも文官にあらざり

委員會は凡ゆる點に於て民間會社同様自由に仕事に従事するこゝを得只異なる點を概説すれば、營利會社にあらざるなり、資本費を支拂ひたる後の剩餘金は全部之を電氣料金の値下に當てざるべからず、一方委員會の享有する利點は、政府より與へらるゝ財政的援助に在り、政府は同會創立後七ヶ年間即ち一般公衆より資金を得るの困難なるべき期間中同委員會に對して資金を與へ來れり、而して政府より借入れたる負債に對しては委員會の收入に資産を以て其の債務に充つ

南阿鐵鋼インダストリアル・コーポレーション

此の newly 組織せられたる南阿鐵鋼インダストリアル・コーポレーションは正式に登録せられたる會社にして合計七人の重役中、四人は政府之を任命し其の中に熟考權並に採決權を有する議長を含めり、其の認可株資本は三百五十萬磅、別に百五十萬磅に達する社債の發行を許され合計五百萬磅の資本を有するものなり

前記三百五十萬磅の資本株中政府の持株は五十萬磅にせられ而して百五十萬磅の社債に對しては元利共政府に於て保證せらるゝと同時に亦コーポレーションの資産を以て之れが擔保に充つ、故にコーポレーションは二百萬磅は之を確保し殘額の資本を公募せざるべからず、社債の利子は五パーセント二分の一を超へざる

率に於て支拂ふ筈なり、株の内政府の持株(A株)と公募株(B株)との配當率は双方共六分等分となせるかA株に支拂はるゝ配當率は之を以て最高となす、然る後利益の殘額は、最高一二パーセント二分の一迄B株に支拂ふこととなせり、斯の如く利益の配當を終へたる後の剩餘は、重役の手に於て可然鐵鋼價格の値下に利用せらるゝ、尙重役會は、株或は社債の發行を見越して其の發行高まで時々借款することの權利を與へられ居れり、又別途の借入れを成し得るも此の場合は、總督の認可を要し借入れ額は百萬磅迄制限せらるゝ、建設中の發行社債に對する利子は資本勘定に記入することを得

電氣供給委員會創立以來の會長としてバイル博士は責任を以て左の如く言へり

「余は、未だ政府より委員會の事に關し些の干渉を受けたる覺えなし又政府はスチールコーポレーションに關しても同様の政策を取るべしとの保證を議會に於て與へたり」

コーポレーションに與へられたる廣汎なる權限は、重役をして當初より頗る重大なる政策問題に直面せめたり、鐵鋼業法令を發布せる政府の政策に就きバイル氏は次の如く説明せり

抑も該法令發布の目的は、勢力あるコーポレーションを生み出し之れに財政的援助を與へ以て國內現存の斯業を競争せしむるにあらざりて其の主眼とする點は鐵鋼の製造が國內一般工業の發達を刺戟する上に甚大の影響を及ぼす經驗に着目し製鐵業なる基礎工業を起して機械工業其他諸工業の土臺を築き上げる上に一大貢獻をなさしめんとするに在り、第二には從屬工業の發達を確實ならしむるを目的となせり

石炭の供給

故に根本政策として、出來得る限り、レール、スリッパー、建築材料、シートバー、ライトシート、ピレット及線材の如き民間企業の要する主要鋼材の生産に努力を集中することに決したるがこは、從屬工業の發達を促さんため與へたる好機會を民間企業會社が捕へ得るものと思はればなり、又其の努力を從屬工業の投資援助に向け其の發展を奨励すこせば、スチール、コーポレーションの裨益する處更に多かるべきを疑はざるなり、斯の如きが故にたこへ、コーポレーションに於ては既に炭田を所有し居るこは雖、満足なる條件が得らるゝ限りに於ては、自用炭採掘の爲め新炭田に資本を投下するより寧ろ現存の炭田より購入するを賢明の處置たりと云ふを得ん

斯の如き一般政策の結果として *Yerewithings* 及 *Newcastle* に工場を所有せる、ユニオン、スチール、コーポレーションとの間に平和的作業協約締結せられたるが此れに依りて多年製鐵會社間の確執は終熄せるものが見られたり、プレトリアに鐵鋼所の設立建議せられたり、十二年前デルフォス氏を動かして試験鑄鐵爐を建設せしめたる鐵鑛床は、プレトリアの市有地、市の中心より約四哩の處に大部分存在す、コーポレーションはプレトリア市會との間に九十九ヶ年の契約を締結せるが此れに依りて鐵鋼所の敷地は無償にて得られ鑛石は、年五百磅の鑛山税を支拂ひて採掘することを得、又水の供給に對しても市會との間に有利の條件に

於て規約せられたり

石炭及鐵鑛石資源

石炭及鐵鑛石の資源に關しバイル氏は次の如く云へり

硅酸赤鐵鑛の鑛量約一億噸を見積られ其の含鐵分約四八パーセントを算す、別に含鐵分平均五四パーセントの泥鑛約九百萬屯あり、硅酸鑛石は製鋼所に隣接する山腹に於て數年間露天掘を以て採掘することを得べし此の外含鐵分約六八パーセント鑛量大約五千萬屯の極めて純粹なる赤鐵鑛床プレトリアの北方約百十五哩のクロコゲイル河畔に在り、而して鑛石は露天掘及び坑内掘の双方に依りて數年間採掘することを得べし

南阿聯邦の石炭資源は、二千五百億屯を見積られ主として東部トランスヴァール及ナタールに在存す、ナタールの炭田は優秀なる骸炭用石炭の數層を含み比較的採掘容易なり、然れども炭田はプレトリアより二百哩以上を隔て距離余りに遠きに失す、トランスヴァールの炭田(ワイトバンク地方)はプレトリアを距る約六十哩プレトリア、デラゴア灣間の本道に沿うて存在す、而して石炭は、ナタール炭の如き良骸炭用の品質を帶びざるに雖製鋼用の石炭は全部或は少くも大部分は、本炭田より取ることを得べし

利用し得べき煤溶劑

鑛鑪に要するドロマイトは、製鋼所敷地より數哩以内に多量に存在し索道に依りて工場に運ぶことを得べし、一方爐用石灰石もトランスヴァールにて得らる

最初鋼産年約十五萬屯の工場を建設し以後の發達に備ふる爲め容易に擴張し得る方法に於て工場を設計する筈なり

新工業に對する要素

ハーボルト氏は、十八年以前彼れが報告を提出して以來著しく事情の一變せることを指摘したり、南阿に於ける鐵鋼業の成功如何は、主として次の二項に懸れり

- 一、相當價格を以てする原料の供給豊富ならざるべからず
- 二、製品を吸収する市場あらざるべからず

抑もハーボルト氏が其の十八年前の報告に於て反對の結論を與へたる所以のものは、主として當時の市場が鐵鋼業の設立を許す程度に發展し居らざるに在りしが爾來南阿に於ける鐵鋼材に對する市場は長足の發展振を示し加ふるに、プレトリアに隣接して、硅酸分の低き新鐵鑛資源の發見せらるゝあり、一方に於ては又骸炭用石炭發見せられ同時に銑鐵用の溶劑として全く申分なき大量のドロマイトも亦發見せられたり、斯の如く十八年以前の事情は全く一變せるを以て、今日に於ては、ハーボルト氏も斯業の設立に對しては

機熟せるものみなし全く同意を表するに至れり

ドイツの鐵經濟狀況 (一九二八年)

(昭和四年四月四日附在ハンブルグ帝國總領事代理山路章報告)

一九二七年に於ける鐵工業は前年に比し、非常な跳躍を示し其生産量の如きも今迄の記録を爲して居るのであるが、一九二八年には再び反動を生じた。一九二七年は國內市場の需要力が特別に良好であつたので、獨逸鐵工業は外國取引に對しては餘り注意を向くる必要なく、唯顧客との接觸を維持するを以て足れりとしたのであるが、一九二八年は之を全く反對の傾向を示した。即ち建築界の不振、農業界の窮狀、鐵道註文の不十分、金融の逼迫等は相俟て鐵の國內消費を少からしめたのであるが、世界市場は之に反し、漸次其需要力を増加し、從て輸出價格も徐々に引上た。五月製鋼組合が輸出割合を一〇%丈引上、三〇%としたことは要するに國內賣行減退の有力な證左である。國內賣行と外國賣行との關係が漸次變化して行たことは、次に掲ぐる壓延製品仕送の内外百分比例を見れば明である。

	國內	外國
一九二七年	七六・七	二三・三
一九二八年 一月	七二・一	二七・一
二月	七〇・九	二九・一

三月	六九・〇	三一・〇
四月	六六・九	三三・一
五月	六六・〇	三四・〇
六月	六七・一	三二・九
七月	六五・一	三四・九
八月	六六・八	三三・二
九月	六七・三	三二・七
十月	六九・三	三〇・七
十一月	七六・九	二三・一
十二月	七四・九	二五・一

右表に依れば鐵物外國賣行の割合は、既に年初に於て前年の平均率より著しく多くなつて居ることが解る。最後の二箇月が殆ど一九二七年平均率同様であるのは、彼の西北部地方に於ける鐵工業争議に因る生産力減退の結果、先づ國內需要を充たさむに努力した爲である。

國際粗鋼カルテルの制限ある外、對外取引収益も餘り思はしくなかつたので、外國市場の需要力に應じて輸出を増加することは固より不可能であつたが、夫でも當業者は國內市場に於ける損失を外國取引に依りて少しでも補填しように努力したのであつて、此事は各月に於ける註文率に關する左表を見れば明である。一九

二七年十二月に於ける註文率の特に多いのは、一九二八年一月に於ける價格引上を見越してのことである。(一九二六年を一〇〇とす)

月	註文		各月第一日に於ける註文在高	
	一九二七年	一九二八年	一九二七年	一九二八年
一月	五六・〇一	九二・六七	一九一・三二	一六四・〇三
二月	七〇・二一	九七・八一	一六六・三五	一六一・二二
三月	一六二・一八	八六・二九	一五〇・三一	一五四・二〇
四月	一〇二・八五	一二三・〇七	一七八・二四	一三三・二六
五月	一〇九・一三	一二一・四六	一七五・一三	一四六・六三
六月	一三七・五五	一四七・四五	一八一・八六	一五四・〇四
七月	八八・八五	八〇・三八	一九四・六五	一七一・五七
八月	八二・〇七	一〇二・五〇	一七七・二一	一五四・一〇
九月	八八・三七	一二〇・六五	一五七・八三	一五五・七八
十月	九九・三一	—	一四二・一六	—
十一月	一〇一・七六	—	一三五・四一	—
十二月	一六五・九一	—	一三九・五八	—

各月初に於ける註文在高を見れば、昨年に於ける取引事務が前年に比し如何に振はなかつたかを容易に看取するここが出来る。

獨逸國內に於ける景況と鐵價との關係は甚だ興味あるものがある。一九二七年は財界好況であつた爲當業者は左程困難なしに鐵價を引上ることが出来たであらうが、遂に之を實行せなかつた。若し當時の好況を少しでも利用して居たら、昨年の勞働爭議は左程深刻な影響を及ぼさなかつたであらうことは一部論者の唱ふる所である。即ち當業者は昨年賃銀引上及勞働時間短縮に對する手段として、財界退調に拘らず鐵價引上を行ふより他に途が無かつたのである。而して價格引上は當業者の負擔力を増加せるものこの空氣を醸成するに至り、年末に於ける西北部地方爭議に際し、企業者側が斷然ロックアウトの態度を取らねばならなかつたのも、其基く所は畢竟此矛盾せる價格政策に因る所決して少くないであらうと觀られて居る。近來一部當業者間に於てシンヂケートに對し幾分倦氣を催して居る様に見受けらるゝのは、先づ第一に價格問題に對する組合伸縮力の缺乏に歸せねばならない。即ち彼等はより自由なる結合に依て、國內景況の動搖により能く適應せむことを欲して居るのである。

一九二七年及一九二八年各月國內價格は左の通りである。(一噸當馬克)

年	月	棒		支		厚 鉄 力
		棒	鐵	棒	柱	
一九二七年	一月	一四〇・〇〇	一三八・〇〇	一三一・〇〇	一三五・〇〇	一四八・九〇
一九二八年	一月(十二日迄)	一三〇・〇〇	一三八・〇〇	一三一・〇〇	一三五・〇〇	一四八・九〇
	一月(十三日以降)	一三七・〇〇	一三三・〇〇	一三一・〇〇	一三〇・〇〇	一四八・九〇
二月乃至四月	二月	一三七・〇〇	一三三・〇〇	一三一・〇〇	一三〇・〇〇	一四八・九〇
	三月	一三七・〇〇	一三三・〇〇	一三一・〇〇	一三〇・〇〇	一四八・九〇
五月	五月(十一日迄)	一三七・〇〇	一三三・〇〇	一三一・〇〇	一三〇・〇〇	一四八・九〇
	五月(十一日以降)	一四一・〇〇	一三五・〇〇	一三一・〇〇	一三〇・〇〇	一四八・九〇
六月乃至十二月		一四一・〇〇	一三五・〇〇	一三一・〇〇	一三〇・〇〇	一四八・九〇

外國價格は左に示す通り、相當引緊て居たが、針金(之に付ては鞏固なる國際販賣組合あり)を除く其他の價格は終に一九二七年初期に於けるものに達するを得なかつた。大體に於て輸出鐵物の平均收益が増加しは云ふを得ない。之は諸製鐵會社の營業報告を見れば明である。

一九二七及一九二八年各月輸出價格の平均左の通り。(一噸當 F.O.B 海港渡價格、一磅を二十馬克として換算せるもの)

年	月	棒	柱	厚 鉄 力	針 金
一九二七年	一月	一一八・五〇	一一六・〇〇	一四〇・〇〇	一一〇・〇〇

二月	一〇六・五〇	一〇四・三五	一三六・七〇	一一四・一五
三月	一〇一・一五	九九・七五	一三七・五〇	一一〇・〇〇
四月	九八・五〇	九七・二五	一三七・二五	一〇八・五〇
五月	九四・一〇	九三・六〇	一三三・七五	一〇八・三五
六月	九五・五〇	九四・二五	一三三・五〇	一一〇・四〇
七月	九三・八五	九二・八五	一三二・五〇	一一二・五〇
八月	九四・二五	九一・五〇	一三四・六〇	一一二・五〇
九月	九三・六〇	九〇・四〇	一三六・七〇	一一二・五〇
十月	九三・二五	八九・七五	一三七・五〇	一一〇・〇〇
十一月	九四・七〇	八八・七〇	一三八・一〇	一〇九・二五
十二月	九七・八五	八七・八五	一三七・五〇	一〇八・七五
一九二八年一月			一三六・一〇	一〇九・六〇
二月		九三・二五	一三六・一〇	一一三・七五
三月	一〇五・六〇	九四・三五	一三六・一〇	一一三・七五
四月	一〇四・七五	九三・二五	一三六・七〇	一一五・八五
五月	一一五・七五	九七・四〇	一三七・五〇	一一六・二五

一九二八年の鐵鋼生産は景況漸落ミ、勞働爭議ミに拘らず、尙相當量に達して居るが、之を一九二七年殊に一九一三年生産に比ぶれば多大の遜色あるを免れない。生産の左程減退しなかつたのは主として外國輸出の増加した結果に外ならない。

尙經驗上より見るに需要の増加した場合に生産を擴張するこゝは、需要減退の場合に生産を縮小するこゝよりも速に行はれるものである。

一九一三年及近年の鐵生産は左の通り。(單位百萬噸)

六月	一一五・〇〇	九九・五〇	一三七・五〇	一一八・七五
七月	一一四・二五	九六・八五	一三七・五〇	一一〇・〇〇
八月	一一九・七〇	九九・二五	一三七・〇〇	一一一・五〇
九月	一二二・五〇	一〇〇・四〇	一三六・八五	一一一・八五
十月	一二三・一〇	一〇三・七〇	一三七・五〇	一二二・五〇
十一月	一二五・〇〇	一〇三・〇〇	一三七・五〇	一二二・五〇
十二月	一一六・〇〇	一〇一・〇〇	一三五・〇〇	一二二・五〇

一九一三年	舊領	一六・七六	粗鋼	一七・一五	壓延製品	一五・六〇
一九一三年	新領	一〇・九二	粗鋼	一一・七七	壓延製品	一一・六四

粗鋼生産の種類別は左の通り。(單位百萬噸)

一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
一九二八年	一九二八年	一九二八年	一九二八年

トーマス法	一九一三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
	(新領)	五・二八	五・一一	五・四五	六・九二
ベッセマー法	〇・一六	〇・〇二	—	〇・三五	〇・〇三
シーメンス(鹽基)	五・九九	六・四八	六・四八	八・七三	七・三六
マルチン(性)	〇・二八	〇・一五	〇・一二	〇・一九	〇・一五
同法(酸性)	〇・一四	〇・一三	〇・〇七	〇・一六	〇・一四
増端及電氣爐法	—	—	—	—	—

壓延製品生産の種類別は左の通り。(單位百萬噸)

半製品	一九一三年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
	舊領	二・八〇	一・三三	〇・九五	一・二五
鐵道線路用材料	二・四七	一・六三	一・五〇	一・五九	一・七五

シーメンスマルチン法に依る粗鋼生産は一九二七年急増し、一九二八年急減して居るが、該法の最伸縮性に富む點より觀て、右は景況の變動を最能く反映せるものと思ふ。
次に壓延製品中には棒鐵が依然最重要なる地位を占めて居る。蓋し棒鐵輸出は最近二年間に特に顯著なる發達を遂げた爲である。鐵道線路用材料の生産が前年より可なり減少して居るのは鐵道注文の少き爲に外ならない。建築界不振の聲が高かつたに拘らず、柱鐵生産の減退が割合に少いのは注目し値する。塊鐵等半製品は依然振て居ない。

本年の發展趨勢は今の處不明である。先づ國內市場に於ては未だ改善の徴候が見えて居ない。鐵鋼加工業方面よりの情報は、何等順調を傳へて居ないし、是等工業に於ける失業者及短時間労働者数は最近著しく増加した。農業界は收穫の良好なりしに拘らず、収入は前年より却て減じて居る。鐵道も差當り特に大なる注文を爲す様子も見えない。從て鐵工業は今後更に輸出方面に向て意を用ひねばならないであらう。幸世界市場の需要力は益々増大の模様であり、加之三月中旬ブラッセルに於て開催せられた國際粗鋼カルテル例會に於ては、全生産年額を二百萬噸丈増加した外、獨逸輸出割當を更に三十三萬噸へ増加した趣であるから、獨逸當業者に取て甚だ都合ミ爲つた譯である。尤も國際粗鋼カルテル其者の運命が結局如何に爲るであらう



かこ云ふことは今尙判明して居ない。

世界の滿俺鑛業概況

アイアン・エンド・コール・トレード・レビュー 一九二九年四月五日

數年間に互り英、米、獨及佛の四ヶ國は、世界滿俺鑛産額の大部分を買占め以て其の製鋼業の需要を満し來れり。一九一七年前に在りては、彼等の需要は主として露西亞（高架索）印度及びブラヂルに依つて満されたるものなりき。一九一七年英國の地質調査局は阿弗利加ゴールドコーストの滿俺鑛床を發見したり、而して此の資源よりの運鑛高は、逐次増加し今年三十六萬五千屯を算するに至れるが、其の一九二八年に於ける生産能力は年六十萬屯に稱せられたり。一方露西亞ウクライナのニコポール鑛床に於ける一九二五年の産額は、伯林のラトワツク及グルーンフェルト商會に依りて處理せられ、又統計の利用せられべき最近年即一九二七年に於ては、約一九三、〇〇〇屯の高度鑛大陸諸國に輸出せられたり。戦前に於ては本鑛床産額の大部分は自國の製鋼業に利用せられたりき。世界滿俺鑛現産額の九割以上は露西亞、印度、ゴールドコースト及びブラヂルの産出に係はり殘餘は其他の二十ヶ國より産出せらる。

供給獲得運動

過去十年中滿俺消費諸國に於ては、或は政略に依り或は商業上の管理に依り各自の需要を満し得べき資源

の獲得運動盛んに行はれたり。ブラジルに於ける最大鑛山は合衆國スチーコーボレーションの附屬會社に依りて經營せられ、又米人は、阿弗利加ゴールドコーストの産鑛を請負契約に依りて管理す。英國は、國內の四大フェロマンガ製造業者が印度全産額の六割以上を産する印度のセントラルマイニングプロビンス會社との合同に依りて滿俺の供給を確保す。獨逸に於ては一九二八年南部アナトリアン採鑛會社を組織し南部小亞細亞に於ける鑛床の所有權を獲得し専ら其の活動をマクリ (Malak) 附近に集中し居れり、一九二七、八年中佛蘭西人はモロッコの滿俺鑛床開發に努力したりしが又一方に於てはブラジルに於ける未開發の一大鑛床を取得せり。一報せらる、一九二五年露西亞のチャチュリ鑛床は向ふ二十年間米國の一團体に依りて租借せられたるが右團體は數十萬屯の高度鑛を採掘したる後一九二八年の夏採掘權を拋棄したり而して其の鑛床は目下ソヴェエト政府の代理者指揮の下に稼行せらる (譯者謂ふ、本鑛床の採掘權は米國ハリマン會社の手より勞農トラストに移讓せられたるものなり)

今後の滿俺鑛世界生産可能力

世界的に見たる滿俺鑛將來の生産可能力は次の活動に依り看取するこゝを得

一、蘭領東印度ジャバ鑛床に於ける不斷の開發

本資源の鑛量見積額一千萬屯を超へ滿俺分四七パーセント以上を算す

二、濠洲鑛床の開發

本鑛床よりは一九二八年に於て若干屯數日本へ輸出せられたり。一報せらる

三、南阿ポストマスバーク地方に於ける活動。適當なる輸送設備に對する運動

(本紙一九二九年四月十二日所載の記事に依れば鑛量七千五百萬屯含滿分五〇乃至五九パーセントあり

——譯者)

四、ブラジル・マトーグロソ州ウルカムヒルス (Urucum Hills) の鑛床米國人の手に獲得せらる、見積鑛量一千五百萬屯を算す

五、玖米滿俺コボレーション組織せられ、玖馬の低度滿俺鑛の利用を企圖せり。一日の粗鑛生産能力一千噸の設備施さる。答

滿俺鑛の消費高

佛、米、獨及英國は世界滿俺鑛産額の七割以上を要求す、一九二八年に於ては佛英の輸入額は増加せるが米獨の輸入額は減少したり、合衆國の事情は、一九二八年の滿俺事情豫備報告中に次の如く鑛山局より發表せられたり

一九二八年の鋼産額はレコードを作れるが、同様にフェロマンガ及滿俺鑛の需要も頗る増大したり。一

九二八年中のフェロマンガンの見積産額は最近の「アイアン・トレード・レビュー」誌に、前年の二九四、九九一屯に對し三一六、〇〇〇屯を算し只一九一八年及一九二六年の産額に及ばざるのみなりと報ぜり。一九二八年中國内の滿僱産額は假見積に依れば四五、〇〇〇屯に達したるが輸入額は十一ヶ月間の計算に於て三八六、七三四屯、全年の見積約四二〇、〇〇〇屯を算し一九二七年の六二二、〇六七屯に比し減少したり

亞米利加の消費高

一九二七年に於てフェロマンガンの生産業者の報告に依るフェロマンガンの生産一屯當りに要したる滿僱消費高の率を以てすれば、一九二八年に於て亞米利加のフェロマンガンの生産に要したる滿僱は約六三二、〇〇〇屯に達す、一九二八年に於て化學用途に輸入せられたる滿僱の高が同年中國内に於て生産せられたる冶金用滿僱の額に依り相殺せられたるものと假定すれば、同年中冶金用途に利用し得たる量は約四二〇、〇〇〇屯を算しフェロマンガンの生産業者の要求額に二二二、〇〇〇屯を不足せり。此の不足噸數の大部分は保税倉庫に於ける滿僱量の減少に依り補はれたるものと見る、即ち一九二七年十二月三十一日現在の在庫滿僱金屬分量は一八三、四七七屯、一九二八年十月三十一日現在の分量は九六、九一八屯と報ぜられ差引八六、五五九屯を減少せるが之を鑛石の量に直せば少くも一七三、〇〇〇屯に相當す、故に尙足らざる

殘餘の所要鑛石三五、〇〇〇屯乃至四〇、〇〇〇屯は之を消費會社のストックを以て滿したるものと信ず。

合衆國輸入鑛石の大部分は露西亞及ブラヂルの滿僱にして一方佛、獨、英の輸入鑛の大部分は英領印度のものを以て占む

佛蘭西は滿僱の最大輸入者

過去五ヶ年中佛蘭西の滿僱輸入額は漸増を示せるが一九二七年に至り世界の最大滿僱輸入者となれり。一九二八年の輸入高は七三八、二二六噸（一九二七年は六五九、五八七）を算し、内二六七、〇九五噸は英領印度より、四二、四六三噸は其他の亞細亞諸國より、四三、一七一噸はブラヂルより、一三、二四一噸は西瑞牙より、一一〇、四一〇噸は露西亞より、七八、四四四噸は西部アフリカの英領地より、一八三、四〇二噸は其の他の諸國より輸入せり。合衆國の輸入額は一九二七年に於て六二二、〇六七噸、一九二八年に於て四二七、七〇八噸に達したり

參照

本紙一九二九年四月十二日所載の記事に依れば佛蘭西の滿僱輸入増大の所以は同國の製鋼法が近來主としてトマスタ法に依れるに在り而して本製法に依り製造せられたる鋼の低廉なる理由は滿僱が粗鑛の儘用ひられフェロマンガンを必要とせざる事實に因れりとあり 一譯者

獨逸の輸入額は、一九二七年に於て三六七、二九〇噸、一九二八年の最初十一ヶ月間に於て二六一、五〇

○噸に達せるが、内一四、〇〇〇噸は英領印度より、六六、二〇〇噸は露西亞より、二九、四〇〇噸は埃及より、二七、四〇〇噸はブラヂルより、一〇、二〇〇噸は蘭領東印度より、三、五九〇噸は其の他の亞細亞諸國より、六、三五〇噸は羅馬尼より輸入したり。一九二八年の輸入全額は二八四、二四〇噸に報ぜらる英國の輸入額は一九二七年に於て一九八、五二七噸、一九二八年に於て二〇五、九六五噸に達したり、其の國別供給資源地は未だ詳ならず

一九二八年中印度の鐵道設備は引續き改善せられたり。山元に於ける滿僱鐵石の産額は一九二七年に略ぼ同様の率を保てり。ヴィザガバタン (Visagapatam) 港完成の暁には (一九三一年若しくは一九三二年に完成の豫定) 積卸費大いに低下せられ従つて中央州に於ける生産品の價格を低廉ならしむるに至るべし

露西亞のチアチユリ鑛床

世界最大の滿僱鑛供給資源地の一として知らるゝ露西亞チアチユリ鑛床に對し米人の保持せる二十ヶ年の採鑛權抹消問題は一九二八年に於て特筆すべき事件の一なり。ソビエト政府は伯林のラーワツク、エント、グルンフェルト商會と契約を締結せるが此れに依りて同商會は、歐大陸に於てニコポール鑛床の滿僱鑛と同様高架索滿僱鑛の販賣代理店たるに至るべし。傳へらるゝ、ソビエト政府は亦紐育に代理店を置き、一方佛蘭西に對しても鑛價の値下に依り大量の鑛石を販賣し得るに至れり、斯の如き露西亞の活動は、四大

滿僱生産國間に激烈なる競争を惹起するこゝ疑なく小資源國の若干は驅逐せらるゝの結果を招くに至るべし。伯林の一新聞紙の報ずる所に依れば、ソビエト政府は、一九二八年九月一日より十二月一日に至る間に於てボチ港より合計五〇、二八八屯の滿僱鑛を積出せり云ふ。其の仕向地別次の如し

合衆國	へ	三六、四四六屯
伊太利	へ	七、二三〇
獨逸	へ	三、九〇九
英國	へ	一、五〇三
佛國	へ	一、二〇〇

現世界の滿僱鑛産額の大部分を産する資源地は、製鋼諸國の需要額を滿して尙餘りある生産能力を有す、又露西亞及印度は現在に於ても以前と同様消費諸國の需要を容易に滿し得るものを見て誤りなかるべし

(U. S. Commerce Report 所載)

附記

南阿弗利加ボストマスバルグ滿俺鑛々床

The Iron & Coal Trade Review, April 12, 1929.

該鑛床の大要

ボストマスバルグ滿俺鑛々床は其の南端に於けるボストマスバルグから北方に向ひ延長約四十哩餘に亘つて分布し其の南部には數多の坑井を穿ち鑛體の厚さ五十四呎以上を認め二區域を包む全面積は五百エーカーに及び政府地質學者は上鑛の可採鑛量を七千五百萬屯に推算したが南部に於ける鑛石の約六割は分析の結果五十乃至五十九%の滿俺を含んで居る

世界の需要

米國商務情報是世界の各製鐵國に於ける滿俺鑛の輸入關係を記述して居るが夫によるに佛國は滿俺鑛の最大輸入國であつて尙増加の傾向を示して居る然し各統計に依れば米國専門家の調は佛國の中に白耳義を含んで居る様であるが佛國のみこしても最大の需要國であるこは事實である其の理由は割合に明瞭である最近五ヶ年間に於ける佛白兩國は鹽基性ベッセマー法即ちトーマス鋼の生産に努め、其の産額は判明せないが兩

國生産高の大半を占めて居る筈である而して此の鋼の安値に出來た理由の一つは滿俺鑛の生鑛を使用しフェロマンガンの不要になつたのに基くのである若し良質の鑛石が得らるゝならば阿弗利加の滿俺鑛は佛國に於けるトーマス鋼生産のため缺く可からざるものなる事は疑の餘地がないのである

獨逸は佛白兩國に次でトーマス鋼を産出してゐるが極めて近き將來に於てトーマス法の作業に急速なる進出をする事は疑のない處である斯くて阿弗利加滿俺鑛の發展は餘義なくせられ上鑛の需要は激しい増加を示し下鑛は次第に市場から閑却せらるゝ様になるだらう

世界の市價

過般の報告に依れば露國の滿俺鑛は一部ハリマン商會にて貯藏して居た貯鑛に依つて供給せられて居るが此の貯鑛が拂出されるに世界市場に於ける露國滿俺鑛の供給は極めて不安定になるだらうこ記されて居たが遂に該鑛石の供給は困難に陥つて價格の移動を招き市價は騰貴して來た此の市價の變化に付て南阿弗利加の鑛床は有望な地位を占めて居るのである即ち南阿弗利加政府は該鑛床に興味を感じ他の鑛石が市場にて安賣をすれば夫と競争し得る様に積出港迄の鐵道運賃率の割引を發表して居る

鐵道輸送

南阿弗利加鑛床の權利を獲得した英國の一會社は巧みに之が開發の具体案を南阿弗利加政府に指示したので同政府は鐵道幹線から該鑛床迄の鐵道線敷設を承認した依つて既に鐵道の建設工事を着手し明年正月には完成の筈である此の計畫に對する政府の意向は從來南阿弗利加の鐵道は概ね六十五封度軌條を使用しつゝあるに對して該鐵道には同種の鐵道であるにも係らず八十封度軌條を使つて居る事に依つても明であると共に尙政府の命令に依る多量の荷役を爲し得る様に千屯列車を運轉し且大貯鑛をも行はしむる筈である

該鑛石の産額は若し必要があれば年額百萬噸に及び得るこいふ事は決して誇張的のものではない何故ならば採掘は露天掘にて勞銀は安く且積出港に於ける滿僱會社の自由に任せられて居る輸送及荷役の手輕な事等は之丈の屯數を處理するに充分である斯かる大量の生産は勿論現在鑛業權者の意圖ではないが此の鑛床は之丈の能力を持つて居るのである

財政事情

最近英國の一會社は南阿弗利加滿僱鑛床の管理權を得たが彼等は此の權利を持続するや否や不確である此の會社即ち British Swiss International Corporation, Limited は單に純粹の財團であつて製鋼業や鑛石の供給等に付ては何等手を染めて居らぬが該鑛石の權利は阿弗利加から英國人の手に移り其の權利を得た國は鑛石の供給の續く限り極めて有利な地歩を占め得るものと認められる

英國でトーマス法が盛になれば製鋼上技術的に利益のある此の鑛床から産出する鑛石は疑もなく英國の製鋼業者に利用せらるゝ許りでなく尙重大な問題は滿僱鑛業に如何なる恐慌を來す事があつても其の持主は生産費安く且南阿弗利加政府の保護があるので安全なる地位が保たれるであらう

ルール地方の最新式骸炭工場

ウォルター、ゴルマー博士(エッセン)述(化工部譯)

一九二九、三、八、アイアン、アンド、コール、トレイズ、レピウ所載
一九二九、三、一五

新骸炭工場の建設

過去數年來石炭工業合理化への一階梯としてライン、ウエストファリヤ炭田地方に多數の新式骸炭工場の設立を見た。これが動機としてはかの一九二六年に於ける英國の石炭罷業に負ふ所大なるものあるを覺える。

一九二六年頭初、ルール地方に所在する骸炭工場は其數一四〇其の多くが舊式工場にして、骸炭爐總數一六、二〇〇製骸年額二八、〇〇〇、〇〇〇屯なりしものが、一九二六年後半に擡頭せる合理化運動の結果として、一九二八年の年頭には果然三二の工場に二、七七〇新骸炭爐の建設を見るに至つた、此内一、〇六〇爐は既設一四工場に擴張完成されしもの、残る一、七一〇爐は一八新骸炭工場に新設されしものである。

未擴張の大工場四を合して、ルール地方には今や三六の大骸炭工場を算し、骸炭爐總數殆ん七、〇〇〇製骸年額二四、九〇〇、〇〇〇屯、此内一五、三〇〇、〇〇〇屯は新設二、七七〇爐より製出せらるるを云

ふ。完全なる合理化運動は最早永續して經濟的に作業し能はざる舊式工場の休止を求望せしも、社會政策上此の運動を妨げ約六、三〇〇の舊式爐が休止されしのみなれば現時作業中の爐數は總計三、〇〇〇に及ぶ。一九二七年度骸炭生産高は二七、四〇〇、〇〇〇屯此の内九一%は三六大工場、七、〇〇〇爐より、五六%は新設爐二、七七〇爐より製出せられた。

骸炭爐能力の増大

爐の能力は設備の機械化と作業能率の増進により著しく擴大された。(第一表)此の増加はまた炭化時間の短縮にまつ所あるも、その多くは爐室の擴大と高さ長さの増加、幅は骸炭の大きさを考へて幾分縮少されたに歸すべきものである。

第一表 新式廣室骸炭爐の能力

爐式	長	幅	高	有效容積	炭骸	炭化時間	歩留	一日製骸高
新式大室爐	一三、〇 ^米	四五〇 ^耗	四、〇 ^米	二一、八 ^{立米}	一三、一 ^屯	一八 ^時	七八%	一七、五 ^屯
	一三、〇	四五〇	四、五	二四、六	一五、一	一八	七八	二〇、二
	一三、〇	四五〇	六、〇	三三、四	二〇、八	一八	七八	二七、八
舊式 Chamotte 餘熱式爐	一〇、〇	五〇〇	二、五	一一、〇	六、四五	三〇	七八	五、一五

狹幅式の爐は炭化時間の短縮により能力増加するに拘らず製鐵所に歡迎せられるのみで廣く一般に使用せられるものを見ない、即ち新設骸炭爐は幅四二〇耗一四〇〇耗又三五〇耗のものもあり後者は特に鐵鋼工場に採用せられるが販賣工場は其消費者が大塊の骸炭を要求する爲廣幅式の傾向に漸進し、爐幅五〇〇耗の大工場の目下建設中なるあり。五三〇耗のものも計畫中なりと聞く。

第二表 ルール地方新設骸炭爐々幅比較表

爐室幅	爐數百分比	製骸量百分比
三五〇 ^耗	七、二%	三、二%
四〇〇	二二、五	二二、一
四二〇	三、〇	二、八
四五〇	四七、〇	五三、二
四七〇	六、五	三、六
四七五	八、三	四、五
四八〇	三、二	七、一
五〇〇	二、三	一、六

新骸炭爐の約半は爐高四米以上のものであり之が最大限に至れるや否やは尙疑問とする所である。

一〇耗乃至一二、一三耗の程度増大された爐長は裝入均しに別法を考ふるに非ざれば現状を維持するに留

まるべく能力の増大はその高さを増大して達しうべしと惟はれる。

第三表 ルール地方新設骸炭爐々高比較表

爐室の高さ	爐數百分比	製骸量百分比
二、七*	五、〇	四、〇
三、〇	一一、三	八、六
三、三	七、八	六、〇
三、四	四、〇	三、二
三、五	一五、六	一五、〇
三、六	四、二	三、九
三、八	三、九	二、四
四、〇	一九、〇	二〇、二
四、二	五、九	五、五
四、三	四、三	五、三
四、五	一七、五	二、三
六、〇	一、五	二、五
	四八、二	五六、九
	五一、八	四三、一

爐間の能力に及ぼす影響

高室爐に於ては在來のものに比して一立米當重量五―七%程度の増率をその製品に示せる事をはからずも發見し得た。爐高が高くなつて裝入車からの粉炭の落下距離を増し微粉の使用量が多くなつたので以前石炭乾量で堆積重量〇、七五ミ算定せられしものが現在では〇、八〇ミ増大した、且實驗の結果は石炭の堆積重量は爐頂より爐底に至る間均一ならず爐底に至るに従ひその密度を増大し、爐底面の近くに於てはその値ひを越ゆべき事を示した。

此の堆積炭の比重の變化が製出骸炭の性質に何等かの影響を及ぼすべしとは想像に難からぬ所である。

炭化時間

炭化時間に關する考へ方は、以前考へたより以上に爐の製出能力の増加を豫期しうる方向に改めねばならなくなつた。例へば建設者さへもその結果に驚異の眼をみはる程で二―一時間以下を保證するは正當ならずと思はれた爐が、實際に炭化時間一七時間で作業してゐる有様である。現在では幅四五〇耗の爐の平均炭化時間は一八時間、四〇〇耗のもの一五乃至一六時間である。

炭化時間を決定する實驗式として

$$Z = \frac{d^2}{100} \times \frac{1050 + 2(1050 - t)}{1050}$$

Z: 炭化時間 (時間)
 d: 爐室の幅 (釐)
 t: 押出後の珪石煉瓦爐壁の温度 (攝氏)

の式があるが此式も上述の理由によつて新たな經驗實驗を基礎として訂正されねばならない。炭化時間は今後石炭乾燥工場の設置によつて尙短縮すべしと信ず。石炭乾燥の効果は單に能力の増進に過ぎまらず、運搬の便宜、瓦斯冷却に際し冷却すべき蒸發水量の減少を來たす。併し乍ら概見する所多數の工場、石炭乾燥の設備を有する所ですら水分一〇乃至一二%の石炭を爐に装入してゐる。

現在の珪石煉瓦は連續作業して一三五〇—一三八〇度の温度に耐ふる様に製造せられ一鐵鋼工場所屬の骸炭工場に於ては一九二一年以來爐壁に何等の損傷をみず作業を繼續せり云ふ。

連續的作業の結果は爐並びに全工場を著しく増大し得るものにして、ルール地方の工場に於ては六分毎に一爐、即一日二四〇爐の連續作業を行へるものあり。例之幅四五〇耗高四、五米の爐圍にて一日七、〇〇〇噸の粉炭を消費し五、〇〇〇噸の骸炭を製出する事なる。無論特殊の例にして、市場の變動に煩はされず自工場にて消費しうる大工場例へば鐵鋼工場所屬の骸炭工場の場合なり、現在ルール地方の工場は通常一〇乃至一四〇の爐を有し一日一七〇乃至一八〇爐の作業を行ふもの多く八分毎に一爐を製出する割合なり。

學術的刷新

其の製造方法には基礎的變更はないが學術的方面に可及的改良を施し、例へば貯炭槽配合等は内壁を硝

子張りこし石炭粒の滑降に便ならしめてゐる、装入炭の貯炭槽は高さ四〇米乃至五十米貯炭能力四、〇〇〇噸乃至五、〇〇〇噸に及び此地方の著しい特徴の一である。

装入車の重量は約六〇噸迄、荷重して八五噸内外に及ぶ。ある工場にては装入車を改良して容量二四立米の爐に一一%の水分を含む石炭を一・五分で装入してゐるが此時間は尙短縮の余地あり云ふ。爐蓋は二ヶ所の例外を除いて他は總て自動密閉式扉を採用す、この工場にては全然バッキングを排し鐵を磨り合して好果を得たり云ふ。

押出側は押出機に消火側は骸炭保護扉に取付けし爐蓋取機は現在では全く分離して電氣運轉す、押出機は門型のもの多く高さ四・五米の爐に對しては重量一三〇噸、六米の爐に對しては一五〇噸を普通とする。

骸炭消火装置

新設骸炭工場は總て濕式を採用せるも骸炭の水分を確實に〇・一%以下に低減する設備を施してゐる。人工乾燥に依らざりし時は水分二%前後であつた。スチームを發生せしめて作業費の輕減をはかる乾式消火の方法は未だ充分採用せられるに至らないが將來採用の計畫は充分に在り。これが遅延は完全なる乾燥骸炭の特別の必要なき現時財政的に甚だ逼迫せるが爲である。

骸炭を二〇〇度。に冷却し且未炭化部に残留せる瓦斯を利用する事に依り灼熱骸炭一噸より三五〇—四〇

○ 甎の蒸気を生ずるを以て一年百萬屯の製甎能力を有する工場にあつては一日約八〇〇屯の蒸気を発生せしめ得る譯なり。またある工場にて實施せる如き水冷却上昇管も蒸気供給の源泉として興味あり。炭屯當り八氣壓の蒸気一〇〇屯を發生す。

かくて近代の製炭工場は一〇乃至二〇甎の蒸気の消費にて作業し得、廢蒸気も尚加熱の目的例へばベンゾール及アンモニアの回収、タールの脱水等に利用し得るものなれば、製炭の乾式消火、上昇管の冷却によつて作業は甚だしく經濟的となり剰余蒸気は他工場例へば炭坑等に有利に使用し得る。

瓦斯の處理

瓦斯の長距離輸送に甚だしく支障を起すナフサリンを抽出するため瓦斯冷却方法に就いて數多の興味ある實驗が行はれてゐるが未だ確定的の結果を得るに至らない。瓦斯の洗滌には Field Washer が結果が好い様である。

アンモニアの回収に就いては新規のものなし、舊式の間接洗滌装置、半間接及スチル式は今尚使用せられるもの多く、合成アンモニアの激烈なる競争の結果、可及的低廉に酸を含まず容易に瀰散する硫酸の製造に精進せり。

ベンゾールに就いても同様にして、一工場にては活性石炭、シリカゲルの應用を試み、三工場にては真空

法を應用せる外見るべきものなし。

長距離輸送に伴ふ需要の激増につれ製炭瓦斯の製造は漸次重大性を認められるに至り延いては爐式も複合式のものを輩出するに至つた。ルールの製炭工場にては内四ヶ所は小製炭及粉製炭を特殊の發生爐に利用して貧瓦斯を製造して爐の加熱に充て製炭瓦斯は全部之を長距離輸送をなし此目的のため高壓々縮機、濕式及乾式瓦斯清淨装置、ナフサリン除去装置、瓦斯ホルダー等を設置す。此外一般管理上の問題に關して各種機械的記録機の設備は、その原價は少額ならざるも、作業の變調を知り得て管理の萬全を期する上に欠ぐべからざるもの多し。此點より見て貯炭塔と爐圍の間に自動秤量機を備へるは肝要の事である。此れには裝入車の重量に對して補正を加へ一甎の正確度で石炭の重量を記録しうる様にする。

最新式製炭工場の建設費

價格の點より、合理化機械化の影響を云々するは尙早に過ぎ、ルール地方の製炭工場數ヶ月の連續作業を以て其の位置の明確なる觀念の何者かを與へんことは勞して蜀を得るの感あり、此の爲には少くとも二年の經過を必要とする、以下述ぶる所此前提を參酌せられたい。

新設製炭工場を通觀するに爐の高低、廣狹の如何に關係なく工場の建設費は事實上單に製炭能力のみに準據してゐる。各工場の見積額は殆んご一致し第四表の様になる。

細目は一九二七年末建設中、完成骸炭工場の夫れに従ひたれば、現在に至る間、約七%の價格の平均増加を來たせるため年製骸高百萬屯の新式標準骸炭工場の建設費は一八・五百萬馬克、利子の償却のみによる特別負擔を八%とせば、骸炭屯當り一・四八馬克となる、此の算定は標準副産物工場の建設費をも含むものである。

第四表 骸炭工場Aの建設費

項 目	製骸年額			
	一、二五〇、〇〇〇 屯	一、〇〇〇、〇〇〇 屯	五〇〇、〇〇〇 屯	一〇〇、〇〇〇 屯
貯炭塔	七〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	一九五、〇〇〇
骸炭爐	一〇、六五〇、〇〇〇	八、四五〇、〇〇〇	四、二七五、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇
(軌條、煙突、吸氣室を含む)				
骸炭爐 附屬機械	五六五、〇〇〇	四八七、五〇〇	三七〇、〇〇〇	一九五、〇〇〇
押入機	三臺	二臺	二臺	一臺
裝取機	三臺	二臺	二臺	一臺
蓋取機	三臺(各豫備一臺宛)	三臺(豫備なし)	二臺(豫備一臺)	一臺
機械的消火、節分、積込、選別工場	二、三五〇、〇〇〇	一、六七五、〇〇〇	八二五、〇〇〇	六二二、五〇〇
冷却、アンモニア、粗製ベンゾール回收工場	六、四五〇、〇〇〇	五、七二五、〇〇〇	三、〇七五、〇〇〇	一、六五〇、〇〇〇
工場家屋b 線路	五二五、〇〇〇	四九〇、〇〇〇	三五二、五〇〇	二〇七、五〇〇
合 計	二一、二二五、〇〇〇	一七、三三二、〇〇〇	九、三三二、〇〇〇	四、五六〇、〇〇〇
骸炭屯當り價格	一六・九	一七・三	一八・四	三三・九

a. 富瓦斯及貧瓦斯加熱、爐室幅〇・四五米、高四米、有効長一一・二米
 b. 燈用電力用スキッチ板、事務所、洗滌室(Wash house)等を含む

減價と維持費

減價償却は工場の壽命に準據して定むべき事必然なり。ルール地方には三〇年來當初の能力を持続して作業中のものあり幾多の經驗は永年持續しうべきことを教ゆるも、斯かる状態を得んためには異常の管理と周到の操作を要し、珪石煉瓦の撰擇にさては加熱冷却の方法に一沫の誤謬過失のあらんか其の困難は推して知るべき所であらう。かく考へ來るに通常壽命の見積は減價に對しては第二義の問題となり、時代の歩みと俱に刻々變轉また三轉する學術的科學的の發展に第一義の根據を置かねばならない。一般に減價は投下資本の一〇%とみて太過なしと思ふ。

生産費は石炭の運賃に依つて著しく變動する。年額百萬屯の工場では一日三、八〇〇屯の石炭を炭化するにこゝなるがルール地方では之等の石炭を數多の炭坑より求める結果、この運賃のために骸炭の價格は屯當り平均〇・六〇馬克の増加を來たす。

維持費は機械化作業の異常な發展に伴つて閑却すべからざる問題である、新設工場は殆んど同時に建設され其の經驗も日尙淺く、之が現在の摩損、修繕の程度をみて査定するは穩當でないが約3%を見込んで可なりと信ずる。

熱消費量

装入濕炭一疋について所要熱量平均五〇〇小カロリと稱せられるが此の數字を單なる公稱値にして實作業にて之をうるは甚だ稀とする所、通常五五〇小カロリとみれば充分であらう、此の數字は貧富兩瓦斯に通用しうるものである。

乾炭屯當り四八〇〇小カロリの瓦斯三〇〇立米をうるにして加熱には濕炭屯當り一二六立米を要し剩餘瓦斯五八%をうる事となる。之を舊式の蓄熱爐と比較する時は富瓦斯の使用に際して一〇一五%の剩餘の増加を來たす。貧瓦斯を使用する場合は一〇〇%の富瓦斯を剩餘として利用し得るが一面貧瓦斯製造のために一五%の骸炭―勿論小骸炭又は粉骸炭ではあるが―を瓦斯發生爐に消費してゐるから、生産費の計算に當つては、發生爐及其の作業費をも計上しなければならない。

新式タービンのスチーム消費量一キロワット時について五疋、舊式タービンは七疋であるから、新設工場は約三〇%のスチーム及電力の節約となる。アンモニア回收の操作にあつて、ある工場では電力及スチー

ム消費量は骸炭屯當り蒸氣として一九〇乃至二二〇疋の成績を示してゐるが通常二五〇乃至二七〇疋程度であるから熱經濟方面に尙幾多の改善の余地あり。
スチームの價格はルール地方では屯當り二―三馬克なれば上述の諸項は一般注視的のきなつてゐる。潤滑劑の價格は比較的消費量も小なれば此處には省略す。

勞力の經濟

第五表 製骸年額百萬屯の新式骸炭工場従業員一覽

勞働者	役 員		一交代人員		一日作業人員	
	工場長	化學者	交代人員	一日交代數	一日作業人員	一日作業人員
一 石炭荷卸、配合、貯炭槽	一	一	一	一	一	一
二 骸炭 爐	一	一	三	二	三	七
合計	二	二	四	三	四	八

a.	裝入車及爐上	二	三	六
b.	押出機、及押出側爐蓋	三	三	九
c.	消火側爐蓋	二	三	六
d.	消火車	一	三	三
e.	消防	一	三	三
三 骸炭篩分、積込				
a.	骸炭ホーム	二	三	六
b.	篩別及荷役	二	三	六
四 副産物 回收				
a.	エンジン室	一	三	三
b.	ベンゾール工場	一	三	三
c.	アンモニヤ工場	二	三	六
五 雜				
a.	鐵道	四	三	一二
b.	鍛冶、機械方、電氣方	一五	一	一五
c.	實驗室	四	一	四
d.	事務所、倉庫	二	一	二
e.	洗場、番人	二	一	四
f.	貨車廻、運轉手	五	三	一五
合	計			一一五

新設骸炭工場の作業状態を一覽するに勞力の節約に異常の進歩を認める。舊式工場の作業人員一七〇乃至二〇〇人、一人一交替製骸高四一六屯なりしものは新工場に於ては作業人員一三〇乃至一四〇人となり必然的に一人一交替の生産高も驚くべき増加振りを示してゐる

勞力は高さ四米一六米の爐に於ても昔の三米の爐と變化なく、尙周到な管理と勞力の配置に依つて減員しうる余地多分に在り。

作業費の推定

如上の數字を基礎として年間百萬屯の製骸能力を有する工場の作業費、收入を算定すれば

第六表 製骸年額百萬屯の骸炭工場に生産費及收入推定表

項目	單價	量	價格
資本償却	一八%		三、三三〇マルク
俸給勞銀	一〇マルク 一人一交替	Coke 屯當り 一九、四五屯 一人一交替	〇、五一五
作業費			三、〇二〇
1. 瓦斯費	〇、〇一七 一六マルク 立米	一七六立米	

2. b スチーム、電力	二、二五マルク/電	二二〇 貯	〇、四九五
3. 硫酸、石灰、水、油	推定		〇、七五〇
維持費	三%		〇、五五五
石炭(シンヂャケート價格)	一七、一〇マルク/電	一、四 電	二三、九四〇
運搬費			〇、六〇〇
生産費(馬克)			三三、二〇五

項目	單價	量	價格
1. C 高爐骸炭	二三、五〇マルク/電	八〇〇 貯	一八、八〇〇 マルク
2. 碎骸、小骸、粉骸	二五、〇マルク/電	二〇〇 貯	五、〇〇〇
3. 瓦斯	〇、〇一七六マルク/立米	三九〇 立米	六、六九二
4. タール	四、七五マルク/100キロ	四三、三 貯	二、〇五七
5. 硫安 (20,9%N)	一六、七八マルク/100キロN	一五〇 貯	二、八五〇
6. 精製九〇%マンズール	三六マルク/100キロ	九、二 貯	三、三二二
d 收入(馬克)			三八、七一

(a) 投下資本一八、五百萬馬克。一日製骸高二七二〇屯。従業員一四〇人。加熱、富瓦斯使用。アシモニア回收、間接法。 (b) 一キロワット時五貯スチームと推定。 (c) 水分一・二% (シンヂャケート價格)。 (d) 利益は三八、七一一―三三、二〇五馬克となるも、之れはシンヂャケート賦課税、一般經常費、租税、保険料等を含みます。

上表中一人當製骸量及作業費は故意に少額に運搬費は高額に、加熱に要する瓦斯費は貧瓦斯使用の場合に比較するため慎重に稍高價に見積りをなした。其他の諸種の數字は新設工場の實例に徴したものである。此の工場にて貧瓦斯を使用して富瓦斯の全部を賣却するものとするれば

- 一、骸炭工場の加熱 21 × 10⁸ 小カロリー / 二四時間 (一貯濕炭に付五五〇小カロリーミズ) 六四〇〇 小カロリー 貯
- 二、瓦斯發生爐用燃料 (五耗大の粉骸炭、二〇%不燃燒物質を含む) の發熱量 七八%
- 三、發生爐の瓦斯化能率 五〇〇〇 小カロリー 貯
- 四、骸炭貯當り發生瓦斯の熱收率 四二〇屯 (製出骸炭の一五・三%)
- 五、二四時間の骸炭爐加熱に要する骸炭の量 三〇屯
- 六、瓦斯發生爐 (直徑二・六米) 一基二四時間の裝入量 一八基 (内四基は豫備)
- 七、瓦斯發生爐所要數 一・八百萬馬克
- 八、建築物を含む建設費

貧瓦斯を使用する場合骸炭屯當り加熱費

資本の償却	一八%	〇、三二馬克
維持費	三%	〇、〇五
粉骸	炭(屯二五馬克のもの二四時間四二〇屯)	三、八四
勞賃	(二〇人、一人一交替一〇馬克)	〇、〇七
電力、水、潤滑劑等		〇、一二
計		四、四〇

剰余富瓦斯よりの收入

貧瓦斯使用による過剰支出

一、三八

貧瓦斯を専門に使用する場合は投下資本の高利のため甚だ不經濟なるも、此の生産費の低減を計る爲には絶えざる努力が試みられ、一炭山にては發生爐瓦斯の高比熱を利用して骸炭一疋當り(瓦斯化せられる)一五氣壓の高壓スチーム〇、六疋を回收せり云ふ、

ルール骸炭工場一九二八年十月の生産高

全生産高 二、五七三、〇〇〇屯 三六大工場の生産高 一、三七五、〇〇〇屯(五三%)

二七七〇新骸炭爐の生産高 九二四、〇〇〇屯(三五%)

尙未だ全能力を發揮するに至らず。三六工場はその六六%を、新骸炭爐は七二%を利用せるに過ぎず。

成品にあらはれた新設工場作業の影響其他

新舊兩工場を比較判断する場合、骸炭、瓦斯、タール、アンモニアの歩留は重要な要素を考へられ、新工場では裝入炭量が殆んど一疋の正確さの下に計量せられるが、舊工場では多くの場合骸炭を秤量して裝入炭量を逆に算出する爲果して比較可能なりや否やは疑問の場合がある。石炭の配合も此の困難をます一因子であらう。

爐の熱處理のため骸炭は收縮しその大きさは爐室の幅より離れて、直接炭化時間の大小に關係す、瓦斯に富む石炭を配合する時は骸炭の横割れを増し粉骸の増量を來たす。一般に骸炭は質緻密にして新骸炭爐よりの製品は高爐用のもの多く、鐵工業者賞讃の的となつてゐるが、骸炭の採擇取捨は未だ普遍的のものをみず、フランスの鎔鑛爐及び獨逸の鑄造工場は今尙大塊の成品に好果を期待してゐる。

副産物即タール、瓦斯、アンモニア、ベンゾールに就いては新式爐は舊式爐よりも熱影響を受けること多く、より以上完全に分解すこの極く皮相の意見を述べるに止めて置く。

舊工場に比して新工場のタールはより一層液状となるが一般にナフタレン、ピッチ及び所謂遊離炭素含有

量を増し、熱作業に於てナフタレンの増加は脱水作用を防止する傾向がある。

發生瓦斯は著しく水素に富み普通六〇%前後、極く少量の窒素を化合す。その量は多く五乃至七%である、瓦斯の發熱量は一立米四七〇〇乃至五〇〇〇小カロリーに稱せられる。

爐を過度に作業せしめる時はナフタレン及硫化水素の量を増すものであつて、蒸溜物の高温分解を示す、ある大工場に於て通常二時間炭化のものを一七時間炭化を行つた結果一〇〇%の増加を來したと云ふ。硫化水素は多分二硫化炭素の分解によるものであらう。

ルール地方の骸炭工場を判断するには未だ時期尚早の感あれどその科學的經濟的改善への進出を認めざるを得ず。今や内外學界注視の的となり、獨逸が曾つてその技術者を合衆國に派してその發展の跡を考究せしめしは僅々數年前なるに拘らず、遠く各國より來り學ぶもの多く、其進展に驚異を感ぜるを見て絶大の満足と誇らしさを感じるものなり。

海外雜報

獨逸炭礦業の罷業豫想と鐵鋼市況

The Iron Age, May 9, 1929.

伯林四月二十二日發。約一年以前賃銀が現在の水準に増進して以來炭坑主側の屯當り利益以前より大なりと云ふ理由に依り坑夫側に於ては更に賃銀増額を追求しつゝあるを以て近々罷業の勃發無しとせず、鑛主側が賃銀増額の能力ありやを調査せるシユマレンバッハ委員會の報告に依れば、昨年十一月に於ける一屯當りの平均利益は、副産物骸炭より生ずる利益を合算して一馬克四七(三五仙)に達せり。坑夫聯合會の提出せる資料に依れば、十二月の利益は屯當り三馬克四七(八二仙)に達するも鑛主側に於ては二馬克六二(六二仙)に過ぎずと主張す。最近に於ける經營狀態は益々有利の傾向を帶べるは事實なれども利益の實際高は明瞭ならず。(本紙四月二十五日所載の記事に依れば、ルール炭坑の採炭夫現在の賃銀率は、一九二八年五月に協定せるものにして、一交代當り九・六〇馬克(約五圓)なりと報ず。一譯者)

最も多し。インヂニアングプランツ並に機械製造業者は不景氣を報ずれども、造船業者は豫期以上の艘數を買込つ、あり、又鐵道方面に於ても活況を呈せり。鐵道合同會社に於ては、「ルーアコロンドルトムント」地方に於ける線路延長を計畫せるが一方車輛製造業者は大口の契約に對して商議を進めつ、あり。

重鐵鋼材の輸出市場は可なりの活氣を呈し價格はよく維持せられ居れり。南米市場は沈靜にして遠東に對する輸出は支那の内亂再發に依り影響を蒙れり。

最近獨逸の一壓延工場は、日本より船用厚板一萬二千噸の注文を受けたるか又一方に於ては、棒鋼、薄板、管等總計一萬三千噸を露西亞に販賣せり。線材市場は活況を呈せるも、製鋼合同會社に於ては政府に申請して一壓延工場の作業を休止せり。本合同會社は、月四萬二千噸の線材を生産すれども其の處理艘數は月三萬二千噸に過ぎざることを陳述せり。

獨逸製鋼諸會社の財政状態は概して良好なり。石炭及重鋼生産業者の一九二八年に於ける平均配當率は前年の九分に對し九分一厘を示せり。又非鐵金屬生産業者の配當率は前年の七分二厘に對し七分四厘を示し機械製造業者の分は、八分八厘に對し一割一分二厘を示せるが自動車工業に於ては一分四厘に對し六厘を示したるに過ぎざりき

國際ストリップカルテル出現せん

アイアン エーザ 一九二九年五月九日

獨逸ヅセルドルフ四月十九日發。或る製鋼業者間に於ては、世界の主要生産業者を含む國際チユーブカルテル並に國際軌條カルテルの成功に倣ひ三度國際ストリップカルテルを近く組織せん目論見つ、あり。問題のカルテルは、チユーブに轉換する熱間壓延フープ及びストリップを管理せんとするものなり。現在は主要生産業者を含む「大陸フープ及ストリップカルテル」存在す。波蘭、瑞典、奧太利、匈牙利及チエコスロバキヤは組合外に在れども其の輸出合計は三千屯乃至四千屯を超へず又彼等は間もなく「カルテル」に加入するに至るべし。目下最近組織せられたる國際チユーブカルテルと同様のストリップカルテルを組織せんがため英、米、加奈陀の生産業者と商議中に在り。

輸出を管理する新チユーブカルテル

アイアン エーザ 一九二九年五月九日

漢堡四月二十日發。日本及瑞典を除き總べての生産國を含む新國際チユーブカルテルが價格の管理に於て好結果を收むべきことは、大陸製管諸工業者の一般に信ずる所なり。瑞典及日本の産額は全歐洲産額の約一分五厘に相當するに過ぎず。然れども一部論者は「カルテル」が組合諸國に對する輸出超過を防止するため倫敦の本店に取締人を任命せるにも拘らずカルテルの成功に就ては疑惑の眼を以てせり。管理を行はん

する其の他のカルテル計畫の從來に於ける經驗に徴するに多くの場合失敗に歸せることを指摘せり。

獨逸の賠償引渡額増加

アイアン エーザ 一九二九年五月九日

伯林四月二十二日發。一佛蘭西に對する一九二八年の賠償引渡額(物資)は一九二七年の七、五一三、〇〇〇馬克に比し二四、二八九、〇〇〇(五、七三二、二〇四弗)に増加せり、總べての國に對する引渡額は一九二五年の二三、五二四、〇〇〇馬克に對し一九二八年に於ては四六、八八九、〇〇〇馬克(一一、〇六五、八三四弗)に達したり。一九二八年の引渡額の内譯次の如し

機關車	七九六、〇〇〇馬克
織物機械	一二、七〇二、〇〇〇
機械器具	七、三一七、〇〇〇
農具	一、〇〇九、〇〇〇
ボイラー及機械部分品	二〇、七七八、〇〇〇
其他	四、二八七、〇〇〇
合計	四六、八八九、〇〇〇

織物機械、ボイラー及機械部分品の賠償引渡額は一九二五年以來三倍せるが、一九二六年に於て合計一、一五二、〇〇〇馬克に達せる機關車の引渡は目下殆んど中絶の状態に在り。

獨逸の自動車生産増加と價格値下

アイアン エーザ 一九二九年五月十六日

漢堡四月二十九日發。一獨逸自動車販賣聯合會の報に依れば、一九二八年に於ける獨逸の自動車産額は合計二九〇、二〇八臺に達し前年に比し三割九分を増せり。價格は値下の結果合計一、〇五〇、〇〇〇、〇〇〇馬克(二四八、八五〇、〇〇〇弗)を算し前年の賣上高に比し僅に二割一分を増したるに過ぎず。

(備考・米國の自動車産額は一九二八年中四、六〇一、一四一臺、本年三月の産額五八四、七三三臺―
一譯者)

多量の瑞典鑽石合衆國へ

アイアン エーザ 一九二九年五月十六日

ストックホルム四月二十七日。五月より九月迄の解氷期に於て Luossavaara Kirunavaara 會社は Lulea 港經由にて合計二、一〇〇、〇〇〇磅の鐵鑽石を輸出する豫定なるが會社の發表する所に依れば輸出合計の約

半數は米國及加奈陀に向ける筈なり云ふ。

ERMAは今後IRMAと稱せらる

アイアン エーザ 一九二九年五月十六日

漢堡四月二十九日發。I歐洲軌條製造業者組合(ERMA)は今後國際軌條製造業者組合(IRMA)と稱する旨公式に發表せらる。新カルテルの初會合は六月倫敦又はブラッセルに於て開催せらる筈なるが軌條の公認價格の値上は英國及大陸の組合員に依り審議せらるべし。

新軌條カルテルに於て獨逸の賠償勘定に依る軌條の積出割當屯數を年二七五、〇〇〇噸に記載せる歐洲新聞の報道は誤報にして實際の割當額は年二七、五〇〇噸なり。

(一九二八年に於て獨逸の工場が賠償の爲め積出したる軌條は僅に二〇、〇〇〇噸に過ぎず)

歐洲製鋼及レール、カルテル會合

昭和四年三月十八日附在フランス帝國特命全權大使安達峯一郎報告

三月十四日歐洲製鋼カルテル理事會ブルッセルに於て開催せられ、左の通決定せる趣なり。

(一) 加盟國全部の年總產量を二百萬噸増加すること、尤も獨逸のみは生産量の増加を爲さざること、

(二) 各加盟國の割當生産量増加の分に對する賠償金は現在の率を維持すること。(三) 次回は六月維納市に於て會合すること。

前記三月十四日の會合に於て問題となりたるは、各加盟國の生産割當量超過量に對する現在の賠償金率増加に關するものなりしが、英國側はドミニオンに對する供給多額なる結果、其割當分量超過に對する右賠償金率増加に反對したる由にて、其結果該賠償金率に關しては現狀を維持すること、なりたる次第なり云ふ又歐洲レール・カルテル(Erima)も三月十六日ブルッセルに於て會合し、左の通り決議せる趣なり。

(一) 本年三月三十一日を以て終了期とする本カルテルを更に向ふ六箇年間存続すること。(二) 各加盟國の割當生産量超過量毎に一噸に對する賠償金を五志とし、事情により一磅迄引上得ること。尙次回會合を四月十四日倫敦に於て開催することに決定せる趣なり。

佛蘭西の勞力不足

製鋼業者は外國勞働者の歸來を希望しつつあり

佛蘭西 Bordeaux 四月一日 熟練工の不足、輸出高の減少は、目下佛國鐵鋼業の直面せる問題なり。獨逸及英國に於ては、約百萬人の失業者を擁するに引き替へ佛蘭西の勞力不足は、逐日熾烈を加へつ、あり、佛蘭西は元來農業國にして、製鋼業は、重要なり云へ、其の地位たりや農業の次に在り、然れど

も其の原因の如何を問はず、傭主連は、或は賃銀の増額をほのめかし或は、無料住宅、醫療設備等を提供して熟練労働者の獲得に競争しつゝあり。

二年前政府は社會主義者及労働黨の壓迫に依り多數の外國労働者を佛蘭西より退去せしめたるが當時は法の爲替相場下落し居たる點ミ約三百萬人の外國労働者居住せる點より見て労働市場の爭奪戦余りに激甚なるべき懸念に驅られたるものなりき、今や此の謬見の訂正に努め居れるが再び外國の熟練労働者を招致するに至るべし。

一方、佛蘭西の鐵鋼生産高は増進を示し居るに反し、昨年の輸出高は激減を示せり、佛蘭西の國內需要高は一九二七年に於ては鋼塊産額の四七パーセントを一九二八年に於ては六〇パーセントを吸収したり。尙現在の需要高は高率を保てるも今後減少の傾向を帯べるが故輸出高の激減ミ相俟つて聊か恐慌を來し居れり

又或る方面の觀測に依れば、佛蘭西の一人當り鐵鋼消費高は、白耳義の三一〇キログラム、合衆國の約四一〇キログラムに比し僅に約一五〇キログラムに過ぎざるが故、國內消費高の増進に對しては尙十分の余地ありみなせり、又佛蘭西は元來農業國なるを以て、一人當り鐵鋼消費高の増進を見積るこゝは困難なりとする向きもあり。然れども、國內市場の大開拓を主張する人々の斷言する所に依れば、佛蘭西の外國貿易は、英國及合衆國に於ける懸案中の關稅法並に獨逸其他歐洲諸國の輸出貿易の大壓迫に依りて危險に陥るこゝあるべしみなせり

日本鐵鋼業に關する刊行物

日本鋼産額の激增

一風獨特の經濟制度

ワシントン四月十六日 日本鐵鋼業の急速なる發達に關し巨細に亘りて敘述せる貿易情報誌第六一二號此の程商務省内外貿易局より刊行せられたり、本冊子は一部十仙にてワシントンの政府印刷局より手に入れるこゝを得、こゝは、在東京商務官補ゼ、エッチ、イーラー氏より内外貿易局に送達せる日本製鋼業に關する報告に就いて、ゼ、ジョセフダブリュー、バーマー氏の編纂に係はるものにして、「日本に於ける鐵鋼の生産」ミ題せり、本冊子は、三冊中の第二編にして、第一編（五七三號）は「日本鐵鋼業に關する原料」ミ題し一九二八年十月に刊行せられたり、第三冊目は「日本の鐵鋼材貿易」ミ題し近く刊行せらるゝ筈なり過去十五ヶ年の間に日本の粗鋼年産額は二十五萬五千噸より百六十八萬噸（昭和三年）に増進し一方鉄鐵は、二三九、一六九噸より一、三八〇、〇〇〇噸に増進したり、鋼材の生産も同様の増進を示せり、日本に於ては斯業の發達を拘束する多くの要素あるに鑑みれば、斯の如き進歩は實に驚くに値するものなるもこゝは日本獨特の經濟制度の下にあるにあらざれば到底成し得ざるものなりと思惟せらる、政府は斯くの如き經濟制度の下に於て、資源の貧弱即ち經濟的の不利あるに拘らず、諸工業の擴張を助長し得るものなり

斯業の利益は、過去八年間中に於て成せる擴張を許すが如き額に達せざりしも此の期間に於て生産高は二

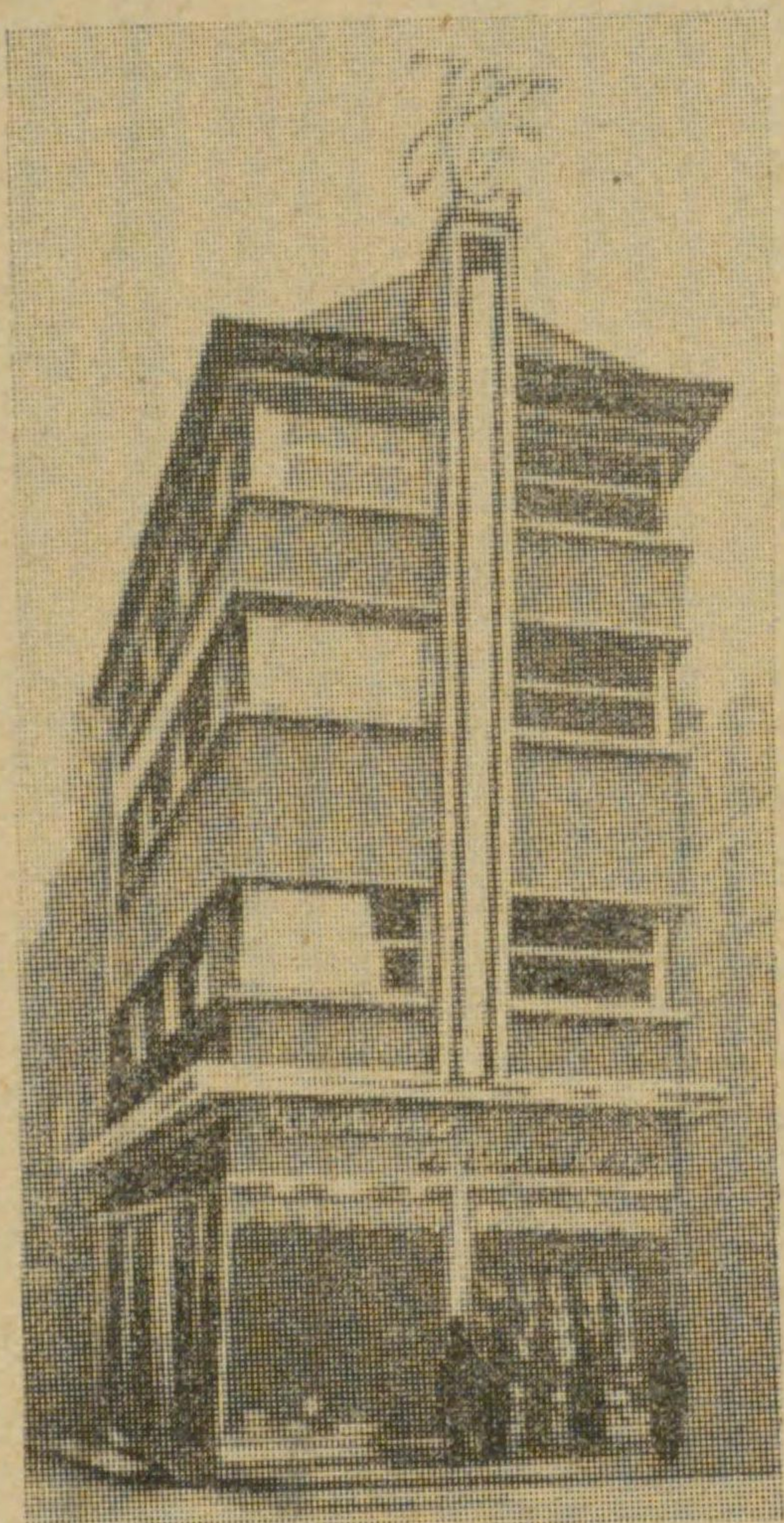
倍せり即ち一九二〇年の鋼塊産額八〇四、二三三噸は、一九二八年に至り約一、六八〇、〇〇〇噸に達したり現存の設備は、自然の障碍を征服し得る信念の下に於て又斯業は、引き続き政府の援助を保護を受け得ることを信じて、大々的に擴大せられたるものなり

英國は軌條カルテルに於て良條件を與へられたり

伯林三月三十日 歐洲軌條製造業者組合最近の會合に於て英國は一層有利の條件を附與せられたり、領土及委任統治領土に對する英國の販賣は、「カルテル」の割當中に含まるるも、英領印度及直轄植民地との軌條取引は内國販賣と同様に見做され割當より除外せらるゝこと、なれり、一方英國の軌條輸出割當超過額十二萬屯は前規約の條件に従ひ屯當り七志六片乃至十二志六片の罰金を支拂ふこと、なるも、新規約の下に於ては、三萬七千五百屯迄の輸出超過額に對する罰金は屯十志せられ此の最高額以上のものに對しては、屯一磅の罰金に處せらるゝこと、なれり
尙規約の改正に依り獨逸の賠償勘定に依る軌條の引渡は、合計二十七萬五千屯を超えざる限りは「カルテル」の割當額中に含まざること、なれり

獨逸の無錆鐵建物

寫眞の通りエッセンに建てられたる無錆鐵を以てする家屋の建築は獨逸に於ける斬新なる發達を物語るものなり、材料は、クルツプ會社の生産に係はれり



以上、アイアン・エーゲー一九二九年四月十八日所載

滿俺鑛コーボレーション南阿に組織せらる

在トランスヴァール州ジョハネスバーク市商務事務官サムユールデイ氏の報告に依れば、倫敦の英、瑞西國際コーボレーションと南阿キムバールの西北六十五哩ポストマスバークの滿俺鑛床所有者との間に採鑛會社

組織の協約成立したり、新會社は、南阿滿俺コボレーシヨンを稱し滿俺鐵の採掘に従事する外コロレンソ(Colenso)に電氣鑛鐵工場を建設しフェロマンガンの生産を企圖せり、尙南阿鐵道も協約を締結せるが鐵道側に於ては、三十萬磅の費用を投じて、滿俺鐵床まで六十五哩の支線を敷設すること、なるべし、但し三十萬磅の費用は、英、瑞西コボレーシヨンより支出を受け十年の終に償還する筈にて、償還後支線は南阿鐵道の所有經營に歸すること、せり

滿俺鐵の生産高は第一年に二十萬屯第二年後は年三十五萬屯を確實に生産すること、せり、確聞する所に依れば既に合衆國三年十萬屯の賣買契約締結せられたり云ふ

アイアン エンド コール、トレード レピウー一九二九年四月十二日所載の記事に依れば、鐵量約七千五百萬屯
滿俺分五〇乃至五九パーセントとあり……譯者

獨逸の線材製造業者能力一ぱいに作業す

漢堡四月十日 獨逸線材カルテルは殆んど生産能力全部を發揮しつゝあり、即ち月約十二萬五千噸を生産す、「カルテル」外の製造業者の生産能力は合計月三千噸を超えず輸出取引は満足なる状態に在り、而してカルテル組員は此の上の注文を強要せざるのみならず、小口の注文を拒絶しつゝあり

本月末には、伯林に國際線材カルテルの總會開催せらるゝ筈なるが其の際にはカルテル規約の敷衍價格

の値上提議せらるる様子なるが、價格は二志六片方引上げられ、屯六磅七志六片の相場を見るものも期待せらる。

以上、アイアン・エーザ 一九二九年四月廿五日

歐洲製鋼所日本向鋼片を値引せん

漢堡五月二十日 日本は米國製鋼所に二萬五千屯のシートバーを注文せり云ふ合衆國よりの報道も同じく日本は約一萬屯の鋼片を米國製鋼所に注文したりこの日本よりの報道も、歐洲の半成品製造業者に少からざる感動を與へたり。元來米國の日本に對する半成鋼の積出は通例取るに足らざるものにて又日本は大陸に取つては粗鋼の主要市場の一なる關係上歐洲製造業者は此の合衆國の進出に對し頗る神經過敏なれり、故にビレット及シートバーの日本向相場を屯當り一志乃至一志六片引下げ英國向半成品相場以下となすものも期待せらる

波蘭はライトゲージ黑板を日本に賣る

漢堡五月二十日 波蘭の製鋼業者は最近日本に對する取引上歐洲諸國の競争者となれるが特にライトゲージ黑板に於て著しきものを見る、波蘭鋼輸出の總計は月四千屯乃至六千屯(三月は五三八〇屯)に過ぎざる

漢堡五月二十七日 賠償勘定に依る四月の鐵鋼材引渡額は從來の記録を破れり。左の如し

壓延鋼材	七、四〇〇、〇〇〇馬克
電氣機械	五、三〇〇、〇〇〇馬克
其他ノ機械	六、四〇〇、〇〇〇馬克
金物	二、七〇〇、〇〇〇馬克

右は昨年四月の三倍に相當す日本は電氣其の他の機械を受取れるが其の價格百八十萬馬克(約八十五萬四千三百圓)に達したり

露西亞は獨逸より厚板薄板及管を購入す

漢堡五月二十七日 露西亞政府は獨逸のマンネスマンチューブ會社に一萬五千噸の鋼管ミビスマーク製鋼會社に二萬一千噸の厚板及薄板を注文し數ヶ月後に引渡を受くる筈なり

市俄古建築職工一日一弗增收

市俄古の建築職工罷業は六月六日落着せるが其の際職工組合ニ傭主側を代表する共同會議所(The Joint Conference Board)に於ては一日一弗引上即一日一三弗の新賃銀契約書に調印せり新賃銀率は即日施行、有

效期間を一ケ年こなせり

伊太利多量の屑鋼を輸入す

テキサス洲ガルヴエストーン及ハウストーンより過去六ヶ月間中に十萬屯以上の重鋼屑其の他類似の屑伊太利へ輸出せられたるが價格は伊太利着一英噸十九弗なり今尙伊太利へは引續き輸出せられつゝありて今後の註文は前記の數字以上に上るべし

以上 アイアン・エーザ 一九二九年六月十三日所載

カルテル割當生産高全部超過す

漢堡六月十日 本年第一四半期に於ける國際鋼カルテル組合員の生産高は全部其の割當額を超過せり各組合員の生産超過高次の如し

獨逸	八九四、六一五噸
佛國	一〇三、〇〇〇噸
ルクセンブルグ	三三、三九〇噸
白耳義	一三三、〇一〇噸

中 歐 團 (埃、チエコ、匈牙利)

七七、九〇〇 施

ベスレヘム製鋼會社災害防止に對して褒賞を與ふ

ベスレヘム製鋼會社の工場並に鑛山に於ける災害事故は此の十年間に約六割三分の減少を示せり。

ベスレヘム製鋼會社に於ては毎年救急療法鑛山救助及災害防止に就て千人の職工を教育しつゝあるが其の卒業試験には會社の各工場各鑛山より從業員の参加を見る。過去十三年間中安全運動に就て徹底的の教育を受けたる同會社の從業員は九千人以上に及べり。

救急療法の外同會社の安全プログラム中には賞金制度の災害防止競争あり、事故の結果として失はるゝ時間間の節減に就き毎四半期中最善の記録を示す從業員の各團に對して、合計千七百五十弗の現金賞三ヶ月毎に授與せらる。

以上 アイアン・エーザ 一九二九年六月二十七日

統 計

合衆國に於ける急速なる重軌條の生産増加

アイアン・エーザ 一九二九年五月十六日

世界大戰終熄以來合衆國に於ては重軌條の産額急速に増加したり。一九一九年に於ける百封度以上軌條の産額は總産額の二一・七三パーセントに過ぎざりしが爾來一九二四年を除き逐年頗る増大するに至れり。

(附表参照)

之れに反し百封度以下軌條の産額率は減少を示すに至れり、八五封度乃至百封度軌條の産額率を見るに、一九一九年に於ては總額の約四四パーセントを産したるが昨一九二八年に於ては、一七パーセント二分の一強を示すに過ぎず、又五〇封度乃至八五封度軌條は、一九一九年の二二パーセント二分の一に對し昨年は五パーセント以下に落下したり、五〇封度以下の軌條産額率も一九一九年の一二パーセントに對し昨年は約五パーセントに減少したり

輕軌條の用途は絶へざるべし

重軌條を必要とせざる鑛山其の他の地方に於ける用途大なるが爲め五〇封度以下軌條の産額は現在率前後を持続するもの見らる、過去四ヶ年間に於ける産額率の平均は總額の約五パーセント四分の三を算せり

附表には一九一三年以來の鋼軌條の産額並に輸出入記録を示せり、自一九一五年至一九二〇年、年輸出高は、生産高の平均二〇パーセント以上を示せるも最近五ヶ年間に於ける平均は僅々約七パーセントに過ぎず

附表 合衆國の鋼軌條産額 (英噸)

年次	産額總計	輸出額	産額に對する輸出入割合		封度別軌條の總産額に對する百分比			
			輸出額	輸入額	五〇封度以下	五〇―八〇封度	八〇―九〇封度	九〇封度以上
一九一三	三,五〇二,七〇〇	四六〇,五五三	一三・一五	一〇,四〇八	七・七三	二七・六	六四・六七	
一九一四	一,九四五,〇九五	一七四,六八〇	八・九八	三,七七一	二・二六	一五・九三	四〇・六三	二七・一八
一九一五	二,一〇四,一〇三	三九一,七六二	一七・七七	七,八五五	一・五三	二二・五一	三三・七〇	三三・二六
一九一六	二,八五四,五二八	五四〇,三四九	一八・九三	二六,二九	一〇・三五	一九・八六	四二・九二	二六・八七
一九一七	二,九四四,六一	五〇〇,四三九	一七・三四	九,二六三	一〇・四七	二九・九八	三三・六二	二五・九三
一九一八	二,五四〇,八九二	四三,五六六	一七・八五	八,七〇五	一五・五五	二六・一八	三四・九五	二二・三三
一九一九	二,一〇三,八四三	六五,三四九	二九・六一	一七,〇〇八	二・九七	二二・四九	四三・八一	二二・七三
一九二〇	二,六〇四,一六	五九四,六三四	二二・八三	四三,六八四	一八・七八	一六・六四	三六・五八	二八・〇〇
一九二一	二,一七八,八八	三三,一〇七	一四・七八	三,〇四八	九・七一	九・八七	四一・四三	三八・九九

昭和三年の世界石炭産額減少

一九二八年に於ける世界の石炭産額は合衆國鑛山局の調査に依れば概算一、四四四、〇〇〇、〇〇〇噸に達し、一九二七年の一、四七〇、〇〇〇、〇〇〇噸に比し約二パーセントを減じたり一方之を一九二六年の一、三六五、〇〇〇、〇〇〇噸に比すれば殆んど六パーセントの増加を見たるが同年に於ける英國の産炭額は本年の約半数に過ぎざりしなり(英國の炭坑夫罷業は一九二六年―譯者)

一九二八年世界産炭額の減少二六、〇〇〇、〇〇〇噸は殆んど全部亞米利加産炭額の減少に歸するものなり、其の他の國に就て見るに、英國は前年より約六パーセントを減じたるが、獨逸は褐炭に於て一〇パーセ

一九二二	二,一七一,七六六	二七九,一〇五	一三・八五	二六,六八	一三・三三	一三・六五	三三・五五	四一・五七
一九二三	二,一九四,五六	二六七,四〇九	九・二一	二九,七〇五	九・三九	一〇・三六	二九・七八	五〇・四七
一九二四	二,四三三,三三三	二〇八,八九	八・五六	四三,三五七	七・八五	八・七六	三五・〇八	四八・三二
一九二五	二,七八五,二五七	一五,六九〇	五・四四	三,八七一	五・八七	七・八九	二七・四八	五八・七六
一九二六	三,二二七,六四九	一八七,七六〇	五・八四	六,二七六	六・一三	七・九六	二四・七九	六二・二二
一九二七	二,八〇六,四八六	一七五,五三九	六・二六	一六,一四五	五・七六	六・一八	一九・三三	六八・八四
一九二八	二,六四七,四三三	一八九,四六一	七・二六	一五,一七五	五・〇七	四・七五	一七・五八	七二・六〇

合衆國商務省及加奈陀統計局の報ずる自動車並に貨物自動車の生産高次の如し

米國の自動車産額と鋼消費高

統	計		三		月		三		ヶ		月	
	一九二九年	一九二八年	一九二九年	一九二八年	一九二九年	一九二八年	一九二九年	一九二八年	一九二九年	一九二八年	一九二九年	一九二八年
英	四、七〇〇	一〇、七四八	一四、四九〇	一四、五四八	一、一〇七	三、三三八	一、九二九	五、五二九	一、一〇七	三、三三八	一、九二九	五、五二九
英領印度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
獨逸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
和蘭	二、四六五	一、九二九	九、九〇五	五、五二九	—	—	—	—	—	—	—	—
加奈陀	—	五九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
佛蘭西	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
白耳義	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
諾威	一五六	—	二五七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
瑞典	一一一	五〇	三三八	一四五	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	三三	三一	九七	一二〇	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	八、五七二	一六、一五五	四〇、九七九	三三、六六九	—	—	—	—	—	—	—	—

合衆國鉄鐵國別輸入額

其の他諸國に於ては千五百萬噸に達せる國を見ず

合衆國	五一七
英國	二四二
獨逸	三一七 (内褐炭一六六)
佛蘭西	五二
波蘭	四一
日本	三四
日本文	三四
露西亞	三四
チエコスロバキヤ	三六 (内褐炭二一)
白耳義	二七・五〇
英領印度	二二
加奈陀	一六

ントを増し著しき増加を示したり一九二八年に於ける主要産炭國の生産高次の如し(單位百萬噸)

一九二九年一月	二月	三月	第一三ヶ月	合衆國	加奈陀	計
四〇〇、六九五臺	四七五、三七三	五八四、七三三	一、四六〇、八〇一	二一、五〇一臺	三二、二八七	四二二、一九六臺
"	"	"	"	三二、二八七	四〇、六二一	五〇六、六六〇
"	"	"	"	九三、四〇九	一、五五四、二一〇	六二五、三五四

本年第一三ヶ月間の生産高は昨年と同期（一、〇〇七、二七四）に比し五四・三パーセントを増加したり、一九二三年中の産額は、四、一八〇、四五〇臺を算し當時のレコードを作れるが昨一九二八年中産額四、六〇一、一四一臺は近來の最高レコードたり本年三月の生産高を日産高に割出せば一日二萬百七十三臺を製出せり一方一九二八年に於ては鋼生産高の一八パーセントを自動車工業に消費せるが本年第一三ヶ月間に於ては其の二一・六パーセントを自動車工業に消費したり

以上 アイアン、エーダ 一九二九年五月二日

一九二八年澳太利石炭産額

瀝青炭	二〇二、〇九八噸
褐炭	三、二六七、六三一噸

一九二八年中佛蘭西の鐵鋼實産額

銑鐵	鋼塊及鑄物	銑鐵	鋼塊及鑄物
一九二八年(最大レコード)	一九二七年	一九二八年(最大レコード)	一九二七年
一〇、〇九九、〇〇〇噸	九、三二六、〇〇〇噸	九、三二六、〇〇〇噸	八、三〇六、〇〇〇噸
九、三八七、〇〇〇噸	八、三〇六、〇〇〇噸	八、三〇六、〇〇〇噸	七、五五、六〇〇噸
以上 一九二九年三月十五日	アイアン エンド コール、ツレイドレビウ		

四月中英國の鐵鋼産額

倫敦五月十三日發電、四月の銑鐵産額は六一一、三〇〇噸鋼塊及鑄物八〇八、六〇〇噸に達せり、從來の比較左表の如し

銑鐵	鋼塊及鑄物	銑鐵	鋼塊及鑄物
一九一三年月平均	八五五、〇〇〇噸	一九一三年月平均	六三八、六〇〇
一九二〇 "	六六九、五〇〇	一九二〇 "	七五五、六〇〇
一九二二 "	四〇八、五〇〇	一九二二 "	四九〇、一〇〇
一九二三 "	六二〇、〇〇〇	一九二三 "	七〇六、八〇〇

一九二四	六〇九、九〇〇	六八五、一〇〇
一九二五	五一九、七〇〇	六一六、四〇〇
一九二六	二〇三、五〇〇	二九六、七〇〇
一九二七	六〇七、八〇〇	七五八、二〇〇
一九二八	五五〇、九〇〇	七一〇、四〇〇
一九二九年一月	五六三、九〇〇	七六一、六〇〇
二月	五一九、六〇〇	七八二、九〇〇
三月	五九〇、五〇〇	八五九、九〇〇
四月	六一一、三〇〇	八〇八、六〇〇

米國の鋼塊産額増大

亞米利加鐵鋼學會の報ずる所に依れば四月の鋼塊産額は四、九三八、〇二五噸に達し三月の五、〇五八、二五八噸に比し稍々減少せるも三月の産額を除いては、最高レコードたり、詳細は次表の如し

亞米利加の平爐及轉爐鋼塊實産額 (英噸)

前年に於て鋼塊九四・五一パーセントを産出せる主要會社の報告

年次	平 爐	轉 爐	總ての會社の産額總計	作業日數	日産額概算
一九二八年一月	三、七三、二九四	四九八、六九一	三、九〇、九〇二	二六	一五三、四九六
二月	三、〇〇、四〇七	五二一、二五〇	四、〇三、四五七	二五	一六一、七八
三月	三、六九、六四八	五六七、三三〇	四、五〇、七二七	二七	一六六、九三四
四月	三、五五、一〇四	五六四、一一〇	四、三〇、五、三八二	二五	一七二、二五
四ヶ月計	一三、七七一、四五三	二、一五一、三八一	一六、八四六、九五八	一〇三	一六三、五三三
五月	三、五九、三〇一	五八二、二二八	四、二〇、七、二二二	二七	一五五、八三三
六月	三、〇一〇、三四一	五二八、一九三	三、七四三、九〇三	二六	一四三、九九六
七月	三、〇六八、二五七	五二八、五八八	三、八五、五九八	二五	一五二、三四
八月	三、三七九、六三五	五六九、七七一	四、一七八、六一〇	二七	一五四、七三三
九月	三、三七五、六五四	五四四、七二〇	四、一四七、八九三	二五	一六五、九六六
一〇月	三、七九五、八〇〇	五九九、〇九八	四、六四九、九六八	二七	一七二、三二一
十一月	三、四四二、一一一	五九〇、六六九	四、二六六、八三五	二六	一六四、一〇九
十二月	三、三〇一、一四四	四九六、六七九	四、〇一八、二〇八	二五	一六〇、七八

年計	一九二九年一月	二月	三月	四月	四ヶ月計
	四〇、五八、六五七	三、六九四、二二八	三、五九九、三四	四、一八三、八六九	一五、五〇三、八八七
	六、五九、二二七	五、四九、六二六	四、八九、二七九	五、六、六九一	二、二七五、九七
	四九、八六五、一八五	四、四〇、三五四	四、三六、〇〇〇	五、〇五八、二五八	一八、八二、六三七
	三二	二七	二四	二六	一〇三
	一六〇、三三	一六六、三〇九	一八〇、二五〇	一九四、五四八	一八、六四七

備考 本年三月以前の數字は全部修正せるもの
 以上 アイアン・エーダ 一九二九年五月十六日

蘭領東印度の滿俺鑛輸出 (一九二六—一九二八年)

アイアン、エンド コール レッド レビウ 一九二九年四月二十九日

シヤバ Djocjakarta に於ける鑛山の滿俺鑛産額は逐次増加しつつあり其の輸出額次の如し

一九二六年	一一、七六六噸
一九二七年	一五、二八五噸
一九二八年 (七ヶ月間)	一八、一四二噸

昭和三年佛蘭西の燃料産額

アイアン・エンド コール トレード レビウ 一九二九年四月十二日

	一九二八年	一九二七年
石炭	五、一、三六五、九二七噸	五、一、七七九、三三三噸
褐炭	一、〇六三、六九一噸	一、〇六七、三六五噸
該炭	四、三九九、九三二噸	四、〇五五、九〇〇噸
特許燃料	四、〇六三、八三八噸	三、九〇五、八〇六噸

昭和三年佛蘭西の鐵鋼材輸出入

アイアン エンド コール トレード レビウ 一九二九年四月五日

次表は一九二八年に於ける佛蘭西の鐵鋼材輸出入噸數を示す (佛噸)

品別	輸 入	輸 出
鐵 銑	四〇、三七九	六二六、五五七
鐵 合 金	一八、六八八	一〇、二七七

鋼塊	五〇	五二、七九一
牛成	一四、八三六	二、五四〇、七〇〇
特殊鋼	五、九八八	二、二二四
線材	二九六	二四八、二三〇
フ板	四、二三六	一二二、二一九
厚板	七、六一八	二四六、八五二
鉢力板	一五、一九八	二二、五七六
ワイヤ	三、二三七	六七、二三一
軌條	三、九四五	三八二、二七六
車輪、軸其他	一、〇四八	二〇、四五四
發條	一二三	五、七四一
鑄物	三、九九二	二八〇、九二八
建築材料	四、一五二	二二四、八九六
ワイヤーネール	七一	八、九八六
チユーブ	九、一七九	九一、五三七
屑	六〇、一五四	三六五、八七七

鐵石	一九三、一九〇	五、三二一、三五二
滿鐵礦石	九九八、二九六	一七、〇五五、四二〇
鐵礦石輸入内譯次の如し	七三八、二二六	三、二一四
白耳義ルクセンブルグより	五八〇、七二三	
西班牙	一九四、一二五	
アルゼリア	一七、六四〇	
チュニシア	一一〇、九一六	
伊太利	二一、六一三	
瑞典	六、五六八	
獨逸	一、五四六	
其他	六五、一六五	
滿鐵礦石の輸入内譯次の如し		
英領印度より	二六七、〇九五	
其他の亞細亞諸國より	四二、四六三	
アラジルより	四三、一七一	

西班牙より 一三、二四一〃
 露西亞より 一一〇、四一〇〃
 英領西部阿弗利加より 七八、四四四〃
 其他の諸國より 一八三、四〇二〃

鋳力板輸入の内譯次の如し
 英國より 一三、六三三〃
 其他より 一、五六五〃

鐵鑛石輸出の内譯次の如し
 獨逸へ 三、一九四、一六〇〃
 白耳義ルクセンブルクへ 一二、七四三、六五三〃
 和蘭へ 九三〇、二七八〃
 英國へ 一七二、三〇四〃
 其他の國へ 一五、〇二五〃
 英國へ 五〇、六八四〃
 白耳義ルクセンブルクへ 二二九、四一五〃

銑鐵の輸出内譯次の如し

獨逸へ 一八二、七〇八〃
 伊太利へ 五三、一六六〃
 瑞典へ 六八、一五〇〃
 其他の國へ 四二、四三三〃

半成品の輸出内譯次の如し

白耳義ルクセンブルクへ 五四五、九四三〃
 英國へ 四九七、〇〇〃
 獨逸へ 六九八、四七一〃
 瑞西へ 一九一、二三三〃
 アルセリアへ 六七、三一五〃
 伊太利へ 七七、五五六〃
 其他の國へ 四六三、一八二〃

軌條輸出内譯次の如し

白耳義ルクセンブルクへ 一七、〇一三〃
 日本へ 二九、〇四四〃
 獨逸へ 七六、六五六〃

層の輸出内譯次の如し

英國	へ	一一、〇〇一	噸
其他の國	へ	二四七、五六一	噸
伊太利	へ	二〇五、九七八	噸
白耳義ルクセンブルク	へ	五六、二五一	噸
其他の國	へ	殘額	

昭和三年合衆國の石炭輸出額 (英噸)

無煙炭	一九二八年	一九二七年
瀝青炭	二、九七九、二一四	二、九六、二〇三
骸炭	一四、四三二、三七六	一六、〇八一、九一四
バンカー炭	九八〇、〇五九	七二〇、二三六
	三、八三四、一二八	四、〇七六、一四一
輸出先次の如し		
加奈陀	へ	一一、四六〇、八三九
		一三、〇三〇、六二二

ニューファウンドランド ドラブラダーへ	七三、八四二	六〇、九八三
英領西印度へ	一八三、二二二	一六二、二七七
佛領西印度へ	一三七、五一一	一三七、二九一
アルゼンチンへ	三二、二九〇	二一〇、七三〇
ブラザルへ	一五四、二八一	三七四、七四〇
エザプトへ	三九、七四五	六三、七七八
佛國へ	二〇、六三七	一〇六、八二三
伊太利へ	二〇四、一五七	三二一、一二〇
其他の歐洲諸國へ	一一、七六九	二七九、六六二

昭和三年加奈陀の鐵鋼産額

一九二八年末現在操業高爐數八基、其の合計日産額能力三、〇七五噸、休止中の高爐三基其の合計日産額能力一、〇五〇噸を算せり
 鉄鐵及鋼塊産額次の如し (英噸)

鉄	一九二八年	一九二七年
鐵	一、〇三七、〇〇〇	七〇九、〇〇〇

鋼塊及鑄物	一、二四〇、二一四	九〇七、六三八
內鹽基性平爐鋼塊	一、一七九、三三二	
電氣鋼塊	九、三六三	
其他の鋼塊	八、〇六六	
鹽基性平爐鋼鑄物	二〇、七〇六	
ベセマー鋼鑄物	二、〇四一	
電氣鋼鑄物	二〇、六八六	

昭和三年獨逸の鐵鋼、石炭、鑛石輸出入 (佛聰)

次表は一九二八年に於ける獨逸の鐵鋼其他の輸出入を示す(因に一九二七年の輸出入額を参照の爲めに示せば鐵鋼輸入二、八九六、七六四噸機械輸入六〇、八二七噸、鐵鋼輸出四、五三三、一二六噸機械輸出四五八、四三八噸)

品目	一九二八年輸入額	一九二八年輸出額
石炭	七、四〇五、四八三	二三、八九五、一二八
褐炭	二、七六七、五七一	三二、九四六

骸炭	二六二、四六七	八、八八五、二七二
石炭ブリケット	一一、六八八	六七七、三〇九
褐炭ブリケット	一五四、〇八八	一、六八六、二五六
鐵鑛石	一三、七九四、四四八	一七九、一四八
滿俺鑛石	二八四、二四〇	八二三
紫鑛石	七八六、三八二	三〇六、八六七
黃鐵鑛	一、〇八四、三三八	三六、八六六
銑鐵	三〇四、九七五	二五四、七〇五
鐵合金	一、四五二	四〇、三〇一
層鑄物	三五四、四四四	三一〇、四七五
鑄物	八六、六三〇	二四二、七八〇
アルミビレット	二八九、一三〇	四七〇、七一五
棒形	八八六、三四〇	一、一三一、三六五
厚板・薄板	一〇〇、〇六二	四二二、一一一
鋳力板	二四、八九八	三四、七八九
ワイヤ	一二四、七〇一	四一八、一一二

管	四三、二四〇	三三八、〇七八
軌條及枕木	一〇五、七一四	四六五、七七一
車輪・車軸	六五八	六〇、二一八
フォージングス	三〇、八一五	二〇二、七六六
建築材料	九、五〇二	五三、九二四
ボイラー	二、四七一	八一、四七二
農具	一、四四一	三九、九一七
器具	二、三一	四五、二三八
鐵道材料	八、四七三	二三、三八九
ホールト、リベット	三、九三八	四五、〇〇〇
線材	四、二九二	一一五、三〇〇
ワイヤーネール	一、〇七九	六五、二〇九
其他	一〇、八六九	一六八、二七〇
鐵鋼合計	二、三九七、四三五	五、〇二九、九〇五
機械	六九、三三七	五三八、〇二六

石炭輸出の内譯次の如し(賠償勘定を含む)

和蘭	六、六九〇、〇四三	越
佛蘭西	三、三〇八、三〇四	〃
白耳義	四、一一二、三二二	〃
伊太利	四、五六八、一五八	〃
チエコスロバキヤ	一、四五一、四四一	〃
瑞西	四四五、九九五	〃
アルゼリア	三七四、五九二	〃
瑞典	二六二、〇四三	〃
澳太利	一八四、八〇六	〃
其他	殘額	
鉄鐵輸出の内譯次の如し		
白耳義	九三、〇五三	越
ザール地方	二三、六二五	〃
瑞典	三七、四二一	〃
瑞西	二五、一五二	〃

層鐵の輸出内譯次の如し

伊 太 利 へ
 チエコスロバキヤへ
 其 他 へ
 一〇五、三二四噸
 一三四、五二〇〃
 殘

半成品の大部分は英國に輸出せられたり(三八五、七三八噸)軌條、枕木、フアスニング等の鐵道材料の大部分は和蘭(四七、三二〇噸)英領南阿(一〇〇、六九〇噸)及び英領印度(五七、五八四噸)へ輸出せられたり

和蘭へ輸出されたる品目次の如し

シ ヨ イ ス ト
 厚 板 六三、八七七噸
 一〇六、三六五〃
 棒 三五、六一〃
 管 三〇一、五二九〃
 二六、六一八〃

英國へ輸出されたる品目次の如し

棒 七五、七九二噸
 フ 一 三八、七九一〃
 厚 板 三六、九〇〇〃

アルゼンチンへ輸出されたる品目次の如し

管 七六、一六八〃
 三二、五四四〃
 棒 三六、八二三噸
 八六、六七二〃
 管 五二、九七一〃
 三五、四六九〃

日本に輸出されたる主なる品目次の如し

半 成 品 二八、〇三九噸
 鐵 道 材 料 二三、五八七〃
 棒 二九、五一一〃
 管 八二、八二七〃

合衆國へ輸出されたる品目次の如し

棒 三一、六五一噸
 管 二四、八五三〃

支那へ輸出されたる品目次の如し

鐵道材料 二五、〇八七噸

管 三〇、二〇一噸

ブラヂルへ輸出されたる品目次の如し

鐵道材料 二二、一六二噸

棒 二二、九五二噸

ワイヤー 二六、八六一噸

一月中佛蘭西の鐵鑛石産額

本年一月中の鐵鑛石産額は客年十二月の四、〇四二、一五七噸に對し四、五三五、二八二噸に達せり、山のストックは同月中二、七二九、八二六噸より二、六八三、〇八四噸に減少したり

昭和三年アルゼリアの鐵鑛石輸出高

一九二八年に於けるアルゼリアの鐵鑛石輸出高は一九二七年の二、三八二、二四二噸に對し二、一一〇、五四七噸に達せり内、六四七、四七五噸は Oran 縣より、四四九、七〇三噸は Alger 縣より一、〇一三、

三六九噸は Constantine 縣より來れるものなり

昭和四年自一月至四月合衆國鐵鋼材輸出入 (英噸)

統	計	輸 出			
		一 月	二 月	三 月	四 月
銑	鐵	三、七六九	四、一一八	四、〇八三	七、六三一
滿	俺	一六八	四二	五二三	八六
屑		五〇、七五三	二一、五五二	三六、〇六二	四二、六二一
ブルーム、ピレット		一、九〇一	七七五	五、〇三一	六、四四一
ス	ケ	二、八一九	四、二四九	六、四三二	一一、三七七
線	材	四、四一一	三、五三九	四、五八八	四、五五一
棒		二五、五〇二	二〇、八二九	二八、〇一〇	二四、〇四七
厚	板	一七、三八五	一八、九六五	三三、〇四二	三三、七三八
亞鉛引薄板		一六、四二三	一七、六六九	一三、九七八	一四、四〇四
鋼	薄板	一三、四六五	一八、六四九	一	一
鐵	薄板	一、〇〇三	一、一七五	一	一

厚板、薄板	建築用形物	軌條、繼目板	線材	アリューム、スラプ	層	フエロシリコン	滿俺鐵	銑鐵	鋼鑄物	鐵鑄物	車輪及車軸	鑄鐵管	合 計 (掲ゲルモ ノチ含ム)	輪 入
九〇〇	九、四七〇	七一	一、一八三	一、七一一	七、二〇七	四四六	一六、一〇八	一六、二九九	一、四四四	一、一八一	二、八一八	二、二五七	二七四、二九六	
一、九〇五	九、〇一七	七四三	五九五	一、八四一	八、五二四	一	三、三二五	一六、二九九	一、三三九	一、二七〇	一、五七九	二、四二〇	二五九、七一	
二、一四七	一一、三〇二	一五七	一、三六五	一、六八一	六、四六三	九六七	六、〇九五	八、五七二	二、一〇七	二、一〇七	三、二九三	三、八〇二	二七〇、九二五	
二、二八八	一一、三〇〇	一三	一、三三九	二、六一〇	七、五八四	六三六	七、三七二	六、六九三	一、七九八	一、七九八	一、七四五	二、四七〇	二七七、五六〇	

ホールトナツト	其他の釘	ワイヤネール	棘線	素線	鍛鍊パイプ備品	銻接パイプ	オイルラインパイプ	チユーパー	スワッチ其他	レールフアスニンク	鋼軌條	加 工	素 材	建築材料	試力板	フ ー
一、四一一	八九四	一、四九八	六、五二九	三、八四五	一、一三五	一〇、三四四	一六、三三〇	一、五二四	二、六二七	一七、八八三	一〇、七四二	一七、二五九	二六、三八七	六、八九一	二六、三八七	六、八九一
一、二七九	二、三〇四	二、三〇四	五、六四二	五、四九八	一、〇九三	一二、〇九六	一八、九九一	一、八一八	二、七八五	一六、一四九	一四、六九〇	二一、五三三	二六、六八七	六、七四〇	二六、六八七	六、七四〇
一、七二六	三、二〇三	三、二〇三	七、四七六	五、三四一	一、〇六八	一三、八二九	一二、三五一	一、七五四	二、六八六	一一、二七七	八、〇六七	二四、六八五	二四、四七八	八、六六〇	二四、四七八	八、六六〇
一、二八一	二、四七八	二、四七八	五、八三九	四、一四六	一、一五一	一一、六一六	九、四七九	一、五六五	三、四〇八	二一、三六九	七、一五七	二〇、七九〇	二五、九九一	八、〇五九	二五、九九一	八、〇五九

棒	三、三七三	三、〇八六	二、〇八四	三、七三六
フーブ 其他	一、一八二	一、五三六	一、〇二二	二、六六四
チユーブ (Wrought)	二、六五九	四、八〇七	三、八二三	二、五六五
釘 其他	七〇八	五五八	一、七〇四	一、九二〇
鑄鐵 管	二、七六〇	三、六四八	四、五〇二	一、七七八
合計 (掲ゲザルモノヲ含ム)	五四、七九三	五八、一四六	五二、六六二	五四、三三七
滿 俺 鑛 石	一五、三四四	二〇、八二〇	一八、〇八九	三〇、五七七
鐵 鑛 石	一八〇、三〇八	二四〇、九三四	二四四、一六三	二八四、八四一
マゲネサイト	二、六一六	一	一、七六六	四、一二一

昭和四年自一月至四月佛蘭西鐵鋼材輸出入 (廳)

鋼	輸入	二月	輸入	三月	輸入	四月		
	輸出	二月	輸出	三月	輸出	四月		
鐵 銑	二、〇六六	四七、〇七七	三、八六一	四一、二五一	二、八三六	三、七四八	二、五〇一	四〇、四九〇
鐵 合 金	八〇六	五七八	六七二	五五五	一、四五〇	三六八	一、七九〇	七三三
塊	三	四、一九四	三	三、二六八	三	三、〇九七	一	六、五九八

半成品 其他	一、〇四五	一九三、二五〇	二、〇八一	一八六、三五四	二、〇六六	一、五六、〇九〇	一、四七三	一八〇、三三〇
特 殊 鋼	九四五	二七一	八八九	三〇八	九一六	二六一	九一〇	四八五
線 材	六一	二六、〇一六	一七三	一七、六〇〇	一六〇	一六、九六四	一七九	一七、七六八
フ ー ー プ	四六五	八、八九〇	四四三	七、八四五	四七一	七、一四二	五三三	七、〇九二
厚板、薄板	一、三九七	一九、一八八	一、三〇八	一三、〇七四	一、二三八	一四、七三三	一、七二二	二二、七四〇
鉄力板 其他	一、七二二	三、〇七六	二、〇七九	一、九〇〇	一、四五八	二、五〇一	三、〇八五	二、三三三
ワイヤ	三二五	四、九六三	二六三	四、七六九	三六六	四、六三三	四八〇	五、二七〇
軌 條	五四三	三三、三五〇	一六八	二八、三六六	二〇五	二六、二九〇	四五四	三一、八七一
車輪、車軸	二六	一、八〇四	四七	一、九四〇	一一	一、七九二	五一	二、一一六
發 條	一一	三三三	一	三三五	八	四〇一	一一	四八五
鑄 物	八七五	一六、七三七	五四四	二五、六七七	九九一	一五、一六二	八四七	二一、九二六
建築材料	二九八	二八、三六三	一九七六	一六、六三五	二、八七二	一四、五四一	一、四八二	二〇、一九三
ワイヤネール	一	六三四	三	九三四	五	七九二	四	八四〇
チユーブ	一、一五七	五、三九一	一、一九四	五、三三四	一、三九一	六、〇九六	二、二二四	五、九六〇
屑	四、四九五	四〇、三九一	一、五七四	一六、四八六	一、二九五	二七、一五三	三、一〇一	三七、八六六
計	一六、一〇一	四二四、五二六	一七、二七八	三三二、一〇一	一七、七七五	三三五、四四七	二〇、七四六	三九五、〇七四
鐵 鑛 石	一六、九六六	一、三三〇、五〇六	二四、三六四	一、四八一、三〇一	九七、二八四	一、三九一、三九七	七五、五三七	一、三三六、八七七

昭和四年自一月至四月獨逸の鐵鋼材輸出入(噸)

品名	一月		二月		三月		四月	
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
石炭	六三、五三六	一、九〇九、六五七	四四、六〇〇	一、三〇七、三七七	五五八、二七五	二、二四〇、四七五	五六二、四八九	二、三五五、〇六八
褐炭	二二八、六四一	二、九七八	二二四、三〇〇	四、一九九	二七二、四二〇	三、九六八	二五三、五三四	二〇七
骸炭	二六、九四九	七九七、七八	三三、二八九	六二七、五九九	三七、二九二	八四五、四九六	二七、一九四	八八一、一五六
石炭ブリケット	九八〇	三六、三五七	一、六五八	四八、六二八	二、一〇一	六〇、五六三	三〇〇	七二、三三九
褐炭ブリケット	八、〇四三	一四五、七三三	九、四三九	一五三、二七三	一三、二二五	一六〇、六六八	一一、〇一九	一四八、六九八
鐵鑛石	一、二〇一、八三三	八、七三二	四六三、六七七	六、三三八	一、〇二四、四〇四	九、九四〇	一、四三三、三九八	九、六二二
滿侖鑛石	二元、二三八	六一	三、三九一	一一三	二五、五七五	八四	三四、八六五	六〇
紫鑛石	八〇、二七六	一五、八四	二九、〇九一	七、〇九一	五〇、九七九	九、八七三	九一、三四五	二二、六六二
黃鐵鑛	八八、四三六	三、七四七	二四、六四一	二、三七七	七九、二五三	二、〇〇五	一〇七、八二二	五、〇〇一
銑鐵	一三、二六九	二八、四七五	一〇、五三六	一七、三六七	一一、三七一	二二、三〇三	一一、四五二	三〇、五六三
鐵合金	六五	三、三四五	五九	三、四九四	二三	四、七八七	二七八	五、三四一
屑	一四、七三九	四三、一五四	一一、二一〇	三三、一七四	一七、六六六	二〇、二七三	三四、四二四	一四、七五八

鑄物	四、四九九	二〇、五六二	三、七八二	一六、六九〇	三、九二六	一三、〇六九	七、〇五五	二六、一四五
アルーム、ピレット	三六、六二五	三三、〇〇八	八、七二二	一八、四〇二	九、一六七	二四、七二五	七、六五三	六八、一五七
棒形	六、五〇〇	九四、一七八	四五、五二五	六九、九〇二	四七、〇三六	七〇、二〇三	五六、四四八	一五九、一三七
厚板、薄板	六、八二三	三六、三四	七、四九二	三、五七七	六、三五五	三四、三〇七	五、五〇九	六一、〇三三
鉄力板	一、九三九	一、八七九	二、〇六九	一、四八二	一、八九八	一、六九六	一、八五七	四、五四二
ワイヤー	九、〇〇二	四三、一六八	八、一八〇	三、二二二	九、六九九	三六、四五六	八、二二二	六五、一六二
チューブ	二、七三九	二二、九三三	一、四一一	二〇、一四二	一、六七六	三〇、二六一	二、六五	四二、六三六
軌條及枕木	一一、五八六	二二、七五五	七、五八二	二二、三二〇	九、一三八	一六、七二六	一一、〇六八	四四、一〇七
車輪、車軸	五四	四、〇〇二	三	二、二六九	五〇	三、六八五	一〇六	七、六四七
フオーゲング	二、二六一	一八、〇四	二、六二六	一六、六二二	二、六八九	一五、五六一	二、六三五	二二、五六九
建築用材	一七七	三、八五四	九七	六、六二〇	一一一	三、五四〇	三三	八、〇九二
ボイラ其他	一八四	七、三七一	六〇	九、八八五	七	七、八一六	八三	八、四一九
農具	一六四	三、五七三	一〇一	四、三九九	一四六	四、五三〇	二五九	五、五二八
器具	三三八	四、六〇八	一九四	三、七九五	一八〇	三、五八五	一五八	四、四八五
鐵道材料	三六四	二、〇一〇	六九九	二、一三七	七四三	一、四八四	六五七	二、七四四
ホルト、リマツト	一五〇	五、一七〇	二四六	二、九五四	一五五	三、七二四	一三〇	三、五七一

ワイヤー品	四八七	九、六六六	三八	七、五三九	五八	九、五三八	四九四	三、二〇五
ワイヤール其他	六五	四、八七〇	六三	四、八二四	六一	五、一六三	四三	七、六三五
其他	七七	二五、七三二	七九	一三、一〇六	八八	一三、八八〇	一、二五三	一五、四五四
鐵鋼合計	一六、六三七	四九、五八九	一一、八三三	三四、三三二	二四、五五五	三四六、二六三	一五四、七〇〇	六九、四〇〇
機械	四、四三七	四七、六七一	四、三三	五、八五七	四、六六九	四七、四五七	五、三一	五三、四六九

昭和四年自一月至四月獨逸の壓延鋼材生産高 (噸)

品名	一月	二月	三月	四月
鐵道材料	一一〇、四九六	九九、四四四	一〇七、二二〇	一三三、〇九五
ユニバーサル平鋼形物 (over 8mm)	一〇〇、一四八	八五、三七二	六九、六五〇	九六、五六三
棒及小形物	二九四、五四一	二四四、六〇八	二六七、二八〇	二六四、三九五
フ	四五、三一五	三七、〇〇九	五四、六八三	四二、七五三
線材	一一一、四四一	一一一、五五八	一〇四、四八五	一一九、二一五
厚板 (4.76mm and over)	八〇、四二一	七六、五八三	八四、四四二	九〇、七五二
薄板 (3 to 4.76mm)	一八、八五一	一六、九三七	一七、一七二	一八、〇三一

力板	八五、二二九	六九、二五四	七二、七五五	八〇、三一
チユ	一、三四九	一〇、七九八	一〇、〇四七	一一、四五四
鐵道車輛材料	八四、四五二	七三、八五三	七三、九六四	七八、八七一
フオーヂンケ	一一、二四二	一一、二三〇	一五、三一三	一四、〇四四
其他の製品	二一、〇九六	二一、四八二	二〇、八九八	二二、三五三
計 (フオーヂを含む)	五、二四三	五、六七三	六、三四八	六、六三六
販賣向半成品	一、〇〇一、八二四	八六四、八〇一	九〇四、二五七	九七八、四七三
販賣向半成品	八七、四五八	六三、六六五	一一二、一三八	一二九、七五一

昭和四年自一月至四月白耳義及ルクセンブルクの鐵鋼材輸出入 (噸)

品名	一月		二月		三月		四月	
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
錫炭	一一、〇八八	一	一一、四三三	二	一一、〇五一	八	一一、九五八	一〇
石炭	七〇、四三九	三三、八六五	七八、七八七	二九、五七六	九七、七五六	三六、九九九	八九、六五五	三三、六三三
骸炭	二六、九三四	六、四七七	一四、五〇七	五、六五七	二七、五〇〇	五、七〇三	二七、四五四	五、五五五

ブリケット	六、二七七	六七、八五五	一〇、一九五	六、一九四	一三、三六七	六三、〇〇四	一八、九三六	六七、三五五
滿庵鑛石	一九、五九六	一	三、七六六	一七二	二六、四四五	一	一八、七八二	二二
鐵鑛石	一、二〇、九五〇	四五、三三〇	一、〇八、八三六	八三、六五四	一、二四六、五四二	六八、八三五	一、〇六、四四四	六六、九八八
銑鐵	五、七五五	七、八〇四	三七、五七一	七、〇六四	五三、九四四	八、八一〇	六〇、二六七	七、一五七
鑄物	四〇九	一、〇七八	四九九	二、一八〇	五四六	三、二〇四	六五	三、七九七
ピレット、ブルーム	三三、六三三	三四、二三八	二〇、五四四	三四、七七〇	一五、五三三	四五、二〇九	二〇、八二四	三五、八四一
特殊棒	四三八	四九九	四四一	一、三八九	五三三	七三八	四三七	三九二
フーブ	二四八	一一、二六八	一七七	一一、三九一	二九八	一三、七四六	三二二	一七、一六一
形	一、〇〇〇	三五、三三三	一、〇五八	三三、〇〇七	九八八	四七、三九六	一、三三〇	五二、〇五七
軌條	一四一	一〇、九七七	一三四	六、一九六	三九九	一四、〇五〇	五八七	一九、六〇二
厚板	八七	二五、九三三	一、二八四	三、九三三	一、二三三	四五、六一〇	一、二五六	五三、四三四
薄板	一、三三六	四、一八〇	一、九六六	八、九四四	二、一四八	五、〇五四	二、五七一	一一、九六七
鉄力板	一、一七九	三三、五三四	七二〇	三七、八七〇	八七一	三四、二四九	九六二	三五、九四一
ワイヤー	四〇七	五五六	六五	二、三三二	一八〇	二、六六八	一一〇	五、〇八五
建築材料	一、二二三	一、四五九	一、〇〇七	三、七六六	一、三三三	四、五九四	一、三三三	五、三三七
チユーブ	六二三	九、九八四	四七五	九、六六六	七五〇	七、七〇〇	六六七	九、五一〇
ネール、ホールト								

一九二八年中加奈陀の鐵鑛石統計

一九二八年中加奈陀の輸入鐵鑛石左の如し

ニューファウンドランドより

歐洲或は北阿より

合衆國より

五八四、〇六九噸

七四、八一七

一、五六三、九八四

其	他	一、六七一	八九、三六一	一、八六一	九〇、一八一	二、〇七一	一四六、六一三	二、四六八	一四八、八四四
層		一三、五五六	二〇、九四二	八、七七五	一六、二二一	一〇、九七四	二七、七六六	一一、九七三	二八、〇六二
合計		九七、三三五	二七六、八三四	六、七七七	二九六、〇三九	九、七六八	四〇七、三九七	一〇五、五三〇	四三五、一六七

シドニー鑛鑪に於ては其の所要鑛石の殆んご全部を自己所有のワバナの諸鑛山より取れるも、又歐洲及北阿より特殊の鑛石を輸入せり、オンテリリオの鑛鑪に於ては全部スーペリオル湖鑛石を使用せり、加奈陀に於ては既に數年間製鐵用の鑛石を産せず然れども同年中約二、六一五噸の鑛石輸出せられたり

昭和四年佛蘭西の鐵鑛石産額と輸出

(施)

產額

一月
二月
三月

四、五三五、二八二
四、〇〇一、四八六
四、四一〇、二八七

(月末現在ストック 二、八〇三、五五六)

(二、八八四、二三〇)

本年最初三ヶ月間の鐵鑛石輸出次の如し

合計

四、一九三、二〇四

内

獨逸へ 六五七、七九六
白耳義及ルクセンブルクへ 三、三二五、七二七
和蘭へ 一七〇、四〇四
英國へ 三九、〇四六
其他の國へ 一三一

昭和四年第一四半期間に於ける瑞典の鐵鋼統計

(噸)

產額

銑鐵及直接鑄物
鍊鐵ブルーム
轉爐鋼塊
平爐鋼塊
坩堝及電氣鋼塊
壓延及鍛鍊鐵鋼材

昭和三年 第一四半期
九七、三〇〇
九、〇〇〇
一五、五〇〇
九四、六〇〇
一八、四〇〇
九八、〇〇〇

昭和四年 第一四半期
一二四、一〇〇
八、七〇〇
二〇、八〇〇
一〇九、五〇〇
二二、四〇〇
一一五、四〇〇

輸入

銑鐵
鐵合金其他
屑
棒、形其他
軌
軾力板
厚板、薄板

二二、一〇〇
五〇〇
一、四〇〇
三八、一〇〇
三、一〇〇
二、七〇〇
一四、一〇〇

八、七〇〇
四〇〇
六〇〇
二〇、三〇〇
七〇〇
一、九〇〇
九、二〇〇

鑄鐵管	二,四〇〇	一,四〇〇
鍊鐵管	四,七〇〇	四,〇〇〇
計	八八,一〇〇	四七,二〇〇

銑鐵	一〇,九〇〇	九,九〇〇
鐵合金	五,七〇〇	二,九〇〇
アイアンスポンヂ	二,六〇〇	二,八〇〇
屑其他	二,八〇〇	二,〇〇〇
インゴット、アルミム其他	四,四〇〇	四,三〇〇
チユーアラック	三,二〇〇	三,七〇〇
棒	一五,八〇〇	一五,三〇〇
線材	六,一〇〇	六,五〇〇
薄板	四〇〇	七〇〇
チユーアラック	一,八〇〇	一,九〇〇
ワイヤ	六〇〇	七〇〇

ネ	一,五〇〇	一,一〇〇
計	五五,八〇〇	五一,八〇〇
鐵鑛石	六八二,〇〇〇	一,四八九,〇〇〇

一九二八年中濠洲の鐵鋼產額

濠洲昨年の鐵鋼產額は減少せり銑鐵總額四一〇、八七三噸の内三〇四、七三三噸はブロークンシル會社の生産に係はり一〇六、一〇〇噸は濠洲鐵鋼會社の生産に係れり尙前者の鋼產額は三四三、二三一噸、後者の產額は六六、八〇〇噸にして合計四一〇、〇三一噸を算したり前者の鋼材產額次の如し

アルミム及ピレツト	三二〇、六一三噸 (一九二七年三五〇、〇〇八)
軌條及建築材料 (on the 28-in. mill)	二二〇、一七七噸 (一一三、二三五)
" (18-in. mill)	八八、七八一噸 (一〇一、三三三)
" (12-in. mill)	三〇、四九三噸 (四二、三二五)
" (8-in. mill)	二四、五七九噸 (二〇、二一七)
(rod mill)	七六、二三五噸 (七八、七五五)
鋼鑄物	二〇、〇九〇噸 (一三、五五九)
直接鑄物	七、一〇〇噸 (一〇、七五二)

兩會社の産額合計は濠洲鐵鋼總産額の九割以上を占む

昭和四年五月迄の英國鐵鋼輸出入統計

(英噸)

輸 入

一九二八年

一月一五月

一九二九年

鐵 鑛 石	一、九四一、三七五	二、二一九、八四〇
黃 鐵 鑛	一二八、四七四	一三八、五一八
滿 侖 鑛	九九、二四六	一〇八、七〇八
屑 (レールを含む)	一二、九一五	一六、五一二
銑 鐵	三〇、三九六	九、一〇八
フオーヂ及鑄物	一、六一一	一、四七八
酸 性	二九、四二四	二三、九二六
鹽 基 性	一一、〇四三	一二、七五五
鐵 合 金		
半 成 品		

備 考
 主なる輸入資源地一九二九年屯
 數順位
 西班牙、アルゼリア、チエニ
 ス、瑞典、挪威。
 西班牙よりの輸入高は約半數
 を占む

インゴット(特殊鋼を含む)	三三、七七九	二一、二六四
線 材	五五、三四三	五〇、六九二
ブルームピレット	五、〇一八	三、三二六
鐵	二八八、〇五〇	二二四、九九四
鋼	二四二、七九九	一五九、七五二
シートバー		
棒、アングル其他	一五一、三〇七	一三七、〇三四
銅 製	三、四〇七	四、八六五
アライト銅棒	八一、七〇二	七五、八四二
鐵 製	六〇、八三八	五四、二〇四
ガーダー	一一、五三七	五、八九七
鐵 道 材 料		
其他の成品	九〇一	一、二六五
特 殊 鋼	一、〇五五	九九八
鐵 鑛 物	四、九七五	五、八四四
鋼 鑛 物		

黑板	一〇、七四六	一四、一一八	
亞鉛引薄板	二九八、二二三	三五六、二五三	
鐵力板	二一六、〇八六	二四一、九二〇	内日本向 一九六〇年 一九六一年
鐵道材料			一〇、八九三〇
軌條 (新)	一九三、〇〇四	一五二、四八四	
枕木及繼目板	四四、五四八	二一、〇一五	
タイヤー及車軸	一〇、〇二四	九、六〇二	
車輪及車軸	一九、三二三	七、〇二三	
其他	三二、一九八	二五、六四八	
計	二九九、〇九七	二一五、七七二	
線	三二、八四〇	三二、五一七	
ワイヤー製品	一八、七三四	二〇、五〇〇	
鑄鐵管	四七、九八四	五八、六八一	
鍊鐵管	一一一、二五二	一三七、七八八	内日本向 一九六〇年 一九六一年
釘及リベット	七、五三〇	八、六二八	三、七二一 六五六
ホールト、ナット其他	一三、一一六	一一、四三六	

昭和四年五月迄の合衆國資源別鑽石輸入高 (英噸)

其他の成品	一、八四八	一、六六一	
特殊鋼	四六七	五六八	
鐵鑄物	二二七	四四四	
鋼鑄物	三四、五五二	三五、〇三九	
ガーダー、ジョイスト其他	一、九二〇、八六五	二、一四八、五五八	
鐵鋼合計 (屑を含む、 鑽石を除く)	二三八、九七一	二四三、三一九	(合計數字中には掲げ ざる項目をも含む)
機械類	以上「アイアン、エンド、 コイル、トレード、レピウ」	一九二九年四月-七月	
資源別	五月	五ヶ月間	
加奈陀	一九二九年 五	一九二九年 一六七	一九二八年 四二、四二三
玖馬	五六、四〇〇	三三、〇〇〇	二六九、九〇〇
智利	一三〇、三二六	一四一、八〇〇	六四六、〇八五
			六二四、七〇〇

西班牙	一三、〇四八	1	三一、四一六	五、二五〇
瑞典	二二、七二三	1	九五、七五一	一九、六一四
佛領アフリカ	二五、八〇〇	三四、三七五	八四、九八〇	一九四、〇二一
其他の國	二七、四七〇	一、八〇五	九五、四八四	二八、七二六
合計	二七五、七六二	二二一、二七〇	一、二二三、七八三	一、〇七九、五二〇

備考 本年五ヶ月間に於ける智利よりの輸入高は總額の約五割三分に相當す

昭和四年上半期合衆國銑鐵產額 (英噸)

一九二七年	一九二八年	一九二九年	
一月	三、一〇三、八二〇	二、八六九、七六一	三、四四二、三七〇
二月	二、九四〇、六七九	二、九〇〇、一二六	三、二〇六、一八五
三月	三、四八三、三六二	三、一九九、六七四	三、七一四、四七三
四月	三、四二二、二二六	三、一八五、五〇四	三、六六二、六二五
五月	三、三九〇、九四〇	三、二八三、八五六	三、八九八、〇八二
六月	三、〇八九、六五一	三、〇八二、〇〇〇	三、六九七、六二八
上半期計	一九、四三〇、六七八	一八、五二〇、九二一	二一、六二一、三六三

七月	二、九五一、一六〇	三、〇七一、八二四
八月	二、九四七、二七六	三、一三六、五七〇
九月	二、七七四、九四九	三、〇六二、三一四
十月	二、七八四、一一二	三、三七三、八〇六
十一月	二、六四八、三七六	三、三〇二、五二三
十二月	二、六九五、七五五	三、三六九、八四六
年合計	三六、二三二、三〇六	三七、八三七、八〇四

備考 年合計中には木炭銑を含ます 一九二八年の木炭銑產額は一四二、九六〇噸を算せり

以上 アイアン、エーザ 一九二九年七月四日

昭和四年上半期合衆國の鋼塊產額 (英噸)

約二千九百万噸に達す

昭和三年に於て鋼塊產額の九四、五一パーセントを生産したる會社の報告	平爐	轉爐	總會社	作業日數	日產額(總會社)
一九二八年	三、二七三、二九四	四九八、六九一	三、九九〇、九〇二	二六	一五三、四九六
一月	三、三〇〇、四〇七	五二一、二五〇	四、〇四三、四五七	二五	一六一、七三八

米國屑鋼、銑鐵及鋼成品價格比較統計

計	一月	二月	三月	四月	五月	六月
一九二九年	三、六九四、二一八	三、五九九、二二四	四、一八三、八六九	四、〇二六、五七六	四、二七六、一八六	三、九九〇、七九八
計	二〇、一七六、〇九五	三、二六一、七〇二	四、四九〇、三五四	四、三二六、〇〇〇	五、〇五八、二五八	四、八八一、三七〇
以上 アイアン	五四九、六一六	四八九、二七九	五九六、六九一	六四〇、三五一	七〇七、四八四	六二二、五八五
エーヂ	二四、七九八、〇七三	二四、七九八、〇七三	二四、七九八、〇七三	二四、七九八、〇七三	二四、七九八、〇七三	二四、七九八、〇七三
一九二九年七月十一日	一六六、三〇九	一八〇、二五〇	一九四、五四八	一八九、九二四	一九五、三〇二	一九五、二五五

市俄古、フィラデルフィヤ及ピツバークに於ける重鋼屑の平均價格は四月の初週に最高點に達し中旬後まで持續したり爾來六月末迄下落を續けたるが四月の平均價格は一九二五年末以來の各月に比し最高位を占む次表は過去十八ヶ月間に於ける屑鋼、銑鐵及鋼成品の比較を示せり

集成價格 (グロス屯當り)

計	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
屑鋼	一七、一二弗	一三、七〇	一三、六五	一三、八一	一三、九〇	一三、五二	一三、一三	一三、七五
銑鐵	二〇、五八弗	一七、六三	一七、七三	一七、六七	一七、四五	一七、二三	一七、一〇	一七、一一
鋼成品(一封度)	二、四六五仙	二、三一一	二、三六二	二、三五九	二、三五〇	二、三四一	二、三二五	二、三四八

製鐵所並民間製鐵會社鐵鋼材生產高月別表

(單位噸)

製 品					普 通 壓 延 鋼 材																	
鋼 片	販 賣 向		計		鋼 板		棒 鋼	形 鋼		軌 條		ワ イ ヤ ロ ツ フ		鋼 管		其 他		計				
	三 年	四 年	三 年	四 年	厚 0.7 耗 以 下			四 年	三 年	四 年	三 年	四 年	三 年	四 年	三 年	四 年	三 年	四 年	三 年	四 年	三 年	
					四 年	三 年																四 年
5,684	167	333	9,309	6,017	2,765	2,155	12,201	14,962	16,139	14,098	14,165	12,692	18,352	20,521	4,807	2,371			3,317	2,749	71,746	69,548
2,700	682	295	8,348	2,995	2,852	2,062	13,036	15,591	15,304	15,525	13,005	11,756	27,690	20,308	4,614	2,066			1,259	3,183	77,760	70,491
2,942	741	538	9,223	3,480	4,355	3,060	14,880	17,106	22,386	20,904	10,226	13,516	28,251	16,055	5,209	1,372			492	3,544	85,799	75,557
3,016	284	1,130	10,458	4,146	3,993	2,489	14,693	15,157	15,628	15,512	19,811	12,717	17,717	15,601	5,967	1,674			532	3,502	78,341	66,652
3,128	405	572	9,245	3,700	4,052	2,652	16,094	15,957	16,704	16,145	14,240	15,117	24,054	15,761	5,314	1,605			624	3,972	81,082	71,209
2,594	393	858	10,494	3,452	3,591	2,593	14,125	15,449	13,702	15,230	9,447	13,405	24,037	19,941	5,130	2,011			608	3,905	70,640	72,534
20,064	2,672	3,726	57,077	23,790	21,608	15,011	85,029	94,222	99,863	97,414	80,894	79,203	140,101	108,187	31,041	11,099			6,832	20,855	465,368	425,991
89				89	8,800	4,877	10,002	10,188	35,236	22,919	6,089	5,343	213	541	309	767	4,566	4,520	496	1,724	65,711	50,879
					11,473	5,978	13,380	13,872	36,998	26,558	6,973	6,945	110	233	400	912	5,436	4,921	1,007	2,076	75,777	61,495
67				67	12,340	6,248	14,103	11,833	39,070	28,788	7,984	7,084		227	270	550	5,883	6,079	1,932	1,698	81,582	62,507
					13,777	7,066	15,954	11,851	38,423	28,696	9,989	8,135		643	182	793	6,049	5,890	1,823	1,829	86,197	64,903
				21	10,701	6,085	12,005	12,675	37,059	29,429	9,024	8,703	264	551	448	855	7,145	6,069	1,639	1,651	78,285	66,018
						7,230		14,079		31,622		7,020		657		765		5,474		1,796		68,643
156				156		37,484		74,498		168,012		43,230		2,852		4,642		32,953		10,774		374,445
20,220		3,726		23,946		52,495		168,720		265,426		122,433		111,039		15,741		32,953		31,629		800,436

アイアン、エーザ 一九二九年七月四日

製鐵所並民間製鐵會社鐵鋼材生產高月別表

(單位噸)

月次	銑鐵		普通鋼						半製品						普通壓									
			塊		鑄鋼		計		販賣向 壓延鋼片		販賣向 シートバー		計		鋼板		棒鋼		形鋼		軌			
	昭和 四年	昭和 三年	四年	三年	四年	三年	四年	三年	四年	三年	四年	三年	四年	三年	四年	三年	四年	三年	四年	三年	四年	三年	四年	
																								厚0.7 以下
製鐵所	1	71,893	71,188	106,874	85,114	342	227	107,216	85,341	9,142	5,684	167	333	9,309	6,017	2,765	2,155	12,201	14,962	16,139	14,098	14,165	12,692	18,35
	2	64,093	64,495	106,000	86,359	380	184	106,380	86,543	7,666	2,700	682	295	8,348	2,995	2,852	2,062	13,036	15,591	15,304	15,525	13,005	11,756	27,69
	3	69,447	74,800	116,697	95,728	408	175	117,105	95,903	8,482	2,942	741	538	9,223	3,480	4,355	3,060	14,880	17,106	22,386	20,904	10,226	13,516	28,25
	4	69,732	71,678	111,490	97,346	446	301	111,936	97,647	10,174	3,016	284	1,130	10,458	4,146	3,993	2,489	14,693	15,157	15,628	15,512	19,811	12,717	17,71
	5	68,718	69,755	116,079	91,344	368	295	116,447	91,639	8,840	3,128	405	572	9,245	3,700	4,052	2,652	16,094	15,957	16,704	16,145	14,240	15,117	24,05
	6	64,497	67,158	104,091	93,806	335	331	104,426	94,137	10,101	2,594	393	858	10,494	3,452	3,591	2,593	14,125	15,449	13,702	15,230	9,447	13,405	24,05
	計	408,380	419,074	661,231	549,697	2,279	1,513	663,510	551,210	54,405	20,064	2,672	3,726	57,077	23,790	21,608	15,011	85,029	94,222	99,863	97,414	80,894	79,203	140,10
民間製鐵所	1	19,606	17,011	61,352	48,140	2,480	2,897	63,832	51,037		89				89	8,800	4,877	10,002	10,188	35,236	22,919	6,089	5,343	21,00
	2	19,212	16,488	69,286	55,887	3,463	3,783	72,749	59,670							11,473	5,978	13,380	13,872	36,998	26,558	6,973	6,945	11,00
	3	20,993	18,900	75,008	58,943	3,472	4,431	78,480	63,374		67				67	12,340	6,248	14,103	11,833	39,070	28,788	7,984	7,084	21,00
	4	21,563	19,024	76,795	60,590	4,040	4,070	80,835	64,660							13,777	7,066	15,954	11,851	38,423	28,696	9,989	8,135	21,00
	5	26,415	20,138	76,746	61,839	4,439	4,169	81,185	66,008	21				21	10,701	6,085	12,005	12,675	37,059	29,429	9,024	8,703	26,00	
	6		19,294		62,223			4,058	66,281								7,230		14,079		31,622		7,020	21,00
	計		110,855		347,622			23,408	371,030		156				156		37,484		74,498		168,012		43,230	21,00
合計		529,929		897,319			24,921	922,240		20,220		3,726		23,946		52,495		168,720		265,426		122,433	21,00	

備考 本表中ニハ滿、鮮ヲ含マズ
東洋製鐵會社並九州製鋼會社ノ生産高ハ製鐵所ニ含ム

金合期及費算表

年	月	日	種別	金額	合計
1937	1	1	現金	100.00	100.00
1937	1	15	現金	50.00	150.00
1937	1	31	現金	20.00	170.00
1937	2	1	現金	30.00	200.00
1937	2	15	現金	40.00	240.00
1937	2	28	現金	10.00	250.00
1937	3	1	現金	20.00	270.00
1937	3	15	現金	30.00	300.00
1937	3	31	現金	10.00	310.00
1937	4	1	現金	20.00	330.00
1937	4	15	現金	30.00	360.00
1937	4	30	現金	10.00	370.00
1937	5	1	現金	20.00	390.00
1937	5	15	現金	30.00	420.00
1937	5	31	現金	10.00	430.00
1937	6	1	現金	20.00	450.00
1937	6	15	現金	30.00	480.00
1937	6	30	現金	10.00	490.00
1937	7	1	現金	20.00	510.00
1937	7	15	現金	30.00	540.00
1937	7	31	現金	10.00	550.00
1937	8	1	現金	20.00	570.00
1937	8	15	現金	30.00	600.00
1937	8	31	現金	10.00	610.00
1937	9	1	現金	20.00	630.00
1937	9	15	現金	30.00	660.00
1937	9	30	現金	10.00	670.00
1937	10	1	現金	20.00	690.00
1937	10	15	現金	30.00	720.00
1937	10	31	現金	10.00	730.00
1937	11	1	現金	20.00	750.00
1937	11	15	現金	30.00	780.00
1937	11	30	現金	10.00	790.00
1937	12	1	現金	20.00	810.00
1937	12	15	現金	30.00	840.00
1937	12	31	現金	10.00	850.00

本表は、昭和十三年一月一日から昭和十三年十二月三十一日までの期間の現金の増減を示すものである。金額は、すべて円と角に示す。右記の通り、現金の総額は、昭和十三年十二月三十一日現在、八百五十円である。



年	月	日	種別	金額	合計
1937	1	1	現金	100.00	100.00
1937	1	15	現金	50.00	150.00
1937	1	31	現金	20.00	170.00
1937	2	1	現金	30.00	200.00
1937	2	15	現金	40.00	240.00
1937	2	28	現金	10.00	250.00
1937	3	1	現金	20.00	270.00
1937	3	15	現金	30.00	300.00
1937	3	31	現金	10.00	310.00
1937	4	1	現金	20.00	330.00
1937	4	15	現金	30.00	360.00
1937	4	30	現金	10.00	370.00
1937	5	1	現金	20.00	390.00
1937	5	15	現金	30.00	420.00
1937	5	31	現金	10.00	430.00
1937	6	1	現金	20.00	450.00
1937	6	15	現金	30.00	480.00
1937	6	30	現金	10.00	490.00
1937	7	1	現金	20.00	510.00
1937	7	15	現金	30.00	540.00
1937	7	31	現金	10.00	550.00
1937	8	1	現金	20.00	570.00
1937	8	15	現金	30.00	600.00
1937	8	31	現金	10.00	610.00
1937	9	1	現金	20.00	630.00
1937	9	15	現金	30.00	660.00
1937	9	30	現金	10.00	670.00
1937	10	1	現金	20.00	690.00
1937	10	15	現金	30.00	720.00
1937	10	31	現金	10.00	730.00
1937	11	1	現金	20.00	750.00
1937	11	15	現金	30.00	780.00
1937	11	30	現金	10.00	790.00
1937	12	1	現金	20.00	810.00
1937	12	15	現金	30.00	840.00
1937	12	31	現金	10.00	850.00

本表は、昭和十三年一月一日から昭和十三年十二月三十一日までの期間の現金の増減を示すものである。金額は、すべて円と角に示す。右記の通り、現金の総額は、昭和十三年十二月三十一日現在、八百五十円である。

年	月	日
1929	1	1
1929	1	2
1929	1	3
1929	1	4
1929	1	5
1929	1	6
1929	1	7
1929	1	8
1929	1	9
1929	1	10
1929	1	11
1929	1	12
1929	1	13
1929	1	14
1929	1	15
1929	1	16
1929	1	17
1929	1	18
1929	1	19
1929	1	20
1929	1	21
1929	1	22
1929	1	23
1929	1	24
1929	1	25
1929	1	26
1929	1	27
1929	1	28
1929	1	29
1929	1	30
1929	1	31

33 際
34 聯
71 盟
07 統
24 計
28 月
... 報
... に
... 依
... る

日本銀行の報告書
1929年1月1日
...



日本銀行報告書

年	月	日
1929	1	1
1929	1	2
1929	1	3
1929	1	4
1929	1	5
1929	1	6
1929	1	7
1929	1	8
1929	1	9
1929	1	10
1929	1	11
1929	1	12
1929	1	13
1929	1	14
1929	1	15
1929	1	16
1929	1	17
1929	1	18
1929	1	19
1929	1	20
1929	1	21
1929	1	22
1929	1	23
1929	1	24
1929	1	25
1929	1	26
1929	1	27
1929	1	28
1929	1	29
1929	1	30
1929	1	31

日本銀行の報告書
1929年1月1日
...

各國鐵鋼及石炭月別生產統計

(單位 千佛匙)

年次	鐵										鋼 (鋼塊及鑄物)									
	日 本	英 國	白 耳 義	佛 蘭 西	ザ ー ル	獨 逸	ル ン ク ア プ セル	瑞 典	加 奈 陀	合 衆 國	日 本	英 國	白 耳 義	佛 蘭 西	ザ ー ル	獨 逸	ル ン ク ア プ セル	瑞 典	加 奈 陀	合 衆 國
1913月平均	20	869	207 ^(b)	434	114	1,397 ^(a)	212 ^(c)	61 ^(f)	85	2,592	20	649	206 ^(b)	391	173	1,467 ^(a)	101 ^(c)	62 ^(f)	88	2,564 ⁽ⁱ⁾
1924 "	68	619	237 ^c	641	112	953	180	43	50	2,614	92	696	240	575	124	820	157	46	55	3,117
1925 "	93	530	212 ^c	708	121	841	197	36	48	3,058	108	625	212	621	132	1,016	174	43	64	3,737
1926 "	94	208	281 ^c	786	135	803	213	39	64	3,277	126	305	278	703	145	1,028	187	44	66	3,794
1927 "	107	617	309 ^c	777	148	1,092	228	35	60	3,036	140	770	307	692	158	1,359	206	43	77	3,675
1928 "	126	560	325 ^c	841	161	984	231	33	88	3,167	155	722	328	783	173	1,210	214	50	105	4,222
1928... 4月	...	572	313	834	156	1,045	227	29	76	3,237	...	654	305	738	161	1,161	203	42	115	4,374
5月	...	601	329	871	164	1,044	234	33	89	3,337	...	765	325	794	170	1,248	215	57	120	4,275
6月	...	573	321	843	157	1,021	230	29	99	3,131	...	721	329	797	172	1,295	215	43	118	3,804
7月	...	546	324	836	160	1,035	225	26	97	3,121	...	678	320	751	173	1,311	208	43	84	3,867
8月	...	527	329	858	161	1,031	234	23	93	3,187	...	659	342	793	175	1,329	224	54	90	4,246
9月	...	512	325	822	158	985	231	31	92	3,110	...	730	331	757	162	1,190	209	46	101	4,214
10月	...	552	344	857	169	1,016	236	39	95	3,428	...	768	356	834	190	1,306	229	56	111	4,725
11月	...	553	331	850	169 ^(h)	267	229	45	97	3,356	...	775	340	800	178 ^(h)	357	213	66	110	4,335
12月	...	549	345	882	167	883	234	40	105	3,424	...	694	333	828	175	1,091	218	50	105	4,083
1929... 1月	...	573	351	905	169	1,033	242	44	89	3,498	...	777	357	837	183	1,470	225	47	118 ^(g)	4,562
2月	...	528	302	781	147	982	209	42	95	3,258	...	787	302	742	161	1,270	195	56	119	4,395
3月	...	600	334	880	174	1,061	237	38	88	3,774	...	874	349	804	179	1,314	221	59	139	5,139
4月	...	621	336	871	178	1,105	235	42	81	3,721	...	822	342	818	186	1,415	226	59	124	5,017
5月	...	665	348	897	186	1,133	248	47	83	3,961	...	857	340	819	187	1,421	230	70	128	5,358

(單位 千佛匙)

年次	石												炭			
	英 國	白 耳 義	チ ス ー ロ キ コ バ ヤ	佛 蘭 西	獨 逸	和 蘭	波 蘭	加 奈 陀	南 阿	印 度	日 本	合 衆 國	澳 太 利	チ ス ー ロ キ コ バ ヤ	獨 逸	匈 牙 利
1913月平均	24,337 ^(e)	1,903	1,174 ^(f,g)	3,338 ^(b)	15,842 ^(a)	156 ^(d)	748	1,119	665 ^(h)	1,311 ^(c)	1,776	43,088	218 ^(f)	1,928 ^(f,g)	7,269 ^(a)	460 ^(f)
1924 "	22,617	1,947	1,265	3,668	9,897	490	2,690	762	944	1,716	2,509	43,213	232	1,705	10,386	529
1925 "	20,590	1,925	1,047	3,921	11,052	571	2,423	719	983	1,693	2,622	43,988	253	1,551	11,644	460
1926 "	10,692	2,102	1,214	4,285	12,108	717	2,979	974	1,038	1,703	2,619	49,729	246	1,589	11,596	485
1927 "	21,272	2,296	1,222	4,315	12,800	777	3,174	1,028	1,006	1,790	2,797	45,197	256	1,669	12,542	520
1928 "	20,129	2,295	1,264	4,228	12,573	891	3,383	1,036	1,014	1,805	2,650	43,025	273	1,726	13,852	543
1928... 4月	18,500	2,223	1,119	4,053	11,715	832	2,981	878	918	1,909	2,566	35,468	240	1,695	12,263	431
5月	19,994	2,228	1,165	4,162	11,932	874	3,060	1,072	1,041	1,930	2,719	40,594	246	1,567	12,964	452
6月	19,260	2,378	1,152	4,374	11,833	894	3,192	1,122	1,040	1,624	2,608	37,434	236	1,561	13,241	473
7月	18,423	2,220	1,198	4,172	12,483	921	3,248	1,077	1,035	1,308	2,569	36,968	245	1,629	13,531	473
8月	18,651	2,249	1,356	4,359	13,021	927	3,416	1,205	1,104	1,784	2,401	43,536	363	1,741	14,330	515
9月	19,154	2,175	1,334	4,179	12,157	876	3,401	963	1,058	1,890	2,436	42,943	268	1,759	13,616	557

7月	...	546	324	836	160	1,035	225	26	97	3,121	...	678	320	751	173	1,311	208	43	84	3,867
8月	...	527	329	858	161	1,031	234	23	93	3,187	...	659	342	793	175	1,329	224	54	90	4,246
9月	...	512	325	822	158	985	231	31	92	3,110	...	730	331	757	162	1,190	209	46	101	4,214
10月	...	552	344	857	169	1,016	236	39	95	3,428	...	768	356	834	190	1,306	229	56	111	4,725
11月	...	553	331	850	169 ^(h)	267	229	45	97	3,356	...	775	340	800	178 ^(h)	357	213	66	110	4,335
12月	...	549	345	882	167	883	234	40	105	3,424	...	694	333	828	175	1,091	218	50	105	4,083
1929...1月	...	573	351	905	169	1,033	242	44	89	3,498	...	777	357	837	183	1,470	225	47	118 ^(g)	4,562
2月	...	528	302	781	147	982	209	42	95	3,258	...	787	302	742	161	1,270	195	56	119	4,395
3月	...	600	334	880	174	1,061	237	38	88	3,774	...	874	349	804	179	1,314	221	59	139	5,139
4月	...	621	336	871	178	1,105	235	42	81	3,721	...	822	342	818	186	1,415	226	59	124	5,017
5月	...	665	348	897	186	1,133	248	47	83	3,961	...	857	340	819	187	1,421	230	70	128	5,358

(單位 千佛瓊)

年次	石				炭								褐炭			
	英國	白耳義	ナスイ エロキ コバヤ	佛蘭西	獨逸	和蘭	波蘭	加奈陀	南阿	印度	日本	合衆國	埃太利	ナスイ エロキ コバヤ	獨逸	匈牙利
1913月平均	^(e) 24,337	1,903	^(f,g) 1,174	^(b) 3,338	^(a) 15,842	156	^(d) 748	1,119	^(h) 665	^(c) 1,311	1,776	43,088	^(f) 218	^(f,g) 1,928	^(a) 7,269	^(f) 460
1924 "	22,617	1,947	1,265	3,668	9,897	490	2,690	762	944	1,716	2,509	43,213	232	1,705	10,386	529
1925 "	20,590	1,925	1,047	3,921	11,052	571	2,423	719	983	1,693	2,622	43,988	253	1,551	11,644	460
1926 "	10,692	2,102	1,214	4,285	12,108	717	2,979	974	1,038	1,703	2,619	49,729	246	1,589	11,596	485
1927 "	21,272	2,296	1,222	4,315	12,800	777	3,174	1,028	1,006	1,790	2,797	45,197	256	1,669	12,542	520
1928 "	20,129	2,295	1,264	4,228	12,573	891	3,383	1,036	1,014	1,805	2,650	43,025	273	1,726	13,852	543
1928...4月	18,500	2,223	1,119	4,053	11,715	832	2,981	878	918	1,909	2,566	35,468	240	1,695	12,263	431
5月	19,994	2,228	1,165	4,162	11,932	874	3,060	1,072	1,041	1,930	2,719	40,594	246	1,567	12,964	452
6月	19,260	2,378	1,152	4,374	11,833	894	3,192	1,122	1,040	1,624	2,608	37,434	236	1,561	13,241	473
7月	18,423	2,220	1,198	4,172	12,483	921	3,248	1,077	1,035	1,308	2,569	36,968	245	1,629	13,531	473
8月	18,651	2,249	1,356	4,359	13,021	927	3,416	1,205	1,104	1,784	2,401	43,536	363	1,741	14,330	515
9月	19,154	2,175	1,334	4,179	12,157	876	3,401	963	1,058	1,890	2,436	42,943	268	1,759	13,616	557
10月	21,445	2,413	1,300	4,607	13,311	961	3,848	1,089	1,067	1,770	2,680	53,446	306	2,054	15,226	663
11月	20,969	2,328	1,255	4,387	12,141	892	3,770	1,049	1,062	1,398	2,603	48,532	303	1,893	14,548	633
12月	19,842	2,175	1,220	4,089	11,819	846	3,449	958	977	1,602	2,890	45,002	291	1,715	14,105	634
1929...1月	22,792	2,454	1,342	4,425	13,490	⁽ⁱ⁾ 980	4,039	950	952	1,865	2,720	53,336	315	1,943	14,817	671
2月	21,397	2,115	1,294	4,094	12,104	841	3,295	1,016	977	2,068	2,545	48,934	307	1,670	13,689	607
3月	22,949	2,393	1,508	4,562	13,502	936	3,808	1,257	993	2,201	2,915	40,271	333	2,087	14,727	624
4月	21,206	2,243	1,341	4,558	13,407	945	3,734	1,264	1,057	2,067	2,738	39,307	278	1,979	14,226	528
5月	21,021	2,122	1,250 ^(j)	4,425	12,759	955	3,395	1,143	1,137	2,067	...	44,132	251	1,743	13,669	...

國際聯盟統計月報に依る

備考
 a.....ルクセンブルクを除く、1918以降アルサスロレーヌを除く。1919年以降ザールを除く 1922年以降波領上部シレジアを除く
 b.....1919年以降アルサスロレーヌを含む
 c....."CrOupement des Industries Siderurgiques" 所報
 d.....現在領地
 e.....波領上部シレジアを除く
 f.....Ekonomisk oversikt. 所報
 g.....1928年に於て總産額の94.51パーセントを産したる諸工場
 h.....鐵鋼業ロツクアウト
 i.....鑄物を除く
 j.....日本の鉄鐵は朝鮮滿洲を含む

備考
 a.....1919年以降アルサスロレーヌ及ザールを除く。1922年以降波領上部シレジアを除く
 b.....1919年以降アルサスロレーヌを含む
 c.....英領土のみ
 d.....現在領地—1921年迄波領上部シレジアを除く
 e.....販賣向石炭—1922以降愛蘭を除く
 f.....現領地
 g.....1925末迄販賣向石炭
 h.....賣却せる石炭
 i.....Schlamm を含む
 j.....褐炭を含む

鐵鋼の部

石炭の部